禁電子式複写

0035407000

0035407-000

CZ－543－06

健康保険法規集

工政研究会・編

工政研究会

昭和１１年版

昭１１

AGD

健康保險法規集

昭和十一年版

工政研究會編纂

納本

QZ
543
06

序

健康保險事業は、工場その他の事業に働く少額所得者に對し、療養又は分娩上の懸念なからしめ、それ等の爲休業の際は手當金を支給する等、勤勞者にとりて唯一の資本とも言ふべき健康の保持と、生活の安定を圖ることに依り產業能率を增進し、以て國家の興隆に寄與するのがその眼目である。

この事業は我が國に於ける社會保險の先驅であつて、開始以來早くも十年を閲し、その間幾多の艱難に遭遇して來たのであるが、幸にして關係者各位の理解と協力に依つて、順調に運用せられ着々成績を擧げてをることは、洵に喜ばしき次第である。

さりながら本制度は未だ完全とは言ひ得ないのであつて、今後の改善に俟つものが少くない。又健康保險の精神と其の手續が關係者に十分知られてゐない爲、本事業の圓滑なる遂行を妨げてをるのは否み難いことである。こ

れは實に遺憾なことであつて、將に來らんとする國民健康保險制度の基礎工作として考へて見ても、ます〳〵本事業の完璧を期せなければならぬ必要がある。

之等の點に鑑み一層法規の周知徹底に資するため、今回工政研究會に於て健康保險法規集を編纂せられたのは洵に適切有意義なる企である。その內容を通覽するに、普く關係諸法規を統一し、逐條的に公認解釋を蒐錄し、尙願屆その他の書式を網羅し且條文內容一覽表を附する等親切周到な編纂振りで、關係者を裨益すること大なるものあるを信じその勞を多とすると共に、實務者必携の良書として、敢て汎く推薦する次第である。

昭和十一年六月

靜岡縣健康保險課長
田中年雄

14.7-759

はしがき

輓近法律の民衆化が喧しく呼ばれてゐるが未だ徹底せざるやの憾なしとせず、特に比較的民衆的法律たる社會法に於て一層其の感を强うするものである。

時代の潮流、社會の進展に伴ひ國民生活の安定を圖る爲め農業保險法、國民健康保險法等制定の機運に向ひつゝある秋に當り、工政研究會に於て現行健康保險關係法規を蒐集編纂することは意義深きことゝ考へる。殊に同法は工業從業員の生活に密接な關係を有し其の普及徹底することに依つて圓滑なる運用を期し得るものと信ずる。玆に工場主、事業主竝從業員諸君に敢へて本書を薦めむとする次第である。

本書の刊行に當り內務省前產業福利協會發行に係る參考書に負ふところが多い。其の發行代表者蒲生俊文氏からも御助言を戴いた。また本縣健康保險課長田中年雄氏からも序文を寄せられた。共に深く謝意を表する次第である。なほ法令の蒐集、編纂、校正等の仕事に就いては健康保險課の大貫英雄、工場課の堂森領平兩君を煩はした事が多大であつた。玆に特記する。

昭和十一年六月十五日

靜岡縣警察部工場課內
工政研究會
林　德欽

凡例

一、本書ハ總テ現行ノ健康保險關係法規ノ徹底的履行、周知ナラシムル爲メ關係諸法規ヲ統一シ逐條的ニ解釋シ以テ實際家ノ執務上又健康保險關係者ノ座右必備ノモノタラシムル

一、本書ノ解釋ハ主トシテ疑義ニ對スル主務監督廳タル內務省社會局ノ回答竝通牒ニ從ヒタル所謂「公認解釋」ナリ

一、解釋文中健康保險署長又ハ健康保險署トアルハ昭和四年八月一日以降ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）道府縣廳（東京府ニ在リテハ警視廳）ヲ指スモノトス

一、解釋文ノ下ニ「（法何條）」、「（施行規則何條）」、「（施行令何條）」ノ如ク記載セルハ參照法文ヲ示シタルモノニシテ其ノ「法」トアルハ「健康保險法」、「施行令ト」アルハ「健康保險法施行令」、「施行規則」トアルハ「健康保險法施行規則」ノ略稱ナリ

一、本書ハ誤見ヲ防ギ記憶ヲ容易ニシ且檢索ヲ自由ナラシムル爲メ各條文中各項ノ頭ニ2

3等ノ數字ヲ附ス

一、附錄ニ健康保險法關係願屆事項ヲ掲ゲ且健康保險法令內容一覽表ヲ附セルハ專ラ執務上ノ便宜ヲ思ヒタルニ外ナラス

一、參考書

社會局編纂　健康保險法規疑義事項解釋
産業福利協會發行

同　健康保險組合事務取扱例規集

社會局編纂　健康保險時報

昭和十一年六月

編者識ス

健康保險法規集

健康保險法

第一章　總　則……一
第二章　被保險者……一九
第三章　保　險　者……四〇
第四章　保險給付……四八
第五章　費用ノ負擔……一〇三
第六章　審査ノ請求訴願及訴訟……一一四
第七章　罰　則……一一六

健康保險法施行令

第一章　總　則……一二一
第二章　被保險者……一三一
第三章　健康保險組合……一三四
　第一節　組合ノ設立……一三四

第二節　組合ノ會議……一三七
第三節　組合ノ役員……一四六
第四節　組合ノ財務……一四九
第五節　組合ノ分合解散……一五六
第六節　組合ノ監督……一六二
第四章　保險給付……一六三
第五章　費用ノ負擔……一八四
第六章　審査ノ請求及訴願……一九〇
第一節　健康保險審査會ノ組織……一九〇
第二節　健康保險審査會ノ審査手續……一九四
第三節　雜則……一九八
健康保險法施行規則
第一章　總則……二〇一
第二章　被保險者……二〇七
第三章　健康保險組合……二一八
第四章　保險給付……二三四
第五章　健康保險法第八十條ノ審査手續……二四四
第六章　罰則……二四七

附則……二四九
其ノ他
○健康保險法第十三條第三號(ホ)ノ規定ニ依ル運送事業ノ指定ニ關スル件……二九九
○健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業ノ指定……三〇一
○健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ノ指定……三〇一
○健康保險ノ被保險者タラサル臨時使用人ニ關スル件……三〇二
○官吏及待遇官吏ハ健康保險ノ被保險者タラサルノ件……三〇四
○政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ガ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及歯科醫師竝藥劑師ニ關スル件……三〇五
○北海道廳健康保險出張所ノ名稱、位置及管轄區域……三〇八
○警視廳及府縣出張所ノ名稱、位置及管轄區域表……三〇九
○健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院ニ關スル件……三一〇
○健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル勅令施行ニ關スル件……三一一
○昭和二年勅令第二百六十八條健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件第一條ノ規程ニ依リ健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院其ノ他ニ準スヘキ醫院……三一八
○健康保險法第十條ノ規程ニ依ル職權委任ノ件……三二〇

○政府ノ管掌スル健康保險ノ保險料率……三一
○健康保險組合ニ備フヘキ被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿ノ樣式……三一
○健康保險組合臺帳閱覽ノ件……三二六
○健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ニ關スル件……三二七
○公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件……三二九
○健康保險組合規約例……三四一
○健康保險審査會ノ名稱位置及管轄區域……三五三
○健康保險審査會職員旅費手當支給規則……三五五
○口頭審問ノ爲健康保險審査會ニ出頭シタル者ニ對スル旅費支給ノ件……三五七
○健康保險特別會計法……三五九
○健康保險特別會計規則……三六三
○健康保險特別會計事務取扱規程……三六六
○保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金滯納處分ノ爲差押ヘタル物品取扱方ノ件……三七三
○健康保險積立金運用規則……三七三
○保險料日額表……三七三
○健康保險法願屆書式……三七八
健康保險法條文內容一覽表……三八〇

健康保険法

健康保險法

（大正十一年四月二十二日法律第七十號）
改正（大正十五年三月二十九日法律第三十四號）
（昭和四年三月二十八日法律第二十號）
（昭和九年三月二十六日法律第十三號）

第一章　總則

第一條　健康保險ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

二、業行修マラザル被保險者ト雖保險者ハ此ノ者ニ對シ保險給付ヲ爲サザルコトヲ得ズ

三、被保險者資格ノ存スル間ハ保險事故アラバ保險給付ヲ爲スベキモノトス　但シ法定日數ノ超過其ノ他ノ特別ノ場合（法第六十條乃至第六十四條、第六十五條第二項ノ場合ノ如シ）ニ於テハ給付ヲ爲サザルコトヲ得（法第四七條、六〇條等）

四、健康保險法ニ依ル給付ト工場法ニ依ル扶助トノ關係

イ　職工ガ業務上ノ事由ニ因ル疾病ニ罹リ又ハ負傷ヲ爲シタル場合ニ於テハ先ヅ健康保險法ニ依リテ療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ヲ爲シ其ノ間ハ工場法ニ依ル扶助ヲ爲サザルモノトス（工場法施行令一三條ノ二）

ロ　職工ガ健康保險法ニ依リ給付ヲ受クル期間ハ工場法ニ依リテ扶助ヲ爲スノ必要ナキモノトス（工場法施行令一三條ノ二）

四、被保險者タラサル者ヲ誤リテ被保險者トシテ取扱ヒタル場合

イ　被保險者タラザル者ヲ誤リテ被保險者ト認メ保險給付ヲ爲シ又ハ此ノ者ニ關スル保險料ヲ徵收シタル場合ニ於テハ保險者ニ於テ給付ニ要シタル費用ハ之ヲ本人ヨリ償還セシメ又徵收シタル保險料ハ請求ニ基キ之ヲ納付者ニ對シ返還スベキモノトス（法一三條等）

ロ　被保險者タラザル者ヲ誤リテ被保險者トシテ取扱ヒタル場合ニ於テハ民法第三編第四章不當利得ニ關スル規定ニ依リ被保險者トシテ取扱ヒタル當時ニ於ケル既ニ納付シタル保險料ハ之ヲ還付シ又既ニ爲シタル給付ハ之ヲ返還セシムベキモノトス而シテ此ノ場合ニ於ケル給付ガ療養ノ給付又ハ產院收容若ハ助產ノ手當ナルトキハ之ヲ金額ニ換算シテ返還セシムベキモノトス（法第一三條等）

五、保險給付ノ請求ト被保險者ノ代理人　健康保險法ニ於テハ被保險者ニ付代理人ヲ認メタル規定ナキヲ以テ保險給付ノ請求ハ本人ヨリ爲スベキモノトス然レドモ現金ノ受領ハ代理人ニ於テ爲スモ支障ナキモノト認メラル

六、臨チプス菌保有者ト保險給付　被保險者チプス菌保有者ト決定セラレ自宅ニ禁足ノ勸告ヲ與ヘラレタルモ未ダ發病セザル場合ハ保險給付ヲ爲スヲ要セザルモノトス（法四三條、四五條）

七、被保險者資格取得屆出前ニ於ケル資格存在當時ノ保險事故ニシテ給付請求權消滅時效完成前ノモノノ給付　被保險者資格取得屆出前ニ於ケル資格存在當時ノ保險事故ニ付テモ保險給付請求權ノ消滅時效完成前ノモノハ給付ヲ爲スベキモノトス（法第四條）

（參照條文）

工場法施行令第十三條ノ二　職工健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

2　職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

3　健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二條

本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

2　賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一、報酬ト公傷病ニ因ル休業扶助料等　法第二條第一項ノ「勞務ノ對償トシテ」トアルハ「勞務ニ服スルガ爲之ガ對償トシテ」ト解スベキ義ニシテ公傷病ニ因ル休業扶助料又ハ產婦扶助料ノ如キハ健康保險ノ所謂報酬ノ範圍ニ屬セザルモノトス（施行令一條、工場法施行令六條）

二、傷病手當金ト報酬トノ關係　傷病手當金ハ健康保險法ニ規定スル報酬ト全然異ルヲ以テ被保險者ガ休業中傷病手當金ヲ受クルコトヲ報酬ヲ受クルコトト同樣ニ認ムルハ違法トス（法第四五條）

三、報酬ノ範圍　健康保險ニ於ケル報酬ニハ恩給ヲ含マザルモノトス

（參照條文）

工場法施行令第　條　職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第三條

報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

2 標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一、標準報酬ト報酬日額トノ異同　法第三條第一項ノ「標準報酬」ト法第四十五條ノ「報酬日額」トハ孰モ標準報酬日額ヲ指ス義ナルガ故ニ傷病手當金ノ額モ標準報酬日額ニ依ルモノトス（法四五條）

第四條

保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

2 前項ノ時效ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時效ニ關スル規定ヲ準用ス

3 命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

一、保險料其ノ他ノ徵收金ノ徵收權消滅時效ノ起算日ハ左ノ如シ（法七九條、施行令一〇〇條、一〇一條）

イ、保險料ニ在リテハ其ノ納期限ノ翌日

ロ、督促手數料ニ付テハ督促狀ニ指定シタル期限ノ翌日

ハ、延滯金ニ付テハ督促狀ニ指定シタル期限前ノ分ハ其ノ期限ノ翌日

ニ、其ノ他ノ徵收金ニ付テハ之ノ徵收スベキ原因タル事實ノ終リタル翌日

二、消滅時效ノ完成セル保險料其ノ他ノ徵收金ヲ納付　時效ハ當事者之ヲ援用スルニ非ザレバ效力ナキモノナルヲ以テ既ニ消滅時效ノ完成セル保險料其ノ他ノ徵收金ト雖事業主又ハ任意繼續被保險者ヨリ納付セバ之ヲ徵收シ差支ナキモノトス

三、被保險者資格得喪屆出遲滯ノ場合　被保險者資格ノ取得又ハ喪失ノ屆出遲滯シ保險者ニ於テ得喪ノ事實ヲ知ラザル場合ニ於テモ既ニ法律上資格ノ得喪アリタル以上保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ノ消滅時效ハ進行スルモノニシテ其ノ消滅時效ノ起算日ハ左ニ依ルモノトス（法七六條）

イ、保險料ニ在リテハ左ノ通

一、法第七十六條第一號ニ該當シタル爲過納又ハ誤納ト爲リタル保險料ニ付テハ傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給決定通知ノ到達シタル日ノ翌日

二、法第七十六條第二號ニ該當シタル爲過納又ハ誤納ト爲リタルモノナルトキハ過納又ハ誤納ト爲リタル日ノ翌日

3、右「1」及「2」以外ノ事由ニ基キ過納又ハ誤納ト爲リタル保險料（卽チ健康保險署又ハ健康保險組合ニ於テ調定ヲ誤リテ過分ニ徵收シ又ハ徵收スベカラザルモノヲ徵收シタル場合ノ如シ）ニ在リテハ其ノ納付シタル日ノ翌日

ロ、保險料以外ノ徵收金ニ在リテハ納付シタル日ノ翌日

五、被保險者タラザル者ヲ被保險者トシテ取扱ヒタル場合　被保險者タラザル者ヲ誤リテ被保險者トシテ取扱ヒタル場合ニ於ケル保險料ノ還付請求權ノ消滅時效ハ法第四條ニ依リテ一年ヲ以テ完成スルモノニシテ之ガ起

算日ハ保險料ヲ納付シタル日ノ翌日トス

六、事業主ガ健康保險組合ヨリ保險料過納分ノ還付ヲ受ケ之ヲ被保險者ニ返還スベキ場合　事業主ガ健康保險組合ヨリ保險料過納分ノ還付ヲ受ケ之ヲ被保險者ニ返還スベキ場合ニ於ケル金額ハ廣義ニ於テハ保險料タルモノトス（法四條、民法一四七條、一五三條）

七、滯納處分請求後保險者ニ於テ直接滯納者ニ對シ請求シタル場合　市町村ニ對シ滯納處分請求後保險者ニ於テ直接滯納者ニ對シ請求シタル場合ハ民法第四十七條及第百五十三條ノ規定ニ依リ時效中斷ノ效力ヲ生ズベキモノトス（法四條、民法一四七條、一五三條）

八、滯納處分ヲ請求シタル後保險者ニ於テ直接滯納者ヨリ請書又ハ誓約書ヲ徵セル場合　市町村ニ滯納處分ヲ請求シ市町村ガ成規ノ手續ニ依リ納期ヲ指定シ督促狀ヲ發付シタル後ニ於テ保險者ヨリ直接滯納者ニ對シ請求ノ結果納入方法ヲ記入セル請書又ハ誓約書ヲ徵シタル時ハ民法第百四十七條第三號ニ規定セル承認ヲ爲シタルモノトシテ時效中斷ノ效力ヲ有スルモノトス

九、保險給付請求權ノ消滅時效ノ起算日

イ、保險給付請求權ノ消滅時效ノ起算日ハ左ニ依ルモノトス

療養費

傷病治癒ノ日ノ翌日（給付期間滿了ノモノニ在リテハ給付期間滿了ノ日ノ翌日）

傷病手當金

支給期日ノ定メアルモノニ在リテハ給付期間滿了ノ日ノ翌日

支給期日ノ定メナキモノ（請求ノ都度之ヲ支給スルモノ）ニ在リテハ勞務可能トナリタル日ノ翌日

給付期間滿了ノ日ノ翌日

支給期日ノ定メアルモノニ在リテハ勞務可能トナリタル日後直近支給期日ノ翌日（給付期間滿了ノモノニ在リテハ給付期間滿了ノ日後直近支給期日ノ翌日）

出產手當金

支給期日ノ定メナキモノ（請求ノ都度之ヲ支給スルモノ）ニ在リテハ產後勞務ニ從事シタル日ノ翌日

（但シ勞務ニ從事セズシテ產後四十二日間ノ期間ヲ經過シタル場合ニ在リテハ四十二日ノ期間滿了ノ日後直近支給期日ノ翌日）

支給期日ノ定メアルモノニ在リテハ產後勞務ニ從事シタル日ノ直近支給期日ノ翌日（但シ勞務ニ從事セズシテ產後四十二日間ノ期間ヲ經過シタル場合ニ在リテハ四十二日ノ期間滿了ノ日後直近支給期日ノ翌日）

分娩費

事故發生ノ日ノ翌日

埋葬料又ハ埋葬費

事故發生ノ日ノ翌日

ロ、傷病手當金ノ請求アリ支給決定通知ヲ爲シタル處其ノ後數箇月ヲ經過スルモ出頭セザルニ依リ調査シタルニ同人ハ支給決定通知後資格ヲ喪失シテ行衞不明ナリ斯カル場合ニ於ケル該請求權ノ消滅時效ハ諸般ノ事實ヲ斟酌シ保險給付支給決定通知書ノ到達シタリト認メラルル日ノ翌日ヨリ起算スベキモノトス尙此ノ場合ニ於ケル時效ハ健康保險法第四條ノ規定ニ依ルモノトス

一〇、被保險者タラザル者ヲ被保險者トシテ取扱ヒタル場合　被保險者タラザル者ヲ誤リテ被保險者トシテ取扱ヒタル場合ニ於ケル保險給付ノ還付請求權ノ消滅時效ハ民法第百六十七條第一項ノ規定ニ依ルモノニシテ之

が起算日ハ左ニ依ルモノトス（民法一六七條）

イ、療養ノ給付ニ付テハ之ヲ爲サザルニ至リタル日ノ翌日

ロ、産院收容ニ付テハ退院シタル日ノ翌日

ハ、助産ノ手當ニ付テハ之ヲ爲サザルニ至リタル日ノ翌日

以上ノ給付ハ執モ金錢ニ換算シテ還付セシムルモノナリ

ニ、傷病手當金、出產手當金、分娩費又ハ埋葬料若ハ埋葬費ニ付テハ給付ヲ爲シタル日ノ翌日卽チ直拂ニ在リテハ小切手ヲ交付シタル日ノ翌日、隔地拂ニ在リテハ支拂ヲ爲シタル日ノ翌日

（參照條文）

民法第百四十七條　時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

一　請求

二　差押、假差押又ハ假處分

三　承認

民法第百五十三條　催告ハ六个月內ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破產手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

民法第百六十七條　債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

2　債權又ハ所有權ニ非サル財產權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五條

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條

健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

一、委任狀ニ貼付スベキ收入印紙

イ、被保險者ガ其ノ受クル健康保險ノ給付金ノ受領方ヲ他ノ者ニ委任シタル場合ニ於ケル委任狀ニハ法第六條ノ規定ノ適用アルヲ以テ收入印紙ヲ貼付スルコトヲ要セザルモノトス

ロ、政府ノ管掌スル保險ノ被保險者ガ保險給付ノ現金ヲ歲出金支拂通知書ニ依リテ受クル場合ニ於テ之ガ領收ヲ他ノ者ニ委任シタル場合ニ於テハ歲出金支拂通知書裏面ノ委任狀ニ貼付スベキ收入印紙ハ法第六條ノ規定ニ依リ貼付ヲ要セザルモノトス

ハ、健康保險組合會ノ會議表決委任狀ハ法第六條ノ健康保險ニ關スル書類ニ該當スルヲ以テ收入印紙ノ貼付ヲ要セザルモノトス

ニ、國庫負擔金受領ヲ委任シタル場合ニ於ケル委任狀ニ貼付スベキ收入印紙ハ法第六條ノ規定ニ依リ貼付ヲ要セザルモノトス

第七條

保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

一、戶籍ニ關シ無償ニテ證明

イ、法第七條ニ依リ戶籍ニ關シ無償ニテ證明ヲ求メ得ベキ事項ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關スル以上ハ單

ニ證明書ヲ請求シ得ル事項ノミニ限ラズ被保險者又ハ被保險者タリシ者ト同一戶籍內ニ在ル他ノ者ノ事項ヲモ含ムモノトス（戶籍法六七條）

ロ、法第七條ニ依リ無償ニテ證明ヲ求メ得ベキ事項ハ戶籍法第六十七條第二項ノ規定ニ依ル事項ニ限ルモノナルヲ以テ無償ニテ戶籍ノ謄本又ハ抄本ノ請求ハ之ヲ爲シ得ザルモノトス（戶籍法六七條）

ハ、法第七條ニ依リ戶籍ニ關シ無償ニテ證明ヲ求メ得ベキ事項ハ戶籍法第六十七條第二項ニ依ル事項（被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ事項ノミニ限ラズ是等ノ者ト同一戶籍內ニ在ル他ノ者ノ事項ヲ含ム）ニ限ルモノナリ故ニ出生屆其ノ他出生ニ關シ市町村長ニ於テ受理シタル書類ニ記載シアル事項ニ付テハ證明ヲ求ムルコトヲ得ベキモ死產ニ關スル事項ニ付テハ證明ヲ求ムルコトヲ得ザルモノトス（戶籍法六七條）

ニ、埋火葬認許證寫ノ下付ハ法第七條ニ依ル戶籍ニ關スル證明ニ該當セザルモノトス

（參照條文）

戶籍法第十四條　戶籍簿ヲ閱覽シ又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

2手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

3市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

4謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

戶籍法第三十六條　戶籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ屆書其ノ他受理シタル書類ハ本籍人及ビ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戶籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

2戶籍ノ記載ヲ要セザル事項ニ付受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス

3日本ノ國籍ヲ有セザル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

戶籍法第三十七條　前條第一項ノ書類ハ一个月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

戶籍法第六十七條　屆出人ハ屆出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

2利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

3第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

4利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第八條

保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシメ其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

一、事業主ノ範圍

イ、健康保險ニ於テ謂フ事業主ニハ鑛山ノ斤先人ヲ含マザルモノトス（法一四條、一九條、二七條、二八條三二條、三五條、七二條、七三條、七五條、七七條、七八條等）

ロ、請負業者ガ其ノ事業ヲ自己ノ統制管理及計算ノ下ニ遂行シ企業上獨立セル場合ハ右請負業者ヲ事業主トシテ取扱フベキモノナルモ（成ルベク勞働者災害扶助法ノ取扱ヲ參考トスルコト）然ラズシテ請負制度ガ勞務供給上ノ一方法又ハ賃金支拂上ノ一形態ト認メラルル場合ニ於テハ右請負業者ヲ事業主トシテ取扱フベキモノニ非ザルモノトス（勞働者災害扶助法第三條）

（參照條文）

勞働災害扶助法　第一條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

一　土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

二　土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壞ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

（イ）國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事

（ロ）鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事

竝ニ此等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物（作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク）ニ關スル注文ニ依ル工事

（ハ）其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三　鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四　船舶ヨリ若ク ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

五　前各號ニ揭グルモノノ外危險ナル事業又ハ衞生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

2主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂鑛ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限リ本法ヲ適用スルコトヲ得

勞働者災害扶助法第三條　前條ノ事業主トハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第二號（ハ）ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サルル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

2前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

3前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條

保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

一、「保險官署」トハ保險ヲ掌ル官廳ヲ謂ヒ社會局長官及各地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）是ナリ、健康保險組合ヲ含マズ

二、「作業ノ場所」ノ意義　法第九條ニ所謂作業ノ場所トハ工場、事業場、其ノ他ノ作業場及其ノ附屬建設物ヲモ指稱スルモノトス

（參照條文）施行規則第六條

第十條

主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

（參照條文）內務省令健康保險法第十條ノ規定ニ依ル職權委任ノ件

第十一條

保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徴收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

2前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滯金ヲ徴收ス

一、滯納處分ヲ市町村ニ請求　保險者ニ於テ保險料ノ滯納處分ヲ市町村ニ對シ請求ヲ爲シ得ルハ納付義務者ガ保險者ニ納付スヘキ保險料ヲ納付期日迄ニ納付セザル場合ニ限ルモノトス故ニ事業主ガ被保險者タリシ者ヨリ得ルコト能ハザリシ保險料ヲ保險者ノ名ヲ藉リ市町村ニ對シ徴收ノ請求ヲ爲スガ如キハ違法トス

二、市町村ニ於テ爲ス保險料ノ滯納處分方法　保險者ノ請求ニ基キ保險料ノ滯納ヲ市町村ニ於テ處分スル場合ニ於テハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ處分スヘキモノナルヲ以テ之ガ方法ハ各市町村ノ定ムル所ニ依ルヘキモノトス

三、督促狀發布後ノ納入　督促狀發布後ノ納入ヲ以テ市町村ニ於テ徴收シタルモノト看做ス

（參照條文）施行令第五條ノ二及施行規則第六條ノ二

第十一條ノ二

前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徴收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ保險者ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ政府ガ保險者ナル場合ニ限ル

2保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徴收金額ノ百分ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ

3前二項ノ規定ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

一、滯納處分ト假差押、假處分トノ關係　假差押又ハ假處分ニ係ル物件ヲ滯納處分ニ依リ公賣ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ賣却代金ノ殘金ハ之ヲ滯納者ニ交付スベキモノニシテ假差押又ハ假處分債權者ニ交付スベキモノニ在ラズ

二、滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲シタル後ニ於ケル差押ノ解除　滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲シタル後ニ於テ必要アル場合ニハ滯納處分ノ執行ニ支障無キ限リ其ノ一部ニ付差押ノ解除ヲ爲スコトヲ得

三、滯納ニ係ル保險料ノ强制徴收ト民事訴訟　滯納ニ係ル保險料ノ强制徴收ハ民事訴訟法ニ依ルコトヲ得ザルモノトス

四、市町村ニ於テ爲ス保險料ノ滯納處分方法　保險者ノ請求ニ基キ保險料ノ滯納ヲ市町村ニ於テ處分スル場合ニ於テハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ處分スベキモノナルヲ以テ之ガ方法ハ各市町村ノ定ムル所ニ依ルベキモノトス

五、市町村交付金ノ基礎　法第十一條ノ二ノ規定ニ依リ市町村ニ交付スベキ金額ハ處分請求金額ノ百分ノ四ニ非ズシテ實際徴收セラレタル金額ノ百分ノ四トス

六、市町村長ノ督促狀發布後ニ納入ガ市町村長ノ指定スル所ト異リタル場合　保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徴收金ノ滯納處分ヲ市町村ニ請求シタル場合ニ於テ市町村長ガ督促狀ヲ發シタル後ニ納入ガ市町村長ノ指定スル所ニ納付シタル場合　保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徴收金ノ滯納處分ヲ市町村長ガ督促狀ヲ發シタル後ニ納入者ガ市町村長ノ指定スル所ニ納付スベキヲ誤リテ歲入徴收官タル（健康保險署長）ノ屬ニ發シタル納入告知書ニ指定スル日本銀行、其ノ支店若ハ代理店ニ納付シ又ハ健康保險組合ノ屬ニ發シタル納入告知書ニ指定ス

ル所ニ納付スルコトアルモ之ハ市町村ニ於テ徴收シタルモノト看做スベキモノナルヲ以テ該納付額ノ百分ノ四ハ市町村ニ交付スベキモノトス

七、保險料滯納處分ノ請求ヲ受ケタル市町村長ガ之ガ處分ヲ他ノ市町村長ニ囑託シテ保險料ヲ徴收シタル場合保險料滯納處分ノ請求ヲ受ケタル市町村長ガ該處分ヲ滯納者ノ財產ノ所在スル市町村ニ囑託シ以テ保險料ヲ徴收セシ場合ト雖モ交付金ハ滯納處分ノ請求ヲ受ケタル市町村ニ交付スベキモノトス而シテ該交付金ヲ右兩方ノ市町村ニ分配スルコトハ當該市町村ノ任意トス

八、町村ニ準ズベキモノノ範圍

法第十一條第一項及第三項（改正法第十一條ノ二第三項）ニ所謂（市）町村ニ準ズベキモノトハ左ノ範圍ノモノヲ謂フ義トス

北海道一級町村制ニ依ル町村

北海道二級町村制ニ依ル町村

島嶼町村制ニ依ル町村

町村制竝前記ノ諸制ヲ施行セザル地ニ在リテハ是等ノ法令ノ規定ニ依ル町村ニ類ズルモノ

第十一條ノ三

保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他ニ準ズベキモノノ徴收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

一、徴收金、督促手數料、延滯金及滯納處分費ト國稅、第三者ノ增保物權間ノ先取特權ノ順位

イ、保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徴收金ノ滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ該徴收金ノ先取特權ハ水利組合、農會、耕地整理組合等ノ徴收金ニ先ツモノトス（國稅徴收法四條ノ二）

ロ、（府縣）ニ於テ健康保險法ニ依ル徴收金ニ付滯納處分ヲ執行シタル場合ニ於テハ右徴收金ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他凡テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徴收ス（國稅徴收法三條、四條ノ二）

ハ、（府縣）ニ於テ滯納處分ヲ執行シタルニ納付義務者ノ財產上ニ質權、抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定ガ健康保險法ニ依ル徴收金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキニハ先取特權ノ順位ハ左ノ通トス（國稅徴收法三條、四條ノ二）

1、督促手數料、延滯金及滯納處分費

2、納期限一年前設定ノ質權、抵當權アル債權（但シ該物件ノ價額ヲ限トス）

3、健康保險法ニ依ル徴收金

二、（府縣）ニ於テ滯納處分ヲ執行シタルニ國稅（府縣、市町村又ハ町村ニ準ズベキモノノ徴收金）ニ付交付ノ要求アリ又納期限ヨリ一箇年前ニ質權又ハ抵當權ノ設定アルコトヲ公正證書ヲ以テ證明セル債權アリタル場合ニ於テハ先取特權ノ順位ハ左ノ通トス（國稅徴收法三條、四條ノ二）

1、健康保險法ニ依ル徴收金ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費

2、國稅（府縣、市町村又ハ町村ニ準ズベキモノノ徴收金）ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費

3、國稅（府縣、市町村又ハ町村ニ準ズベキモノノ徴收金）ノ納期限一年前設定ノ質權又ハ抵當權アル債權（但シ該物件ノ價格ヲ限トス）

4、國稅（府縣、市町村又ハ町村ニ準ズベキモノノ徴收金）

5、健康保險法ニ依ル徴收金

（參照條文）

國稅徴收法第三條　納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定ガ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ說明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セ

ザルモノトス

國稅徵收法第四條ノ一　納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未ダ納期ノ到ラザルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一　國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

二　府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

三　強制執行ヲ受クルトキ

四　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　競賣ノ開始アリタルトキ

六　法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

七　納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二　前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收ベキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、強制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セズ

2　督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、強制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セズ

第十一條ノ四

保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

（參照條文）

國稅徵收法第四條ノ七　納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

2　納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

國稅徵收法第四條ノ八　書類ノ送達ヲ受クベキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第十二條

政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章　被保險者

第十三條

左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

一　工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場

二　鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場

三　左ニ揭クル事業ニシテ常時五人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

（イ）物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業
（ロ）鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
（ハ）電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業
（ニ）地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
（ホ）（ニ）ニ掲クルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

一、強制被保險者ノ範圍

法第十三條ノ規定ニ依ル被保險者中ニハ工場又ハ事業場ノ中附屬建設物及設備卽チ工業的作業ニ直接關係ヲ有スルキ場所ニ使用セラルル者ハ原則トシテ之ヲ含マザルモノトス而シテ工場又ハ事業場ニ於テ使用セラルル者トヲ雖其ノ業務ガ社會觀念上工場又ハ事業場ノ本來ノ作業ト別個ノモノト認メラルル場合ニ於テハ其ノ者ハ被保險者ニアラザルモノトス

イ、日給傭員ト雖主トシテ精神的勞働ヲ以テ事業ノ管理事務ニ從事スル者ハ法第十三條但書ニ所謂「職員」ニ該當スルモノトス（法第一五條）

ロ、被保險者ノ範圍ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場ニ於ケルモノモ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於ケルモノモ同一ナルモノトス

ハ、鑛山内ニ在ル本社ニ使用セラルル者ガ被保險者ト爲ルベキヤ否ヤハ事實問題ニシテ該本社ガ事業場ト別個ノ存立ナリヤ否ヤニ依リ決スベキモノトス（法一五條）

ニ、工場又ハ事業場ニ於ケル本來ノ作業ニ直接關係ナキ者ハ假令一年ノ報酬千貳百圓以下ノ者ト雖被保險者タラザルモノトス（法一五條）

ホ、工場ノ構内ニ於テ營業、庶務會計等ノ業務ニ使用セラルル者ニシテ工場ノ作業ニ直接關係ナキ者ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

ヘ、工場ト同一場所ニ在ル本店ニ屬スル職員給仕及小使ハ被保險者タラザル者ト認メラルルモノトス（法一五條）

ト、工場又ハ鑛山ノ附屬事業タル學校ノ職員、病院醫局專屬病室ニ勤務スル者、寄宿舍ノミニ使用セラル者、附屬農園ニ使用セラルル者、附屬鹽田ニ使用セラル者ノ如キハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

チ、工場ノ構内ニ於テ販賣ニ從事スル職員ハ其ノ販賣所ガ工場ト別個ノ存立ニアラザルモノトセバ被保險者タルモノナルモ然ラザルモノナレバ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

リ、工場内ニ於ケル掃除夫、守衛ノ如キハ原則トシテ被保險者タルモノナルモ保姆、看護婦、寄宿舍ノ舍監及雜夫、物品販賣所ノ賣子及事務員、倶樂部ノ雜夫ノ如キハ被保險者タラザルモノトス但シ是等ノ者ト雖一方工場ニ於テ工場ノ本來ノ作業ニ從事スル場合ニ於テハ原則トシテ被保險者タルモノトス（法一五條）

ヌ、製絲工場ニ勤務スル者ノ中看護婦ハ被保險者タラザルモ炊事婦、電話交換手、門衛、夜警係、布團調製婦、掃除夫ノ如キハ被保險者タルモノトス（法一五條）

ル、製品及材料品ヲ各分工場ノ間ニ運搬スル自動車運轉手、船ノ船頭及船夫ハ被保險者タルモノトス（法一五條）

ヲ、工場ニ於ケル製品ヲ得意先ニ運搬スルノミニシテ工場ノ作業ニ直接關係ナキ自動車運轉手ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

ワ、電燈會社ノ電工ニシテ專ラ外部ニ在リテ電柱及電線ノ架設ニ從事スル者ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

カ、製糖工場附屬ノ蔗園ニ使用セラルル技手又ハ人夫ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

ヨ、製糖工場ニ於ケル原料買收係トシテ常ニ圃場又ハ農家ニ於テ原料ノ買收ニ從事スル者ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

タ、製糖工場ニ於ケル原料運搬用ノ軌道修繕ニ使用セラルル工夫ハ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

レ、工場ノ業務ニ使用セラルルモ常ニ自宅ニ在リテ其ノ業務ニ從事スル者（織物工場ニ於ケル下拂ヲル職部中ノ差入ト稱スルモノノ如シ）ハ被保險者タラザルモノト認メラル（法一五條）

ソ、工場管理人ハ工場ニ使用セラルル者ト雖モ被保險者タルモノトス（法一五條）

ツ、健康保險組合ノ事務員ハ被保險者タラザルモノトス但シ組合ノ事務員タルト共ニ一方組合ノ設立ア事業ノ工場又ハ事業場ニ使用セラルル者ハ被保險者タルモノトス（法一五條）

ネ、職工ガ其ノ妻又ハ子女ヲ常時工場ニ伴ヒ自己ノ手傳トシテ業務ニ從事セシムルトキハ其ノ妻又ハ子女ハ工場ニ使用セラルル者ト雖モ屋外線ノ作業ニモ從事スル場合ハ被保險者タラシムルヲ適當ト思フ、屋內引込線ノ修理ニ從事スル者ト雖モ屋外線ノ作業ニモ從事スル場合ハ被保險者タラシムルヲ適當ト思フ、屋內引込線ノ修理ニ從事スル者ト雖モ屋外線ノ作業ニモ從事スル場合ハ被保險者タラシムルヲ適當ト思

ナ、地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ工場又ハ事業場ニ使用セラルル外國人ハ健康保險ノ被保險者タラザルモノトス（法一五條）

ラ、法第十三條但書ノ「臨時ニ使用セラルル者」ノ中ニハ經常ノ事業ニ臨時使用セラルル者ノミニ限ラズ臨時ノ事業ニ使用セラルル者ヲモ含ムモノトス（法一五條、施行令九條）

ム、勞務供給請負人ガ其ノ供給セラルル者ノ從事スル作業ニ自ラ從事スル場合ニ於テハ一面被保險者タルモノナルガ故ニ被保險者トシテノ保險料ヲ負擔スベキ義務アルモノトス（法七二條、施行令九條）

ウ、法第十三條但書ノ「職員」トアルハ主トシテ精神勞働ヲ以テ事業ノ管理事務ニ從事スル者ヲ謂フモノトス然レドモ實際問題トシテハ職員ト然ラザル者トノ範圍ヲ適確ニ定ムルコト甚困難ナルモノアリ故ニ個々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモノトス（法一五條）

キ、現行ノ健康保險法ニ於テハ職員ガ任意ニ被保險者タリ得ルコトヲ認メタル規定ナシ（法一五條）

ノ、工場ノ業務ニ從事スル者ニシテ其ノ操業ガ性質上職工ノ業務タル以上ハ雇傭關係ガ直接事業主ト職工トノ間ニ存スルト或ハ職工供給請負者、事業請負者等ノ介在スル場合トヲ問ハズ其ノ事業主ノ使用スル職工トシテ健康保險ノ被保險者タルモノトス但シ臨時ニ使用セラルル者ニ關シテハ健康保險法施行令第九條ノ適用アルハ勿論トス（施行令九條）

オ、健康保險法ノ適用アルハ勞務ヲ主トスル現業關係ノミニシテ營業方面ニハ適用無シ從ツテ本社ニ勤務スル職員ハ健康保險ノ被保險者タラザルモノトス

ク、和服裁縫業ニ於ケル作業ガ教授ヲ主トシ之ニ從事スル者ガ職工ト認メラレザルモノハ被保險者タラザルモノトス

ヤ、工場ノ作業時間外ニ工場ノ構內ヲ巡視スル者ハ强制被保險者タルモノトス

マ、斤先人ノ家族ニシテ法律上ノ履行契約ナキ者ト雖モ事業場本來ノ作業ニ從事スルモノト認メラルル場合ニ於テハ鑛業權者ニ使用セラルルモノトシテ健康保險ノ被保險者タルモノトス

ケ、合資會社ノ代表社員又ハ商法第百九條ニ所謂業務執行社員ニ非ザル社員ニシテ且其ノ會社ノ經營スル工場ニ於テ職員トシテ工場ノ作業ニ直接關係アリト認メラルル業務ニ從事スル者ニシテ一年ノ報酬千貳百圓以下ノ者ハ健康保險ノ被保險者タルベキモノトス

フ、屋內引込線ノ修理ニ從事スル者ト雖モ屋外線ノ作業ニモ從事スル場合ハ被保險者タラシムルヲ適當ト思料セラル

二、報酬ノ範圍

イ、法第十三條但書ノ「報酬」モ法第二條第一項ノ「報酬」ト同ジク施行令第一條ニ規定スル範圍ノ報酬ヲ

謂フモノトス健康保險法、同施行令、同施行規則等ニ所謂報酬亦同シ（法第二條、一五條、施行令一條）

ロ、法第十三條但書ノ「報酬千貳百圓」ノ「報酬」トアルハ施行令第一條第一號ノ賞與ヲ含マズ且此ノ報酬ハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ受クル賃金等ヲ謂フモノトス（法二條、一五條、施行令一條）

ハ、法第十三條但書ノ「一年ノ報酬千貳百圓ヲ超ユル職員」トアルハ健康保險ニ於テ謂フ報酬ノ一年ノ額ガ千貳百圓ヲ超ユル職員ヲ指スモノニシテ必ズシモ本人ノ全收入ヲ指スモノニ非ズ（參照條文同前）

三、千貳百圓ヲ超ユル意義　法第十三條但書ノ「報酬千貳百圓ヲ超ユル」トアルハ報酬千貳百圓ヲ包含セザル義トス（法一五條）

四、被保險者ノ資格得喪ト規約ノ規定　被保險者タル資格ノ得喪ハ一ニ健康保險法ノ規定ニ依リ定マルモノニシテ此ノ點ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス（法一五條、一七條、一八條、一九條、二〇條）

五、被保險者資格取得ノ動機　健康保險ノ被保險者ヲ爲ラバ罹レル疾病ニ付無料ニテ入院治療ヲ受クルノ途アリト聞キ工場法適用工場ニ使用セラレ被保險者ノ資格ヲ取得シタリト雖其ノ資格取得ガ眞ニ使用關係ノ成立ニ基キタルモノナリトセバ保險者ニ於テ此ノ資格取得ヲ取消スコトヲ得ザルモノトス

六、「勞働者」ノ意義

イ、第十三條第三號ノ勞働者トハ事業ノ本來ノ業務又ハ之ニ直接關係アル業務ニ付肉體的勞務ニ從事スル者（事業主トノ間ニ履行關係存在セズ且事業主ヨリ賃金ノ支拂ヲ受ケザル事業主ノ家族ヲ含マズ）ニシテ左ニ掲ゲルモノヲ謂フ

1、常傭者

2、常傭ニ非ザル者ニシテ左ニ掲グル者

（1）六十日以內ノ期間ヲ定メテ使用セラレタル者ニシテ所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルモノ

（2）使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラレタル者ニシテ三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルモノ

（3）日日雇入レラルル者ニシテ三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルモノ

（4）季節的業務ニ使用セラルル者ニシテ當初ヨリ繼續シテ百二十日以上使用セラルルコト明カナルモノ

ロ、「常時五人以上ヲ使用スルトハ」ノ意義

常時五人以上ヲ使用スルトハ前號ノ勞働者卽チ被保險者タル勞働者ヲ常態トシテ五人以上使用スルヲ謂フ從テ例ヘバ常傭者三人常傭ニ非ザル者二人ヲ使用スル事業ニ於テ其ノ常傭ニ非ザル者ガ常態トシテ前號（2）ノ各號ノ一ニ該當スル者ナル場合ハ本號ニ該當スルモノトシ然ラズシテ其ノ常傭ニ非ザル者ガ常態トシテ之ニ該當セザル場合ハ本號ニ該當セザルモノト爲スガ如シ又勞働者ヲ使用スルモノナルヲ以テ本號ノ適用ナキモノトス

ハ、「事業」ノ意義

本號ノ事業トハ法ノ精神ニ鑑ミ現場ノ事業ヲ指稱シ現場ト獨立セル本社ノ如キヲ含マズ分說スレバ左ノ如シ

（本號ノ解釋ニ關シ個々ノ場合ニ於テ適用上疑義アルトキハナルベク狹義ニ解シ適當ニ措置スベキモノトス）

（一）物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

1、所謂工場ナルモ小規模輕易ニシテ從來工場法ノ適用ナカリシモノ及其ノ一部適用アリシニ過ギザリ

シモノ並ニ解體ノ事業ヲ指ス

註　本號中物ノ製造、加工、選別、包裝、修理ノ事業トアルハ工場ニ於ケル生產行程ヲ示シ工場ノ概念ヲ分析的ニ記述シタルモノナルヲ以テ之ニ該當スルモノハ所謂小規模輕易ノ工場ナリ

（尙工場ノ意義ニ關スル從來ノ工場法解釋例規ヲ示セバ左ノ如シ）

工場トハ職工ヲ使用シテ製造（原料ト名稱ヲ異ニスル物品ヲ製作スルコト）若ハ加工（原料ト名稱ヲ異ニセザルモ之ヲ變造、修覆、裝飾、精製スルコト）又ハ仕上ゲ、仕別ケ、包裝、荷造（既ニ製造加工ヲ終リタル物品ニシテ單獨ニ又ハ集團的ニ一定ノ形態又ハ外裝ヲ有セシムルコト）等ノ作業ヲ繼續シテ爲スヲ目的トスル一定ノ場所ヲ謂フ（發電、變電及蓄電所ハ直ニ此ノ說明ニ該當セザルモ工場トス）

工場ナルヤ否ヤ疑ハシキモノニ付工場ト工場ニ非ザルモノトヲ區別シタル事例左ノ如シ

A、工場ト認ムベキモノ

（1）船渠及浮船渠

（2）壓搾、紙、層絲、層積ノ選別所

（3）藥品、化粧品等ノ包裝ヲ爲ス獨立ノ工場

（4）映畫撮影所ニ於ケル「フイルム」加工場

（5）私設鐵道ニ於ケル機關車、車輛類ノ修繕工場

（6）送風式爐又ハ自然式爐等ノ設備ヲ有スル塵芥燒却場

（7）製油所、鹽貯藏所等ノ工場的設備ヲ有スル捕鯨事業場

（8）鹽田釜場

B、工場ト認ムベカラザルモノ

（1）建築場但シ大建築ヲ爲ス場合ニ於テ長期ニ渉リ一定ノ設備ノ下ニ材料其ノ他ニ付製

造加工ヲ爲ストキハ其ノ場所ニ限リ又ハ建築場全體ヲ通ジテ工場ト認ムル場合アルベシ

（2）海岸其ノ他ノ場所ニ於ケル露天ノ和船建造場但書前項ニ準ズ

（3）土石ノ採掘場

（4）痲立セル瓦斯又ハ石油ノ貯藏所

（5）養豚所又ハ豚種製造所

（6）屠獸場

（7）鯨　船

（8）浚渫船

（9）商店其ノ他ニ附屬セル荷造場但シ工場ニ附屬セルモノハ工場ノ一部トス

（10）監獄ノ勞役場、養育院又ハ精神病院其ノ他特殊病院ニ於ケル作業場

（11）學校及官公立試驗場ニ於ケル作業場

（12）河原又ハ草野等ニ於ケル晒場但シ工場ニ接續シ又ハ附屬セルモノハ工場ノ一部ト認ムルコトアルベシ

（13）組合員ノミガ使用スル生產組合ノ作業場

（14）鹽田

（15）繭ノ乾燥場

（16）生茶ノ製造場ニシテ農家ノ副業的作業ト認ムベキモノ

（17）通常ノ作業方法ニ依ル木炭製造事業場

解體ノ事業トハ一定ノ形體ニ構成シタル物ヲ解體スル作業ヲ謂フモノニシテ之ニ該當スルモノハ例ヘバ船舶解體ノ事業ナリ

2、工場ノ如キ形態ヲ爲スモ勞働ヲ本體トシテ成立セザル事業例ヘバ學校、刑務所、養育院等ニ附屬スル作業場、工場、官公立試驗所ノ如キモノヲ含マズ私立試驗所ハ獨立シテ學術試驗ノミヲ爲シ又ハ技術者事務員ノミ就業スルモノヲ除キ工場ノ一部ヲ爲ス場合又ハ工場組織ニシテ常時職工ヲ使用シテ製造、試驗等ヲ爲ス場合ハ之ヲ包含ス

3、授産場、農山漁村ニ於ケル共同作業場ノ如キモノニシテ副業的形態ヲ保持シ家庭ノ延長ト見ルベキ如キモノヲ含マズ

4、物品販賣業ニ於テ販賣ノ目的ヲ以テ物ノ製造、加工、包裝、選別、修理ヲ爲スモ其ノ作業場所ガ獨立ノ形態ヲ有セザルモノヲ含マズ

(二)　鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

(1)　砂鑛業（砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業）

(2)　土石採取業、花崗岩、大理石、石灰石、陶土、白土、砂利其ノ他土石ノ採掘採取ノ事業

(三)　電氣ノ傳導ノ事業

(1)　電氣ノ傳導ノ事業

電氣ノ傳導夫レ自體ノ爲ノ工作物ノ建設、保存、修理又ハ破壞ノ事業（送電線其ノ他所謂外線工事ニシテ屋內引込線ノ工事以外ノモノヲ謂フ）

註　電信電話ニ關スル架線工事ハ改正法第十四條中第二號ニ該當シ本號ニ該當セズ

(2)　電氣以外ノ動力ノ發生又ハ傳導ノ事業

稀有ナルモ水力、ガソリン發動機ニ依ル動力ノ發生傳導ヲ目的トスル事業ノ如シ

(四)　地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

所謂現場事務ヲ包含ス細說スレバ大體左ノ如シ

(イ)　運輸ニ關スル業務（驛員、車掌、運轉手、轉轍手、踏切看手）

(ロ)　保線ニ關スル業務（保線工手、保安工手、營林工手）

(ハ)　機關車又ハ車庫ニ關スル業務（機關手、運轉手、檢車手、炭水手）

(五)　其ノ他陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ航空運送事業、湖川港灣ニ於ケル運送事業ヲ含マズ

第十四條

前條ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同シ

一　前條第三號ノ事業ニシテ常時五人未滿ノ勞働者ヲ使用スルモノ

二　土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壞ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

三　貨物積卸ノ事業

四　前各號ニ揭クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

2　前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

3　一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

一、任意包括被保險者　法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者タルコトヲ得ル者ハ法第十四條各號ニ揭グル事業ノ事業場又ハ工場ニ使用セラルル勞働者及一年ノ報酬千貳百圓ヲ超エザル職員ニシテ法第十三條ノ規定ニ依ル被

保險者ノ範圍ト同ジキモノトス（法一三條、一五條）

二、附屬スル事業ノ意義

イ、法第十四條第一項ノ「附屬スル事業」トハ工業的企業タル附屬事業ヲ謂フモノトス

ロ、附屬事業トハ本來ノ事業ノ遂行ニ關係アル附帶事業ヲ指稱スルモノナルヲ以テ假令同一事業主ノ經營ニ屬スル事業ト雖モ獨立ノ事業ト認メ得ベキモノヲ含マズ

（參照條文）施行規則第十三條、內務省令健康保險法第十條ノ規定ニ依ル職權委任ノ件

第十五條

前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

2第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條

第十三條ノ工場又ハ事業カ同條ノ規定ニ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ工場又ハ事業ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

一、任意包括被保險者

イ、法第十六條ノ規定ニ依リ法第十四條ノ認可アリタルモノト看做サレタル工場ニ隨時使用セラルル者ハ當然法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者トス（法一四條、一五條）

ロ、法第十六條該當ノ工場ニシテ法第十九條第一項ノ認可ヲ受ケザル限リハ該工場ニ使用セラルル被保險者全部ヲ一時解雇シ更ニ前被保險者其ノ他ノ者ヲ雇入ルルモ是等雇入レラレタル者ハ依然法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者タルモノトス（法一四條、一五條）

ハ、法第十六條該當ノ工場ニシテ一旦廢業シタル後新ニ開業シタル場合ニ於テハ該工場ニ使用セラルル者ハ法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ非ザルモノトス

（參照條文）施行規則第十九條

第十七條

第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

一、發令ノ日、赴任ノ日等　法第十七條ノ「其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日」ハ工場又ハ事業場ニ勤務スベキ辭令ヲ發セラレタル日、勤務スル爲赴任又ハ着任シタル日ト必ズシモ一致スルノ必要ナキモノトス

二、「業務ニ使用セラルルニ至リタル日」ノ意義　法第十七條ノ「其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日」トアルハ事業主ト被保險者トノ間ニ法律上又ハ事實上ノ使用關係ノ發生シタル日ヲ謂フ義ト解スベキモノトス

三、法第十五條第二項ニ該當セザルニ至リタルガ爲ニ被保險者ノ資格ヲ取得スル場合ニ於ケル取得ノ日　一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ガ千二百圓ヲ超エザルニ至リタル場合及施行令第九條第一號ニ該當スル者ガ所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタル場合ニ在リテハ千二百圓ヲ超エザルニ至リタル日又ハ所定ノ期間ヲ超エタル日ニ必ズシモ作業ニ從事スルコトヲ必要條件トセズ現ニ業務ニ引續キ使用セラルル狀態ニ在ラバ當日被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス（法一五條、施行令九條）

四、人夫供給者ノ手ヲ經テ　日々雇入レラルル者ノ中同一人ガ三十日ヲ超エテ引續キ雇入レラレタル場合ニ於テハ其ノ者ハ右ノ三十日ヲ超エタル日ヨリ被保險者タルモノトス（施行令九條）

五、轉勤ノ場合ト被保險者ノ資格　一事業主ノ工場又ハ事業場ガ各地ニ在ル場合ニ於テ甲ノ工場又ハ事業場ニ使

用セラルル被保險者ガ乙ノ工場又ハ事業場ニ轉勤シタルトキハ甲ノ工場又ハ事業場ニ於テ一旦被保險者ノ資格ハ喪失シ乙ノ工場又ハ事業場ニ於テ更ニ被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス（法一八條）

六、工場ノ業務ニ從事スル日數尠キニ至リタル場合ト雖依然トシテ工場ニ使用セラルル者ナルトキハ其ノ者ノ被保險者ノ資格ハ存續スルモノトス

七、被保險者資格取得ノ初日ト民法ノ期間ニ關スル規定　被保險者資格取得ニ付テハ法第十七條ノ規定ニ依リ初日ヲモ算入スベキモノニシテ民法ノ期間ニ關スル規定ハ此ノ場合ニ適用ナキモノトス（法五條）

八、被保險者資格取得屆出洩者ノ被保險者資格取得日　數箇月又ハ一箇年以上ヲ經過セル被保險者資格取得屆出洩ヲ發見シタル場合ニ於テモ總テ事實ニ基キ被保險者ノ資格ヲ取得セシムベキモノトス

九、被保險者ノ資格ノ存在ト保險給付トノ關係　被保險者ノ資格ハ保險給付ヲ受クルト否トニ拘ラズ業務ニ使用セラルルモノトセバ依然トシテ存在スルモノトス（法一條、一八條）

一〇、休業工場ニ屬僱セラルル者ノ被保險者資格　被保險者ヲ使用スル工場財界不況ノ爲約半箇年間休業ヲ決行シタルモ被保險者ノ屬僱契約ヲ解除セズ一面生活ノ補償トシテ最高九割最低五割ノ休業手當ヲ支給スル場合ノ如キハ事業主トノ使用關係消滅セズ其ノ休業手當ハ報酬ナルヲ以テ依然トシテ被保險者タルモノトス（法一三條、一五條）

一一、事業主ノ變更ト被保險者資格得喪トノ關係　事業主ニ變更アリタル場合ニ於テ舊事業主ガ事業ニ使用セラルル被保險者ヲ解雇セザリシモノトセバ右ノ被保險者ハ新事業主ニ其ノ儘使用セラルルモノト謂フベク卽チ此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ資格ニ何等影響ヲ來サザルモノトス

一二、工場法施行規則第八條又ハ鑛夫勞役扶助規則第十四條ノ規定ニ依ル就業禁止ノ場合ト被保險者ノ資格　事業主トノ間ニ法律上又ハ事實上ノ使用關係發生スベキ場合ト雖モ工場法施行規則第八條又ハ鑛夫勞役扶助規則第十四條ノ規定ニ依ル就業禁止ノ場合ニ於テハ該當セザルニ至ルマデ被保險者ノ資格ヲ取得セザルモノト觀ル公當ト認メラル但シ事業主竝ニ被保險者ノ双方ニ於テ右禁止該當ノ事實アルニ拘ラズ善意無過失ニテ就業シ被保險者資格取得屆ヲ提出シタル後相當期間經過シタル上其ノ事實アルコト分明トナリタル場合ノ如キハ當初ヨリ被保險者資格取得屆ヲ提出シタルモノトシテ取扱フベキモノトス、又現ニ被保險者タル者ニシテ右就業禁止ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ故ヲ以テ資格ヲ喪失セシムベキモノニ非ザルハ勿論トス（法一三條、工場法施行規則八條、鑛夫勞役扶助規則一四條）

一三、製絲工場等ニ使用セラルル者ノ被保險者資格取得ノ日　製絲業ノ如ク職工募集員ガ各地ニ出張シ出張先ニ於テ職工ノ募集ニ應ジタル者ト屬僱契約ノ交涉ヲ經ムルガ如キ事情ノ事業ニ在リテハ應募ニ依リ屬僱契約ハ成立スト雖所謂入場ノ日迄ハ職工及事業主ノ双方ニ於テ該契約ニ依リ勞務ノ提供或ハ報酬支拂ノ要ナク卽チ双方共債務履行ノ要ナキヲ以テ事實上ハ勿論法律上モ未ダ使用關係發生セザルモノト認メラルルモノトス故ニ右ノ如キ事情ノ下ニ屬僱セラルル者ハ所謂入場ノ日ヨリ被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス

（參照條文）

工場法施行規則第八條　工業主ハ左ニ揭グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

號ニ揭グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五

一　精神病者

二　癩、肺結核、喉頭結核

三　丹毒、再歸熱、痲疹、流行性脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

四　梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五　膿漏性結膜炎、トラホーム（著シク傳染ノ虞アルモノニ限ル）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

2工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

3 工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

鑛夫勞役扶助規則第十四條　鑛業權者ハ左ニ揭クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ揭グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　精神病
二　癩、肺結核、喉頭結核
三　丹毒、再歸熱、痲疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
五　膿漏性結膜炎、「トラホーム」(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

2 鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

3 鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條

第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

一、法第十八條ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日　トアルハ事業主ト被保險者トノ間ニ法律ニモ事實ニモ使用關係ノ存在セザルニ至リタル日ヲ謂フ義ト解スベキモノトス

二、被保險者月收百圓ヲ超ユルニ至リタル場合ニ於ケル被保險者資格喪失時期　被保險者ガ昇給ノ結果一箇月百圓ヲ超ユル俸給ノ支給ヲ受クルニ至リタルガ如キ場合ニ於テハ其ノ昇給ノ日ノ翌日ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失スルモノトス(法第十八條但書ノ場合ハ當日ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失スルコト勿論ナリ)(法一三條)

三、製絲工場等ニ使用セラルル者ノ被保險者ノ資格喪失ノ日　製絲業等ニ於テハ冬季相當長期間作業ヲ休止スルモ翌年ニ於ケル職工募集ノ便宜上雇傭契約ヲ相當期間繼續スル向アリ斯クノ如キ場合ニ於テハ法律上モ事實上モ使用關係ナキモノトシテ退場ノ日ノ翌日ヨリ被保險者ノ資格ヲ喪失スルモノトス

四、解雇發令ノ日等ト資格喪失ノ日トノ關係　法第十八條ノ「業務ニ使用セラレザルニ至リタル日」ハ工場又ハ事業場ヲ解雇セラレタル場合ニ於テ其ノ旨ノ辭令ヲ發セラレタル日又ハ殘務整理若ハ事務引繼ノ終了シタル日ト必ズシモ一致スルノ必要ナキモノトス

五、工場ノ休業　工場ノ休業ガ一時的ニシテ之ニ使用セラルル被保險者ハ現實ニ業務ニ使用セラレザル狀態ニ置カルル程度ノモノニ非ズトセバ其ノ被保險者ハ資格ヲ喪失スベキモノニ非ザルモノトス

六、治療ノ見込ナキ被保險者　被保險者ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルコトト爲リ百八十日ヲ超ユルモ尙相當ノ期間內ニ治癒ノ見込ナキモノハ假令事業主トノ間ニ仍雇傭契約ノ存續スル場合ト雖勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ百八十日ヲ超ユルニ至リタル時ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失スルモノト認ムル方適當ナルモノトス

七、休職

イ、被保險者ガ休職ヲ命ゼラレ工場ニ出勤セザルコトト爲リタル場合ハ現實ニ業務ニ使用セラレザル狀態ニ置カレタルモノト認メラルルヲ以テ被保險者ノ資格ヲ喪失スルモノトス

ロ、休職ハ使用關係ヲ消滅セシムルモノニ非ズシテ單ニ實務ニ服セシメザルニ過ギズ卽チ事業主ニ仍雇傭セ

ラルルモノナルヲ以テ依然トシテ被保險者タルモノナルモ休職中給料ヲ全然支給セラレザル場合ニシテ名義ハ休職ト雖モ實質ハ使用關係ノ消滅ト見ルヲ相當トスル場合ニ於テハ被保險者ノ資格ヲ喪失セシム方適當ト認メラル又從來被保險者タラザリシ職員ガ休職トナリ、俸給ヲ減額セラレシ爲ニ一年ノ報酬千二百圓以下ト爲リタルガ如キ場合之ヲ被保險者資格ヲ取得スルモノトシテ取扱フハ健康保險法第十七條ノ趣旨ニ非ザルヲ以テ斯ル場合ハ被保險者ノ資格ヲ取得セザルモノトシテ取扱フベキモノト認メラル（法一三條、一五條、一七條）

八、同一ノ被保險者ガ甲工場ニ使用セラレザル甲工場ニ於ケル被保險者ノ資格ハ其ノ工場ニ使用セラレザルニ至リタル日ニ乙工場ニ使用セラルルニ至リタル日ヲ以テ喪失スベキモノトス

九、勞務供給契約ニ基キテ被保險者ト爲リタル者ガ施行令第九條但書ニ依リ被保險者ト爲リタル後該契約ノ請負人ニ於テ其ノ者ヲ供給セザル期間短キモノト雖右ノ供給セラレザルコトト爲リタル者ハ被保險者ノ資格ヲ喪失スルモノトス（施行令九條）

一〇、被保險者ノ死亡當日ノ傷病手當金　被保險者死亡シタル場合ニ於テハ死亡當日ハ仍被保險者ノ資格アルヲ以テ其ノ日ノ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（法四五條）

一一、被保險者死亡當日ノ保險料　被保險者死亡シタル場合ニ於テハ死亡時刻ノ如何ニ拘ラズ當日ハ仍被保險者ノ資格ヲ有スルモノナルヲ以テ其ノ日ノ保險料ハ徵收スベキモノトス（法七七條）

一二、甲工場ニ於ケル雇傭契約存續中乙工場ニ使用セラルルニ至リタル場合　健康保險組合管掌甲工場ニ使用セラルル被保險者家事上ノ故ヲ以テ歸宅シ其ノ雇傭契約存續中タル七月二十五日政府管掌ノ乙工場ニ使用セラルルニ至リタルニ因リ乙工場ニ於ケル被保險者資格ヲ取得シ八月三十一日甲工場ニ解雇申出デタル場合ノ如キハ健康保險組合ニ於テハ甲工場ニ於ケル被保險者資格ハ乙工場ニ使用セラルルニ至リタル日ニ於テ喪失セルモノトシテ處理スルヲ實際上妥當ト認メラル（法一七條）

一三、就業ヲ停止セラレタル自動車運轉者ノ被保險者資格　自動車運轉者自動車取締令第七十八條ノ規定ニ依リ就業ヲ停止セラレタル場合ニ於テハ事業主ト法律上ノ使用關係存續スルトキハ卽チ事業主ニ仍使用セラルルモノナルヲ以テ依然トシテ健康保險ノ被保險者ナルモ其ノ就業停止期間三十日ヲ超エ而モ其ノ就業停止期間中給料ヲ全然支給セラレザル場合ニ於テハ被保險者資格ヲ喪失セシムルヲ適當ト認メラル

第十九條

第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

2 前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

3 第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

（參照條文）施行規則第十四條

第二十條

第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間內ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

一、任意繼續被保險者タルコトノ申請ノ效果　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルコトノ申請ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ資格ハ中斷セザルモノトス

二、任意繼續被保險者タラントスルコトヲ法定期間內ニ申請シタル者ニ對スル資格ノ決定　被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ガ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ヲ法定期間內ニ爲シタルトキハ其ノ者ハ卽

チ被保險者ノ資格チ繼續スルモノニシテ保險者ニ於テ其ノ者チ被保險者ノ資格ナキモノトシテ取扱フコトヲ得ザルモノトス（施行令一〇條、施行規則一五條）

三、任意繼續被保險者ト爲ルモ實益ナキ者カ任意繼續被保險者ト爲ルモ實益ナキ場合ト雖本人ガ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラントスル申請チ爲シタル場合ト之ガ資格ノ決定　任意繼續被保險者ト爲ルモ實益ナキ場合トハ此ノ者チ當然法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲スベキモノトス（法二一條、四七條、七四條）

四、被保險者資格喪失日ノ豫期セラルル場合ト雖法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラントスル申請　被保險者ノ資格喪失ノ日ガ豫期セラルル場合トハ現ニ被保險者ノ資格チ喪失シタル者ニ非ザレハ之チ爲スコトチ得ザルモノトス（施行令一〇條）

五、任意繼續被保險者タル期間ノ起算日　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ繼續シテ被保險者タル期間ハ法第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ガ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラントスル申請　被保險者ノ資格喪失ノ當日ヨリ起算スベキモノトス（法一八條）

六、任意繼續被保險者ノ繼續ノ時期　法第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ノ資格チ喪失シタル日ニ於テ被保險者タリ得ルモノトス（法一三條）

七、被保險者ガ事業主ト爲リ　又ハ一年ノ報酬千二百圓チ超ユルニ至リタル場合ト雖法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ繼續スルモノトス

八、法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續給付ヲ受クル者ト任意繼續被保險者タラントスル申請　被保險者ノ資格チ喪失シタル日ニ法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ給付ヲ受クル者ト雖法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラントスル申請チ爲スコトチ得ルモノトス（法五五條、施行令一〇條）

九、任意繼續被保險者　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル場合ニ於テハ被保險者ノ資格ハ法第十三條ノ規定ニ依ル被保險者ノ資格チ喪失シタル日ニ遡及スルチ以テ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者又ハ法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ノ資格チ喪失シタル日ニ於テ被保險者タリ得ルモノトス（法一三條）

十條ノ規定ニ依リ被保險者タルコトノ申請ヲ爲ス迄ノ間ニ於テ罹リタル疾病又ハ負傷ニ付テモ給付チ爲スヘキモノトス（法第一條）

一〇、任意繼續被保險者資格ノ更新　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日經過後ハ更ニ繼續シテ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルコトチ得ザルモノトス（法二一條）

第二十一條

前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

2前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

一、任意繼續被保險者ノ資格任意喪失　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ保險料ノ滯納ニ因ル場合ノ外任意ニ其ノ資格チ喪失スルコトチ得ザルモノトス

二、法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ保險料滯納　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ保險料ニシテ徵收手續遲延等ノ爲施行令第百條第一項ノ納付期限以後ノ納付期限チ指定シタル場合ニ於テハ右指定ノ納期限後十日チ經過シタル場合ニ於テ被保險者ノ資格チ喪失スヘキモノトス（法二〇條、施行令一〇〇條、施行規則一六條）

三、任意繼續被保險者ガ保險料ノ滯納ニ因リテ被保險者ノ資格チ喪失スベキ日　法第二十條ノ規定ニ係ル被保險者ガ保險料ノ滯納ニ因リテ被保險者ノ資格チ喪失スベキ日ハ健康保險法施行規則第十六條ノ期間最終日ノ翌日トス（施行規則一六條）

第三章　保險者

第二十二條

健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條

保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

（參照條文）施行規則九條

第二十四條

政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條

健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條

健康保險組合ハ法人トス

一、健康保險組合ハ公法人トス

二、健康保險組合ハ公法人ナルモ公署ニ非ズ公署トハ自治行政監ノ事務所ヲ謂フ義ト謂ム卽チ市役所、町村役場等ノ如シ

三、組合ノ經費ノ事業主繼替支出　組合ノ經費ヲ組合ノ設立アル事業ノ事業主ニ於テ繼替支出スルハ違法タルモノトス

四、健康保險組合ト所得稅トノ關係　健康保險組合ニ對シテハ所得稅法第十七條及所得稅法施行規則第十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノトス（所得稅法一七條、所得稅法施行規則一二條）

五、資本利子稅　組合ニ對シテハ所得稅法第十七條及所得稅法施行規則第十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノナルヲ以テ組合ガ支拂ヲ受クル利子ニ對シテハ資本利子稅ヲ課セラレザルモノトス（資本利子稅法二條等）

六、健康保險組合ト登錄稅　健康保險組合ガ直接其ノ使用ノ目的ヲ以テ取得シタル不動產ニ關スル登記ハ登錄稅法第十九條第三號ニ該當セザルモノトス（登錄稅法一九條）

七、健康保險組合ト地方稅　健康保險組合ノ所有ニ係リ直接其ノ用ニ供セラルル家屋及物件ニ對シテハ地方稅ハ之ヲ賦課セラレザルモ土地及土地、家屋及物件ノ取得行爲ニ對シテハ之ガ課稅ヲ禁止シタルモノト解シ難ク存セラル（地方稅ニ關スル法律一一條）

（參照條文）

所得稅法第十七條　北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

所得稅法施行規則第十二條　左ニ揭クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

一　府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國

領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、[商業會議所]其ノ他此等、公共團體ニ準スヘキモノ

二　朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

資本利子稅法第二條　資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種　公債、社債、產業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種　第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子

2本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ

(所得稅法第三條ノ三、本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財產ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ)

登錄稅法第十九條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十六號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

一　政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登錄

二　社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記

三　北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ニ關スル登記

四以下略

地方稅ニ關スル法律第十一條　左ニ揭クル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサルコトヲ得

一　一時ノ使用ニ供スル家屋

二　賃貸價格一定額以下ノ家屋

三　公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第二十七條

健康保險組合ハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條

一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

2被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

一、「事業ノ意義」事業主甲ガA、B、Cノ各地ニ工場ヲ有シ同種ノ事業ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ三工場ノ作業ヲ合シテ一事業ト謂フモノトス又事業主甲ガA地ニ製菓業ヲ爲シB地ニ印刷業ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ製菓業ト印刷業トヲ合シテ一事業ト謂フコトヲ得ザルモノトス

二、「事業主ヲ異ニスル異種ノ事業ト組合ノ設立」事業主ヲ異ニスル絹織物業ト製絲業ノ二事業ヲ以テ一ノ組合ヲ設立スルハ法律上妨ゲナキモノトス但シ設立ノ認可アルヤ否ヤハ事實ニ依リテ決セラルベキコト勿論タリ

三、「十數人ノ織物製造業者ト組合ノ設立」一町內ニ於ケル十數人ノ織物製造業者ガ其ノ織物製造業ニ付共同シテ一ノ組合ヲ設立スルハ第二十八條第二項ニ該當スルモノトス但シ設立ノ認可アルヤ否ヤハ事實ニ依リテ決セラルベキコト勿論タリ

四、「工場ノ所在地ガ府縣郡市町村ヲ異ニスル」モ是等各工場ヲ通ジテ一組合ヲ設立スルハ法律上妨ゲナキモノトス但シ設立ノ認可アルヤ否ヤハ事實ニ依リテ決セラルベキコト勿論タリ

五、組合ノ設立準備ニ要シタル費用　組合ノ設立ハ事業主ノ爲スベキ職務ナルヲ以テ設立前ニ其ノ準備ノ爲ニ要シタル費用ハ事業主ノ負擔ニ屬スルモノトス（法二九條、三一條、三二條）

第二十九條

健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

2 二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

一、組合設立ノ認可申請者　ハ工場管理人等ノ名義ヲ以テ爲スヘキモノトス（法二八條、三二條）

其ノ會社ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲スヘキモノトス（法二八條、三二條）

（參照條文）施行令第十一條以下、施行規則第二十四條

第三十條

前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條

主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

一、組合ノ強制設立ノ意義　組合ノ所謂強制設立トハ內務大臣ノ命令ニ基キテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ謂フモノトス（法三二條）

二、事業主ノ義務　法八九條參照

三、五百人以上ト云フハ　組合存續要件ニ非ズ

第三十二條

前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

（參照條文）施行令第十二條以下、施行規則第二十四條

第三十三條

第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條

健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

一、健康保險組合ノ成立時期　健康保險組合ハ設立認可ノ指令書ノ日附ノ日ニ於テ成立スルモノトス合併及分割ノ場合亦同シ但シ成立時期ヲ特定シテ認可ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ特定時期ニ於テ成立スルコト勿論タリ

（施行令五六條）

二、組合ノ設立登記　組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スノ必要ナキモノトス地方廳備付ノ健康保險組合臺帳ニ登錄スルニ止マル（內務省令健康保險組合臺帳閱覽ノ件、施行令一五條）

第三十五條

健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第三十六條

健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

一、行政區劃變更等ト規約ノ變更　市町村ノ廢置分合、境界變更、大字名改稱、地番變更其ノ他行政區劃ニ變更アリタル爲規約ニ規定スル組合事務所ノ所在地又ハ事業ノ所在地若ハ健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ內務大臣ニ於テ一事業ト看做シタル作業ノ所在地ニ變更アリタル場合ニ於テハ規約中右ノ事項ハ當然變更セラレタルモノトシ之ガ認可ヲ要セズ（法三三條、規約例第三條、第四條）

（參照條文）施行令第二十五條及第三十一條、施行規則第二十五條

第三十七條

主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

（參照條文）法第十條、施行規則第三十六條、內務省令健康保險法第十條ノ規定ニ依ル職權委任ノ件

第三十八條

健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

2前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條

主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

（參照條文）施行令第七十二條

第四十條

解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條

本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財產ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照條文）施行令第三章

第四十二條

同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保険者ノ保険者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

（參照條文）施行規則第二條、第十二條

第四章　保険給付

第四十三條

被保険者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

2前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

3第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保険者ハ被保険者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

一、傷病ノ治癒ノ意義　傷病ノ治癒トハ傷病ノ治療ニ關シ一般醫師ガ有スル通念ニ依ルベキモノニシテ必ズシモ嚴格ナル病理學的根據ニ依ルモノニ非ズ

二、組合員タル被保険者ガ他ノ事業ノ業務ニ從事　健康保険組合ノ組合員タル被保険者ガ其ノ組合ノ設立ア ル事業ノ工場ヲ缺勤シ他ノ事業主ノ業務ニ從事シ其ノ業務ニ基因シテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ト雖其ノ組合ニ於テ療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スベキモノトス尙此ノ場合ニ於テハ其ノ組合ニ於テ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ト認ムルコトヲ得ザルモノトス

三、被保険者死亡後ノ處置ト療養ノ給付　被保険者業務上ノ事由ニ因リ卽死シタル場合ニ於テ醫師ガ繃帶ヲ施シ其ノ他加ヘタル處置ハ被保険者死亡後ノ處置ナルヲ以テ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セザルモノトス

四、療養ノ給付ト分娩　療養ノ給付ハ疾病又ハ負傷ニ關シテノミ之ヲ爲スモノニシテ分娩ニ關シテハ之ヲ爲サザルモノトス尤モ分娩ノ場合ニ於テ疾病又ハ負傷ノ事故アルモノハ格別トス妊娠四箇月未滿ノ分娩ニ付亦同ジ（法五〇條）

五、保険事故タル疾病ノ範圍

甲

一、左ニ揭ゲルモノハ疾病トシテ取扱ハザルモノトス

一、雀斑、母斑、黑子、黑斑、面皰

二、近視眼、老視眼、遠視眼、斜視、亂視、先天性兎眼、色盲

三、白毛、多毛、無毛

四、吃音、雜聽、酒齇鼻

五、多汗症、無汗症、異汗症、毛瘡、皮脂漏

六、不姙症、膣閉鎖症、子宮屈傾（高度ニシテ月經異常ヲ起シ激痛アル如キモノヲ除ク）、子宮頸管狹窄症、子宮發育障害

七、就業上著シキ障害ヲ起サザル程度ノ善性腫瘍、鷄眼、胼

八、先天性畸形

九、外科手術後ノ形態整形手術、隆鼻術、美容ヲ目的トスル瘢痕除去整形手術、文身除去手術其ノ他美容手術

一〇、單ナル肩凝、腰痛、逆上、榮養不良、疲勞及倦怠

一一、老齢、陰萎

一二、普通ノ場合ニ於ケル痒痛
一三、輕度ノ不眠症
一四、胎兒ノ位置異常
一五、黴毒血清反應陽性ナルモ徵候ナキ場合保菌者ノ場合
二、左ニ揭ケルモノハ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認ムル程度ノモノノミヲ保險事故タル疾病トシテ取扱フルモノトス
一、貧血、常習性便秘、夜尿症
二、扁平足、內飜足、關節攣縮
三、包莖
四、火傷ニ因ル瘢痕痛、後天性兎眼、後天的眼瞼下垂、瘢痕强直
五、禿頭症、腋臭、顏面白皙、瘢風、粉瘤、疣贅、黑色表皮症、濕疹、角化症、汗疹
六、月經不順、月經困難、無月經
七、惡阻、不完全流產及早產、前置胎盤、過强陣痛、陣痛微弱、胎兒ノ下垂壓迫
八、吃逆
九、傳染病豫防注射又ハ種痘ニ依ル發熱其ノ他ノ異常容態
十、血壓亢進ニ因ル頭痛、眩暈及心悸亢進等

乙

一、神經衰弱ハ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノトス
二、蓄膿症ハ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノトス
三、亀頭扁平實肉ハ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノトス
四、扁桃腺脫臼ハ負傷ナルヲ以テ之ガ療養ハ健康保險ニ於テ給付スベキモノトス
五、女子ノ膣脫ハ健康保險ノ保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬スルモノトス
六、妊娠四箇月未滿ノ被保險者突然出血アリ休養中ノ處其ノ出血止マラザルニ付人工流產(搔出)ノ手術ヲ行ヒタル場合ノ如キハ保險事故タル疾病トシテ取扱フベキモノトス
七、妊娠四箇月未滿ノ流產又ハ妊娠四箇月以上ノ早產ノ場合ニ於テ出血多量ノ爲若ハ妊娠中出血多量ニシテ醫師ニ於テ疾病ト認ムル程度ノモノトセバ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノトス
八、先天性子宮高度前屈ガ月經障害ト爲リ局部ノ劇痛ヲ感ジ其ノ都度モルヒネ注射ヲ施シ鎭痛シ來レルモ今後仍該注射ヲ施スニ於テハ中毒症ヲ起ス憂アルガ故ニ今ノ中ニ手術ヲ施シテ子宮ヲ正位ニ復セシメ月經困難ヲ根治スルノ必要アルガ如キモノハ右ノ先天性子宮高度前屈ヲ保險事故タル疾病トシテ療養ノ給付ヲ爲スベキモノトス
九、義齒又ハ釘ノ類ヲ嚥下シタル爲違和ヲ感ズル場合ニハ保險給付ヲ爲スベキモノトス
一〇、健康保險ニ於テハ齒石ガ原因ヲ爲シ口腔疾病ヲ起シタル場合又ハ他ノ疾病治療ノ爲齒石除去ヲ必要トスル場合ニ限リ療養ノ給付トシテ齒石ヲ除去スルモノトス
一一、被保險者業務上ノ事由ニ因リ前齒ニ負傷シ直ニ保險醫ニ就キ治療ヲ受ケタルモ其ノ後ニ至リ固定裝置ヲ爲スニ非ザレバ維持困難トナリタル場合ニ於テハ保險給付トシテ支給スベキモノトス
一二、身體ニ違和ヲ感ゼズ就業中ノ者ナルモ保黴毒者ニシテ再三流產ヲ爲シタルコトアリ斯カル者ニ對シテハ醫師ニ於テ診療ノ結果現ニ黴毒患者ト證明セラルベキモノトセバ治療上必要ナル療養ノ給付ヲ爲スベキモノトス
一三、先天性脫腸ハ醫師ニ於テ疾病ト認ムル場合ニ於テハ保險事故タル疾病ノ範圍トシテ取扱フベキモノトス
一四、近眼鏡ヲ選定スルノ目的ヲ以テ醫師ニ就キ診察ヲ受ケタルガ如キハ健康保險ニ於テ爲ス療養ノ範圍ニ屬セザルモノトス

一五、分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置ハ疾病又ハ負傷ノ療養ニ非ザルモノニ付テ被養ノ給付ヲ爲スベキモノニ非ザルモノトス而シテ人工的處置トハ左ノ如キモノヲ指ス（法五〇條）

(三)(二)(一)、骨部軟部産道擴張處置卽チ子宮頸管及子宮口ノ擴張處置等ナリ

骨部産道及骨盤ノ擴大處置卽チ恥骨ノ縫合又ハ切開處置等ナリ

人工破水處置

六、被保險者ガ診療ヲ申出デタル何等診療ヲ申出デザル保險醫ニ於テ傷病ノ治療上必要ト認メテ歯牙ノ殘根ノ拔去ヲ保險給付ノ範圍ニ非ザルモノニ付テハ保險醫ニ於テ傷病ノ治療上必要ト認メテ歯牙ノ殘根ノ拔去ヲ保險給付ノ範圍ニ非ザルモノニ付テハ保險醫ニ於テ傷病ノ治療上必要ト認メテ歯牙ノ殘根ノ拔去ヲ保險給付ノ範圍ニ非ザルモノニ付テハ保險醫ニ於テ傷病ノ治療上必要ト認メテ歯牙ノ殘根ノ拔去ヲ保險給付ノ範圍ニ非ザルモノニ付テハ

七、保險者ハ保險醫ノ經營スル病院若ハ保險醫ニ於テ傷病ノ治療ヲ爲サシムル場合ニ於テ保險醫ニ於テ傷病ノ治療ヲ爲サシムル場合ニ於テ保險醫ニ於テ傷病ノ治療ヲ爲サシムル場合ニ於テ保險醫ニ於テ傷病ノ治療ヲ爲サシムル場合ニ於テ

八、被保險者ガ普通ノ注意ヲ用ヒザルニ因リ又ハ保險者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ又ハ其ノ疾病若ハ負傷ニ付キ保險者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ又ハ其ノ疾病若ハ負傷ニ付キ保險者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ又ハ其ノ疾病若ハ負傷ニ付キ保險者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ又ハ其ノ

九、被保險者ガ故ナク療養ニ關スル保險者ノ指揮ニ從ハズ又ハ保險者ノ指揮ニ從ハズ又ハ保險者ノ指揮ニ從ハズ又ハ

行フコトヲ得ザルトキハ再ビ被保険者ノ申請ニ依リ又ハ職権ヲ以テ療養ノ給付ヲ為スコトヲ得

ハ、承認ヲ受ケタル病院又ハ診療所ニ於テ療養ノ給付ヲ受ケントスル者ハ厚生省令ノ定ムル所ニ依リ其ノ氏名及住所ヲ届出ヅベシ

二、組合ノ所有ニ係ル診療機械ノ貸与（施行令七四條）

一八、組合ノ所有ニ係ル診療機械ヲ健康保険組合ガ診療機関タル事業主ノ診療ノ為ニ使用スルコトハ差支ナキモノトス

一九、組合ノ病院ニ対シ被保険者ノ診療ニ必要ナル設備ノ貸与ヲ為スコトハ差支ナキモノトス

経営ノ病院ニ於テ被保険者ノ疾病ノ治療上必要ノ為歯科医師ニ於テ分娩其ノ他ノ処出術ニ依リテ分娩ヲ助ケタル場合ニ於テハ右ノ手術ハ療養ノ給付トシテ取扱フベキモノニシテ且同時ニ助産ノ手当ヲ為シタルモノナルヲ以テ分娩ハ牛額ヲ支給スベキモノトス（注五一條、施行令八一條）

二〇、保険給付トシテ義歯ノ装置

義歯又ハ治療上抜歯セシ結果咀嚼能力著シク減退シ医師ニ於テ義歯ヲ装置スルノ必要アリト認メタルモノハ健康保険ニ於テ療養ノ給付トシテ義歯ノ装置ヲ為スベキモノトス（施行令七四條）

二一、療養ノ範囲

近眼鏡ヲ選定スルノ目的ヲ以テ医師ニ就キ診療ヲ受クルガ如キハ健康保険ニ於テ為ス療養ノ範囲ニ属セザルモノトス（施行令七四條）

二二、病院ノ意義

法第四十三條及第四十六條ニ所謂「病院」トハ原則トシテ昭和八年十月四日内務省令第三十號診療所取締規則第一條ノ病院ヲ謂フ但シ療養ノ必要上已ムヲ得ズト認メラルル場合ニ於テハ医師、看護婦等ノ配置、設備、構造等ガ入院診療ニ支障ナキモノト認メラルル診療所ニ限リ法第四十三條ノ病院トシテ取扱フルモノトス（法四六條、施行令七九條）

二三、伝染病予防法令ニ依リ伝染病院等ニ収容（健康保険ノ被保険者ニシテ法定伝染病ニ罹リタル場合ニ於テ伝染病豫防法令ニ依リ伝染病院、隔離病舎等ニ収容セシムベキ必要アリト認メラレタル程度ノ疾病ニ付テハ健康保険ニ於テモ療養ノ給付トシテ病院ニ収容スルノ必要アル程度ノモノトス（注六二條）

療養ノ給付ヲ為スコト困難ナル場合又ハ被保険者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保険者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一、伝染病院等ニ収容セラレタル者ノ食費及薬価（市町村立ノ伝染病院等ニ収容セラレタル者ガ食費及薬価ヲ徴収セラレタル場合ニ於テハ此ノ食費及薬価ハ健康保険ニ於テ療養費トシテ其ノ者ニ支給スベキモノトス（法六二條、施行令七七條）

二、伝染病院等ニ収容セラレタル者ノ療養ニ要スル費用（伝染病豫防法令ニ依リ伝染病院、隔離病舎等ニ収容セラレタル者ニ対シテハ健康保険法第六十二條第二項ノ規定ニ依リ健康保険ニ於テ療養ノ給付ヲ為サザルモノナルモ収容セラレタル者ガ療養ニ要スル費用ノ一部又ハ全部ヲ負担スベキ場合ニ於テハ其ノ負担スベキ部分ハ健康保険ニ於テ療養費トシテ支給スルモノトス（法六二條、施行令七七條）

一四、被保険者カ任意入院シタル場合ニ於ケル費用

イ、被保険者ガ任意入院シタル場合ニ於テハ入院シテ療養ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於ケル費用ト入院セズシテ療養ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於ケル費用トノ差額ハ被保険者ノ負担ニ属スルモノトス

ロ、被保険者ヲ病院ニ収容スルハ保険者ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキニ限リ之ヲ為スモノニシテ被保険者ガ保険者ノ承認ヲ受ケズ任意ニ入院シタルトキハ往日保険者ニ於テ其ノ入院ヲ認ムレバ格別給ウザル場合ニ於テハ入院ノ為要シタル費用（療養ニ要シタル費用中入院セザル場合ニ要スベカリシ費用ヲ控除シタル額）ハ当該被保険者ノ負担タルモノトス

（参照條文）施行規則第五十六條ノ二、昭和八年内務省令第三十號診療所取締規則第一條

第四十四條

療養ノ給付ヲ為スコト困難ナル場合又ハ被保険者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保険者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一、伝染病院等ニ収容セラレタル者ノ食費及薬価（市町村立ノ伝染病院等ニ収容セラレタル者ガ食費及薬価ヲ徴収セラレタル場合ニ於テハ此ノ食費及薬価ハ健康保険ニ於テ療養費トシテ其ノ者ニ支給スベキモノトス（法六二條、施行令七七條）

二、伝染病院等ニ収容セラレタル者ノ療養ニ要スル費用（伝染病豫防法令ニ依リ伝染病院、隔離病舎等ニ収容セラレタル者ニ対シテハ健康保険法第六十二條第二項ノ規定ニ依リ健康保険ニ於テ療養ノ給付ヲ為サザルモノナルモ収容セラレタル者ガ療養ニ要スル費用ノ一部又ハ全部ヲ負担スベキ場合ニ於テハ其ノ負担スベキ部分ハ健康保険ニ於テ療養費トシテ支給スルモノトス（法六二條、施行令七七條）

三、權利者死亡ノ場合ニ於ケル之ガ權利ノ承繼者　療養費、傷病手當金、出產手當金及分娩費ヲ受クル權利アル者死亡シタル場合ニ於テハ之ガ權利ハ其ノ者ノ相續人ニ於テ承繼スベキモノトス（法四五條、五〇條）

四、死亡シタル被保險者ニ對スル療養費　ハ民法ノ規定ニ依ル家督相續人又ハ遺產相續人ニ於テ請求スベキモノニシテ其ノ者ノ內緣ノ妻ニ於テ請求スベキモノニ非ス

（參照條文）施行規則第五十三條乃至五十六條

第四十五條

被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

一、法第四十五條ノ「療養ノ爲」ノ意義

イ、法第四十五條ノ「療養ノ爲」トハ之ヲ廣義ニ解スベキモノトス卽チ保險給付トシテ受クル療養ノ爲ノミニ限ラズ然ラザル療養ノ爲ヲモ含ムモノトス

ロ、被保險者ガ齲齒ノ治療ヲ受ケントスルニ際シ其ノ附近（其ノ距離約四、五里）ニ健康保險齒科醫ナク遠隔ノ地ニ行カザレバ治療ヲ受クルコト能ハザル場合ノ如キハ其ノ症狀ガ鉄動シテモ齒科醫師ノ診療ヲ受クルコトヲ要スル場合ニ於テハ療養ノ爲勞務不能ト看做シ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス

ハ、保險醫ガ將來ノ病狀惡化ヲ懼レ現在勞務ニ差支ナキ被保險者ヲ休業セシメタルトキハ現在勞務ニ服スルコト差支ナキ者ト雖モ療養上其ノ症狀ガ休業ヲ要スル場合ニ於テハ勞務不能ト看做シ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス

ニ、法第四十五條ノ療養トアルハ有形的ノ療養ヲ指スモノトス

ホ、法第四十五條ノ「療養ノ爲」ノ「療養」トハ自費ヲ以テ爲ス療養ヲ含ム義トス

二、「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ」ノ意義　治癒トハ原則トシテ傷病其ノモノノ治癒ノ義ニシテ必ズシモ病後ノ身體ノ衰弱、疲勞ノ回復等健康舊ニ復スルコト迄モ包含スルモノニ非ズ然レ共傷病手當金支給ノ關係ヨリ之ヲ觀レバ特ニ相當期間病後ノ靜養ヲ必要トシ之ガ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ノ如キハ法第四十五條ニ所謂「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ」ニ該當スルモノトス（法四七條）

三、保險醫ノ指示ニ依リ休業シタル場合　保險醫ガ將來ノ症狀惡化ヲ懼レ現在勞務ニ服スルコト差支ナキ被保險者ヲ休業セシメタルトキハ現在勞務ニ服スルコト差支ナキ者ト雖モ療養上其ノ症狀ガ休業ヲ要スル場合ニ於テハ勞務不能ト看做シ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス

四、自費ヲ以テ療養ヲ爲シタル場合ト傷病手當金ノ支給

イ、被保險者ガ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ニ付自費ヲ以テ療養ヲ爲シタル場合ト雖モ之ガ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ニ於テハ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス

ロ、健康保險ノ給付ヲ受ケズ自費ヲ以テ疾病又ハ負傷ノ療養ヲ爲シタル場合ニ於テモ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル期間ハ傷病手當金ヲ支給スルモノトス但シ右ノ支給請求書ニハ健康保險法施行規則第五十七條第二項ノ規定ニ依ルナルヲ以テ被保險者ハ斯クノ如キ場合ニ於テモ之ガ支給ヲ請求ヲ爲シ得ベキモノトス但シ右ノ支給請求書ニハ健康保險法施行規則第五十七條第二項ノ規定ニ依ル書類ノ添付ヲ要スルコトハ勿論トス（施行規則五七條）

五、服藥又ハ受療ノ日ト傷病手當金ノ支給　傷病手當金ハ服藥又ハ受療ノ日ノ如何ニ拘ラズ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル日ノ分ヲ支給スベキモノトス

六、「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル期間」ノ範圍

イ、法第四十五條ノ「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル期間」トアルハ病後ニ於ケル靜養ノ期間及醫師ニ就キ疾病又ハ負傷ノ診察ヲ受クベキ場合ニ於テ醫師ノ許ニ赴ク爲ニ要シタル日ノ如キヲモ含

ムモノトス

ロ、被保險者ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷ヲ爲シタル場合ニ於テ勞務ニ服シ得ルモ之ガ療養ヲ受クル場合ニ於テ保險醫ノ診療所ガ其ノ被保險者ノ住所ニ遠隔セル地ニ在ルガ故ニ該診療所ニ往復スル爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ卽チ法第四十五條ノ「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル」コトニ該當スルモノトス

ハ、法第四十五條ノ「勞務」トハ被保險者ノ使用セラルル事業ニ於ケル勞務ヲ謂フモノトス尙事業ニ使用セラレザル被保險者タリシ者ニ對スル法第五十五條ノ規定ニ依ル給付ニ付テハ被保險者タリシ當時ノ勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ト同樣ノ程度ニ在ル者タルコトヲ要スルモノトス

ニ、法第四十五條ノ勞務ニ服スルコト能ハザル期間ハ勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ニ置カレタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス但シ其ノ狀態ニ置カレタル時ガ業務終了後ナル場合ニ於テハ翌日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

ホ、工場又ハ事業場ニ於テ晝夜交替シテ作業ヲ續行スル爲一日ノ作業ナルモ時間ニ依リ二日間ニ跨ルガ如キ場合ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ノ起算日ハ曆日ニ依ルモノトス

ヘ、法第四十五條ノ「勞務ニ服スルコト能ハザル」ノ程度ハ工場又ハ事業場ニ於テ從事スル勞務ニ服スルコト能ハザル程度ヲ謂フモノトス尙法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニシテ事業ニ使用セラレザル者又ハ被保險者ノ資格喪失後ノ者ニシテ事業ニ使用セラレザル者ニ在リテハ右ノ「勞務ニ服スルコト能ハザル」程度ハ工場又ハ事業場ニ於テ從事シタリシ當時ノ勞務ニ服スルコト同程度ノモノヲ謂フモノトス（法二〇條、五五條）

ト、法第四十五條ノ「療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル」トアル勞務ニ服スルコト能ハザル程度ハ被保險者ガ工場又ハ事業場ニ於テ從事スル勞務ニ服スルコト能ハザル程度ノモノタルコトヲ要スルモノナルガ故ニ檢束處分ヲ受クルニ至リタル原因タル行動又ハ他ノ事務ニ服シ若ハ旅行ヲ爲シタルガ如キ行動ヨリ見テ前記ノ程度ニ照シ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルモノト認メ難キ場合ニ於テハ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス尙右ノ如キ行動ヲ爲スモ前記ノ程度ニ照シ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルモノト認メ得ベキ場合ト雖保險醫ガ療養ニ關シ被保險者ニ對シ斯クノ如キ行動ヲ爲スコトヲ愼メ禁ジタル場合ノ如キハ法第六十三條ニ該當スルモノトシテ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルモ可ナルモノトス（法六二條）

チ、法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ勞務アリトセバ之ニ服シ得ル狀態ナルモ失業ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルガ如キハ法第四十五條ノ「療養ノ爲」ニ該當セザルヲ以テ傷病手當金ヲ支給スルモ右ハ法第五十八條ノ場合ニ該當セザルヲ以テ當日分ノ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（法五八條）

リ、被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ事業主ガ當日一日分ノ賃金全額ヲ支給スルモ右ハ法第五十八條ノ場合ニ該當セザルヲ以テ當日分ノ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（法二〇條）

ヌ、疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ者ガ其後勞務ニ服シ其ノ日更ニ右ノ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合ハ其ノ日ハ一旦勞務ニ服シタルヲ以テ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス

ル、被保險者ガ疾病ニ罹リ就業シツツ療養ヲ受クル場合ニ於テ毎日醫師ノ許ニ行クガ爲一日ノ作業時間中若干時間ヲ休業スルコトアルモ此ノ場合ニ於テハ其ノ日ハ勞務ニ服スルヲ以テ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス

ヲ、被保險者ガ疾病ニ罹リ第一日ハ午前十時後ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハズ第二日乃至第五日モ療養ノ爲全日勞務ニ服スルコト能ハズ第六日ハ午前ノミ勞務ニ服シ午後ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ニ於テハ第六日ハ勞務ニ服シタルヲ以テ同日ノ分ハ傷病手當金ヲ支給セザルモノトス

ワ、被保險者ガ負傷ヲ爲シ十日間從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザリシモ其ノ中五日間ハ比較的安易ナル他ノ業務（同一ノ工場ニ於テ）ニ服シ賃金ヲ得タルガ如キ場合ハ此ノ五日間ハ勞務ニ服シタルモノナルヲ以テ此ノ五日間分ノ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス（疾病ニ罹リタル場合ニ在リテモ同樣トス）

カ、被保險者ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ使用セラルル工場ニ於テ療養ニ支障ナキ程度ノ業務ニ臨時從事スルトキハ卽チ勞務ニ服スルヲ以テ此ノ期間ノ傷病手當金ハ之ヲ支給スベカラザルモノトス

七、報酬日額ノ異同　法第四十五條、第四十九條第一項、第五十條及第七十四條ノ「報酬日額」トアルハ施行令第三條ノ「報酬日額」ト異ナリ同條ノ「標準報酬日額」ニ該當スルモノトス（法五〇條）

八、任意繼續被保險者ト傷病手當金　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテモ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（法二〇條）

九、產褥熱ト傷病手當金　產褥熱ハ疾病ナルガ故ニ之ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル期間ハ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス但シ法第四十五條但書ノ待期間ハ支給セザルコト勿論タリ

一〇、出產手當金ヲ受クル期間終了後　仍勞務ニ服スルコト能ハザル原因ハ疾病又ハ負傷ニ非ズシテ出產ナルトキハ傷病手當金ハ之ヲ支給スルコトヲ得ザルモノトス（法五〇條）

一一、分娩ノ日以後四十二日ヲ　過ギ單ニ其ノ分娩ノ爲仍勞務ニ服セザルモ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノニ非ズ（法五〇條、施行令八〇條）

一二、工場ノ公休日ニ於ケル傷病手當金　工場ノ公休日ト雖療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ニ在ラバ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス

一三、權利者死亡ノ場合ニ於ケル權利承繼者　傷病手當金、出產手當金又ハ療養費ノ支給ヲ受クル權利者死亡ノ場合ニ於テハ之ガ權利ハ其ノ者ノ家督相續人又ハ遺產相續人（孰モ民法ノ規定ニ依ルモノ）ニ於テ承繼スルモノナルヲ以テ是等ノ者ニ對シ支拂フベキモノトス（法四四條、五〇條）

一四、被保險者死亡シタル場合ニ於ケル請求權者　傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クベキ被保險者ガ之ガ請求前ニ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ請求ハ民法ノ規定ニ依ル家督相續人又ハ遺產相續人ニ於テ爲スベキモノトス故ニ相續人ニ該當セザル配偶者ハ請求ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス（法五〇條）

一五、精神病患者タル被保險者　傷病手當金ハ被保險者ガ精神病患者タル場合ト雖モ其ノ本人ノ名ヲ以テ請求スベキモノニシテ之ガ請求アラバ本人ニ對シ支給決定ヲ爲スコトヲ要スルモノトス但シ決定ヲ受ケタル傷病手當金ヲ代理者ニ於テ受取ルハ妨ゲナキモノトス

一六、法第四十五條但書ノ待期　手當金ヲ支給セザル最初ノ三日間ヲ待期ト稱ス、虛病、怠惰等ノ防止ノ爲メニ設ケル制度ナリ

イ、業務上ノ事由ニ因ラザル疾病ニ付テハ之ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ日ガ三日間連續タル後ニ非ザレバ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス

ロ、業務上ノ事由ニ因ラザル同一ノ傷病ニ付中途ニ於テ勞務ニ服シタル場合ニ於テハ法第四十五條但書ノ規定ハ適用ナキモノトス

ハ、業務上ノ事由ニ因ラザル同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ノ繼續中ニ於テ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合ニ於テハ最初ニ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ更ニ勞務ニ服シ（醫師ノ指示ニ基キタルト否トヲ問ハズ）其ノ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲更ニ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合ニ於テハ特別ノ適用ナキモノトス

ホ、法第四十五條但書ノ待期ハ疾病又ハ負傷ノ異ナル毎ニ之ガ適用アルモノトス但シ或ル疾病又ハ或ル負傷ニ因リ發シタル疾病ニ在リテハ後ノ疾病ニ付テ待期ノ適用ナキモノトス

ヘ、第一日ヨリ第五日迄ハ感冒ノ療養ノ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハズ第六日ヨリ第十日迄ハ火傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ノ如キハ法第四十五條但書ノ待期ハ感冒ノ場合ト火傷ノ場合ト各別ニ適用アルモノトス

ト、法第五十四條ノ規定ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受ケザル期間内ト雖法第四十五條但書ノ待期ハ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ニ依リ起算スベキコトハ一般ノ場合ト何等異ナルコトナキヲ以テ出産手當金ノ期間終了後特ニ傷病手當金支給ノ待期ヲ置クノ必要ナキモノトス（法五四條）

チ、分娩ノ日以後四十二日以内ニ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合ニ於テモ法第四十五條但書ノ待期ハ右ノ狀態ニ至リタル日ヨリ起算スベキモノニシテ分娩ノ日以後四十二日ノ翌日ヨリ起算スベキモノニ非ザルモノトス（法五〇條、施行令八〇條）

リ、法第四十五條但書ノ待期間ニ事業主ガ報酬ノ範圍ニ屬スル食事ヲ給與スルコトアルモ此ノ待期間ノ傷病手當金ハ支給スベキモノニ非ザルヲ以テ右ノ食事ノ給與ハ健康保險ト關係ナキモノトス（法二條、施行令一條）

一七、被保險者資格取得前ニ於テ業務上ノ事由ニ因リ受ケタル負傷　負傷ヲ受ケタル時ガ被保險者ノ資格取得前ト雖其ノ負傷ガ其ノ者ノ使用セラルル事業ニ於ケル業務上ノ事由ニ因ルモノトセバ被保險者ノ資格取得後保險給付ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ負傷ハ依然業務上ノ事由ニ因ル負傷ナルモノトス故ニ保險給付ニ當リ之ヲ業務上ノ事由ニ因ラザル負傷トシテ取扱フガ如キハ不可然モノトス（疾病ニ付テモ亦同ジ）（法一三條、四七條等）

一八、被保險者ガ勞務ニ服シタルモ就業時間中傷病ノ爲勞務不能ト爲リタル場合ニ於ケル傷病手當金支給期間ノ開始日竝ニ其ノ日ニ於ケル傷病手當金　療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ者ガ其ノ後勞務ニ服シ其ノ後更ニ右ノ傷病ノ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合及公休日ニ報酬ヲ受ケタル場合モ左記イ、ノ2ニ準ジ傷病手當金ヲ支給相成度又出産手當金ノ支給ニ付テモ同樣トス

イ、業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ場合

1、其ノ日ハ傷病手當金支給期間ノ開始日トスルコト但シ傷病手當金ノ額以上ノ報酬ヲ受ケタルトキハ翌日ヲ開始日トスルコト（「註」法五八條、施行令八五條參照）

2、其ノ日ニ受ケタル報酬ガ傷病手當金ノ額ニ等シキカ又ハ之ヨリ大ナルトキハ傷病手當金ヲ支給セズ小ナルトキハ其ノ差額ヲ傷病手當金トシテ支給スルコト（傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ者ガ其ノ後勞務ニ服シ其ノ後更ニ右ノ傷病ノ療養ノ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合及公休日ニ報酬ヲ受ケタル場合ニ於ケル傷病手當金ノ支給及出産手當金ノ支給ニ付テモ之ニ準ズ）「註」法五八條、施行令第八五條參照）

ロ、業務上ノ事由ニ因ラザル傷病ノ場合

其ノ日ハ傷病手當金支給待期三日ノ中ニ包含スルモノトス（註、法第五八條、施行令第八五條、第八六條參照）

一九、傷病手當金支給ノ開始日　被保險者ガ法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受ケザル期間ト雖法第四十七條ノ傷病手當金ノ支給ノ開始日ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ（業務上ノ事由ニ因ラザル傷病ノ場合ニハ三日ノ待期終了ノ日ノ翌日ヨリ）起算スベキモノトス（法五八條、施行令八五條）

二〇、業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ニ受ケタル報酬ヲ算定スルコ

ト困難ナル場合ニ於ケル報酬日額　稼高又ハ請負ニ依リ報酬ノ支給ヲ受クル被保險者就業中ニ業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ療養ノ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合傷病手當金ノ支給期間ノ開始ニ關シ其ノ日ニ受ケタル報酬ヲ算定スルコト困難ナルトキ（例之同時ニ相當期間ヲ要スル數箇ノ製品ノ加工ニ着手セル場合又ハ數人共同シテ或製品ノ加工ニ着手セルガ如キ場合ハ當日分ノ報酬ヲ算定スルコトハ困難且煩雜ナルノミナラズ其ノ製品完成後ナラザレバ確定セザルガ如キ場合）ハ其ノ者ノ當日勤務セシ時間ノ當該工場所定ノ勤務時間ニ對スル割合ヲ其ノ者ノ標準報酬日額ニ乘ジテ得タル金額ヲ以テ當日分ノ報酬ト認定シ取扱フモノトス（法二條、五八條、施行令三條、八五條）

二一、保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セザル疾病ノ手術ヲ爲シタル爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ場合　保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セザル疾病又ハ先天的障害ニ對シ被保險者ガ自己ノ費用ヲ以テ手術ヲ施シ爲ニ勞務ニ服スルコト能ハザリシ場合ニ於テハ傷病手當金ヲ支給セザルモノトス（法四三條）

二二、休業中家事ノ副業ニ從事　傷病ノ療養ノ爲休業中ニ家事ノ副業ニ從事シタル場合ト雖該傷病ノ狀態ガ工場ニ於ケル勞務ニ服シ得ザル程度ノモノナリトセバ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス而シテ斯カル場合ニ於テ傷病手當金ヲ減額シテ支給スルコトヲ得ザルモノトス

二三、被保險者療養中ニ內職　被保險者鄕里ニ歸省シテ療養ヲ爲シタル場合ニ於テ適度ナル內職ヲ爲シ收入ヲ得タルモ該收入ハ健康保險法ニ規定スル報酬ニ非ザルヲ以テ傷病手當金ハ標準報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額ヲ支給スベキモノトス（法五八條）

二四、鑛夫勞役扶助規則ニ依ル休業扶助料ヲ受クル間ニ新ニ業務外ノ疾病ニ罹リ之ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合　被保險者業務上ノ事由ニ因ル負傷ニ付鑛夫勞役扶助規則ニ依ル休業扶助料ヲ受ケツツアル間ニ新ニ業務外ノ事由ニ因ル疾病ニ罹リ其ノ疾病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ニ於テハ傷病手當金全額ヲ支給スベキモノトス而シテ此ノ傷病手當金ノ支給ヲ受クル間ハ休業扶助料ノ支給ヲ受ケ得ザルモノトス（鑛夫勞役扶助規則一九條、二六條ノ二）

二五、傷病手當金ノ支給ヲ受クル者ガ代人ヲシテ勞務ニ服セシメタル場合ニ於ケル兩者ノ關係　被保險者甲ハ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト不能ト爲リタルヲ以テ其ノ期間傷病手當金ノ支給ヲ受ケタルモ年末賞與等ノ減額セラルルコトヲ慮リ代人乙ヲシテ本人甲ノ名ヲ以テ勞務ニ服セシメ且報酬ヲ受領セシメタリ此ノ場合ニ於テハ勞務供給ニ關シテハ甲ト乙トハ別個ノモノニシテ甲ガ傷病手當金ヲ受ケタルコトハ正當ナリ而シテ乙ニ付テハ健康保險法施行令第九條ニ依リ被保險者資格取得ノ有無ヲ考慮スベキモノトス（法一三條、施行令九條）

二六、被保險者ノ死亡當日ノ傷病手當金　被保險者死亡シタル場合ニ於テハ死亡當日ハ仍被保險者ノ資格アルヲ以テ其ノ日ノ傷病手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（法一八條）

二七、工場法令等ニ依リ就業ヲ禁止セラレタル場合ト傷病手當金　癩病（斑紋ヲ生ジタルモノ）ニ罹リ工場法施行規則第八條ノ規定ニ依リ其ノ工場ニ於テ就業ヲ禁止セラレタル場合ト雖其ノ症狀ガ勞務ニ服スルコトヲ得ル狀態ニアル者ニ對シテハ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス（工場法施行規則八條、鑛夫勞役扶助規則一四條）

二八、法第六十一條ノ適用ニ依リ傷病手當金半額ヲ受ケツツアル間ニ他ノ事故タル疾病ノ療養ノ爲勞務不能ト爲リタル場合ニ於ケル傷病手當金　被保險者法第六十一條ノ適用ヲ受ケ傷病手當金半額ヲ受ケツツアル間ニ他ノ事故タル疾病ニ罹リ之ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ（非入院ノ場合トス）其ノ期間右ノ二事故ヲ通ジテ傷病手當金全額ヲ支給スルモノトス（法六一條）

二九、廢疾ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合　被保險者負傷ノ爲廢疾ト爲リ其ノ負傷ニ付療養ノ必要ナキニ至リタル場合ニ在リテハ勞務ニ服スルコト能ハズト雖斯クノ如キハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルモノニ該當セザルヲ以テ此ノ場合ニハ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス

三〇、業務上ノ事由ニ因ル傷病ナリヤ否ヤノ別

イ、負傷ヲ受ケタル時ガ被保險者ノ資格取得前ト雖其ノ負傷ガ其ノ者ノ使用セラルル事業ニ於ケル業務上ノ事由ニ因ルモノトセバ被保險者ノ資格取得後保險給付ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ負傷ハ依然業務上ノ事由ニ因ル負傷ナルモノトス故ニ保險給付ニ當リ之ヲ業務上ノ事由ニ因ラザル負傷トシテ取扱フガ如キハ不可然モノトス（疾病ニ付テモ亦同ジ）

ロ、現場監督トシテ業務上ノ指揮權ヲ有スル被保險者甲ガ被保險者乙ニ對シ業務上ノ指揮ヲ與ヘタルニ乙ハ之ニ反抗シ甲ヲ毆打シ負傷セシメタル場合ニ於テハ甲ハ假令業務ヲ遂行セムガ爲ニ蒙リタル負傷ナリト雖該負傷ヲ業務上ノ事由ニ因ル負傷ト認ムベキモノニ非ザルモノトス

ハ、屋外作業ヲ必要トスル業務ニ炎天下ニ於テ從事中罹リタル日射病ハ業務上ノ事由ニ因ル疾病ニ該當スルモノト思料セラル

ニ、痘種接種又ハ腸窒扶斯豫防注射ノ結果種痘セル部位ヨリ黴菌侵入シタル爲又ハ注射ノ反應激甚ナル爲發熱シ疼痛ヲ訴フルガ如キ場合ニ於テ右ノ種痘又ハ腸窒扶斯豫防注射ガ事業主ノ强制ニ由ルモノナリト雖斯クノ如キハ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病トシテ取扱フベキモノトス

ホ、發電所勤務ノ發電手タル被保險者ガ常務ノ餘暇架設工事ニ從事中該工事ノ爲負傷ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ負傷ハ業務上ノ事由ニ因ル負傷トシテ取扱可然モノトス

ヘ、捲揚機ニ搭乘スルコトヲ事業主ガ嚴禁セルニモ拘ラズ搭乘シ又ハ危險豫防ニ關スル監督者ノ眼ヲ盜ミテ炭車ニ飛乘リタルガ爲ニ受ケタル負傷ハ業務上ノ事由ニ該當スルモノトス

ト、健康保險組合管掌ノ本社工場ノ被保險者タル從業員其ノ使用セラルル事業主ヨリ出張セシメラレ其ノ出張ノ目的タル用務中出張地ノ工場、鑛山等ニ於テ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ本社工場ノ作業ニ非ザルモ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷トシテ取扱フベキモノトス

チ、業務上ノ負傷ナリヤ否ヤノ大體ノ標準トシテハ負傷ノ原因ガ業務ニ直接關係アリヤ否ヤニ依リ決スベキモノナルモ結局具體的ノ場合ニ應ジ認定スルノ外ナキモノトス

リ、火災ノ場合事業主ノ指揮ニ依リ又ハ消防ニ關シ工場ニ於テ定ムル所ニ從ヒ工場ノ爲ニ消防ニ從事シ負傷シタルモノナルトキハ勤務時間中ナルト否トヲ問ハズ又工場ノ內外ヲ論セズ業務上ノ事由ニ因ル負傷トス

ヌ、左記ノ場合ニ於テハ事業主トシテ爲スベキ設備及施設等ノ缺陷ニ起因セザル限リ業務上ノ事由ニ因ル負傷ニ非ズト認メラル

1、印刷工ガ印刷作業中俄ニ用便ヲ催シ地階ノ便所ヘ赴ク爲地階ヘ下ル鐵製梯子ヲ降ル際誤テ足ヲ滑ラシ轉落シ腰部ヲ强打負傷セル場合

2、文選工ガ休憩時間中二階ノ文選工場ヨリ三階ノ食堂ヘ食事ニ赴ク途中廊下ノ打水ノ爲誤テ滑リ足部ヲ捻挫負傷セル場合

3、文選工ガ採字作業中作業場ノ窓ヨリ强風ノ吹込ヲ防ゲ爲其ノ窓ヲ閉メントシテ誤テ右手指頭ヲ戶ニ挾ミ負傷シタル場合

4、文選工ガ其ノ作業終了シ作業場ヨリ退出ノ際階段ニテ誤テ足ヲ滑ラシ足部ヲ骨折シタル場合

ル、機械工ガ回轉中ノ軸轉印刷機械ノ齒車ニ指先ニテ塗油スル際誤テ右手ヲ齒車ニ挾マレ五指竝ニ手甲ヲ碎キタル如キハ業務上ノ事由ニ因ル負傷トス

ヲ、鉛版工ガ午前三時ニ其ノ作業終了シタルモ電車ナキ爲工場內ノ當直室ニ泊リタルニ午前五時ニ地震アリ驚愕ノ餘リ窓ヨリ飛ビ降リ踵ヲ骨折シタル如キハ業務上ノ事由ニ因ラザル負傷トス

ワ、保險者ガ保險施設トシテ被保險者ノ寄生蟲驅除ヲ施行シタル結果疾病ト認ムベキ程度ノ症狀ヲ呈シタルモノニ付テハ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病トシテ取扱フモノトス

カ、事業主ガ其ノ使用スル從業員ニ對シ工場管理ノ必要上食事ヲ給與スル工場ニ於テ偶々食中毒症ヲ起シタル場合ハ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病トシテ取扱フベキモノトス

ヨ、工場附近ニ**コレラ**又ハ**腸チブス**等ノ患者發生シ事業主ガ警察署又ハ衞生組合等ノ指示又ハ命令ニ依リ公衆衞生ノ必要上豫防注射ヲ施シタル場合之ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病トシテ取扱フベキモノトス

タ、從業員ノ工場衞生上事業主ニ於テ寄生蟲驅除ヲ施行シタル結果疾病ト認ムベキ程度ノ症狀ヲ呈シタルトキハ業務上ノ事由ニ依ル疾病トシテ取扱フベキモノトス

レ、事業場主催ノ運動會ニ出場シ競技中負傷シタルモノハ業務上ノ事由ニ因ラザル負傷トシテ取扱フベキモノトス

ソ、甲工場ニ於ケル被保險者ガ甲工場臨時休業中乙工場ニ雇ハレ業務上負傷シタル場合ハ乙工場ニ於ケル使用關係ニ依リテモ被保險者タル場合ニ於テハ業務上ノ事由ニ因ル負傷ナルモ乙工場ニ於テハ健康保險法施行令第九條ノ規定ニ依リ被保險者タラザルモノトセバ乙工場ニ關スル限リ健康保險ノ被保險者ニアラザルヲ以テ健康保險ニ於テハ業務上ノ事由ニ因ル負傷トシテ取扱ハザルモノトス

ツ、業務上ノ事由ニ因ル疾病ガ再發シタル場合ニ於テ該疾病ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤハ再發ノ際從事スル業務ニ基因スルモノナリヤ否ヤニ依リ決スベキモノトス

（參照條文）

工場法施行規則第八條　33頁參照

鐵夫勞役扶助規則第十四條　34頁參照

同　第十九條　鐵夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ鐵業權者ハ鐵夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減ズルコトヲ得

鐵夫勞役扶助規則第二十六條ノ二　鐵夫健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クベキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同ジ

2鐵夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

3健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

（第十八條　鐵夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鐵業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ）

法第四十六條、第五十四條、第五十七條、第五十八條、第五十九條乃至第六十五條

法第六十六條、施行令第八十九條

施行規則第五十七條

第四十六條

病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

（參照條文）

施行令第七十九條

第四十七條

療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

一、「同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病」ノ範圍

イ、法第四十七條第一項ノ「同一ノ疾病又ハ負傷」トアルハ再發ニ係ルモノヲ含マザルモノトス

ロ、斷續シテ療養ノ給付ヲ爲ス疾病ト雖其ノ疾病ガ連續セルモノトセバ同一ノ疾病ト認ムベキモノトス

ハ、醫師ノ付シタル病名ガ異ル場合ト雖モ疾病其ノモノガ同一ナルコト明カナルトキハ法第四十七條ニ所謂「同一ノ疾病」ニ該當スルモノトス

ニ、法第四十七條ニ所謂「之ニ因リ發シタル疾病」トハ同一系統ノモノナルト否トヲ問ハズ或ル傷病ヲ原因トシテ發シタル疾病ヲ謂フ義ナルモ前傷病一旦治癒シタル後之ヲ原因トシテ發シタル疾病ヲ含マザルモノトス

ホ、法第五十五條該當ノ被保險者ニシテ轉醫シタル場合其ノ症狀ニ變化ナキニモ拘ラズ新舊保險醫ノ診斷著シク相違シ殆ンド前後同一疾病ト雖認場合ト雖如斯ハ同一ノ疾病トシテ取扱フベキモノトス

ヘ、被保險者從來喘息、トラホーム其ノ他眼科耳鼻ノ疾患ニテ療養ノ給付ヲ受ケ百八十日ノ保險給付期間滿了後相當期間ヲ經過シ再ビ療養ノ給付ヲ申出デタル場合ハ再發前ノ疾病ガ社會通念上治癒シタリト認メ得ベキ狀態ニ在ルトキハ別個ノ疾病ト看做シ取扱フヲ妥當ト認メラル

ト、被保險者ガ眼疾ノ自覺症狀アリ保險醫ノ診療ヲ求メタルニ診察ノ結果白內障ト診斷セラレタルモ未ダ成熟セザルヲ以テ治療ヲ施スベキ時期ニ至ラザル旨申渡サレ何等ノ治療ヲ受ケズ其ノ後甚シク視力障碍ヲ來セルヲ俟テ改メテ診療ヲ受ケントシタル如キ場合ニ於テハ保險給付ハ一旦終了シタルモノト看做シ後ノ給付ニ付テハ別ニ期間ノ計算ヲ爲スヲ妥當ト認メラル

チ、被保險者肺尖カタルニテ治療中漸次自覺症狀消失シ他覺的ニ於テモ略ド病變ヲ認メザルニ至リ患者ハ就業ヲ希望シ保險醫モ亦就業可能ト認メ就業上支障無之程度ノモノトセバ治癒ト認メ差支ナキモノトス

二、療養ノ給付及傷病手當金ノ支給日數

イ、保險醫ガ保險者ニ對シ診療報酬請求ノ權利ヲ拋棄スルモノトス

ロ、指定外醫師ノ診療ヲ受ケタル場合療養費請求權ヲ拋棄シタル場合ハ療養給付日數ニ算入セズ

ハ、再發ニ係ル疾病ハ前ニ罹リタル同名ノ疾病ト異ル疾病ト見ルベキモノナルヲ以テ再發ニ係ル疾病ニ對スル療養給付及傷病手當金支給ノ日數ハ前ニ罹リタル同名ノ疾病ニ對スル分ト通算スベキモノニ非ザルモノトス

ニ、法第四十七條ノ百八十日ノ日數ハ保險者變更ノ場合ニ於テモ之ヲ通算スルモノトス

ホ、法第四十七條ノ「一年內百八十日」ノ期間ハ保險者異ル場合ニ於テハ各保險者ノ分ヲ通算スルモノトス

ヘ、出產手當金ノ支給ヲ受ケタルガ爲傷病手當金ノ支給ヲ受クルコトヲ得ザリシ期間ハ法第四十七條ノ期間ニ算入セザルモノトス（法五四條）

ト、施行令第八十五條本文ノ規定ニ依リ傷病手當金ヲ支給セザル日數ト雖法第四十七條ノ傷病手當金支給日數ニ算入スベキモノトス（法五八條、施行令八五條）

チ、法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受ケザル期間ト雖法第四十七條ノ場合ニ於テハ此ノ期間ハ同條ノ百八十日ノ日數ニ包含セラルルモノトス（法五八條）

リ、注射又ハ齒ノ治療ヲ斷續シテ爲ス場合ニ於テ治療ノ必要上一定ノ間隔ヲ置クコトヲ要スルモノナルトキ

（醫師又ハ被保險者ノ都合ニ依リテ間隔ヲ置キタル場合ヲ含マズ）ハ現ニ注射又ハ治療ヲ爲サザル日アリト雖此ノ日ハ療養日數ニ包含スルモノト解スル方妥當ナルモノトス

ヌ、齒髓炎、齒根膜炎等ヲ治療シ假ニ充塡シテ經過ヲ見ル場合ノ假充塡ノ期間ハ療養給付ノ日數ニ包含スルモノトス

ル、拔齒シテ補綴ヲ爲ス場合ニハ拔齒ト補綴トハ異ル給付ト認メラルルヲ以テ拔齒ノ後處置終了ノ日ノ翌日ヨリ補綴ヲ爲ス前日迄ノ期間ハ療養給付ノ日數ニ包含セザルモノトス

ヲ、打撲傷ヲ蒙リタル者ガ一月一日ニ醫師ノ診療ヲ受ケ其ノ際疼痛甚シキトキニ使用スベキ藥劑ヲ該醫師ヨリ支給ヲ受ケ自宅ニ於テ安靜中同月七日ニ治癒シタルガ如キ又ハ或疾病ニ罹リタル者ガ一月一日ニ醫師ノ診療ヲ受ケ其ノ際醫師ヨリ五日分ノ藥劑ノ支給ヲ受ケ療養中（入院セザルモノ）同月十日ニ治癒シタルガ如キ場合ニ於ケル療養ノ給付ノ日數ハ現ニ診療ヲ受ケタル日數ト藥劑ノ使用ニ付醫師ノ指示シタル使用日數トニ依リ計算スルモノトス

ワ、保險醫ニ於テ療養ノ給付ヲ受クル者ニ對シ一回ノ診療ノ際二日分又ハ三日分（此ノ日數ハ保險醫ノ指示シタル使用日數トス）ノ服藥劑又ハ含嗽藥、罨法藥（外用藥）等ノ支給ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ藥劑ノ使用日數（卽チ保險醫ノ指示シタル使用日數）ヲ療養ノ給付ノ日數トシテ計算スルモノトス

カ、六月一日ニ診察ヲ受ケ當日三日分ノ藥劑ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ療養ノ給付ノ日數ハ此ノ藥劑ヲ實際ニ服用シタル日時ノ如何ニ拘ラズ之ヲ三日トシテ計算スベキモノトス卽チ藥劑ノ一日分ハ受診當日ニ服用シタルモノト看做スベキモノトス

ヨ、業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ヲ受クル期間中ニ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ノ日數ハ之ヲ各別ニ計算スルモノトス

タ、業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ヲ受クル期間中ニ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ヲ受クル場合ニ於テハ療養ノ給付ノ日數ハ之ヲ各別ニ計算スルモノトス

傷ニ付療養ノ給付ヲ受クル場合ニ於テ執ノ疾病又ハ負傷ニ付テモ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合ニ於ケル傷病手當金ノ支給日數ハ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ト然ラザル疾病又ハ負傷トノ各別ニ計算スベキモノトス（傷病手當金ヲ重複シテ支給セザルコトハ勿論タリ）

三、業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ト然ラザル疾病又ハ負傷トヲ受クル期間ト業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ニ付保險給付ヲ受クル期間トガ重複スル場合ニ於テハ是等兩者ノ疾病又ハ負傷ニ付執モ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシトキハ傷病手當金ハ之ヲ各別ニ計算支給スルモノニ非ズシテ此ノ兩者ヲ通ジテ計算支給スルモノトス（法四五條）

四、同一ノ傷病ニ付療養繼續中ノ者法第六十二條第一項ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テモ其ノ期間ハ百八十日ノ制限期間中ニ包含セラルルモノトス（法六二條）

五、療養ノ給付及傷病手當金支給期間ノ計算　法第四十七條ニ於テ「其ノ保險給付」トアルハ療養ノ給付及傷病手當金ニ付キ各別ニ百八十日ノ期間ヲ計算スベキ義ナリトス（法四十五條）

六、業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニ付執モ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル場合業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ト然ラザル疾病又ハ負傷トヲ受クル期間ト業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニ付保險給付ヲ受クル期間トガ重複スル場合ニ於テハ是等兩者ノ疾病又ハ負傷ニ付執モ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ時ハ傷病手當金ハ之ヲ各別ニ計算支給スルモノトス（法四五條）

七、「其ノ保險給付ヲ始メタル日」ノ意義　法第四十七條ニ所謂「其ノ保險給付ヲ始メタル日」トハ傷病手當金ヲ支給セズシテ出產手當金トシテ之ヲ支給セシ場合ト雖事實ニ於テ傷病手當金ノ支給ヲ爲シ得ル狀態ニ在リタルモノナルトキハ其ノ初日ヲ指稱スルモノトス（法五〇條、五四條、施行令八〇條）

八、療養ノ給付期間ト傷病手當金ノ支給期間トノ關係　療養ノ給付開始後第四日目ヨリ傷病手當金ノ支給ヲ爲ス

場合ニ於テハ療養ノ給付ノ期間終了後三日間迄傷病手當金ヲ支給シ得ルモノトス（法四五條）

九、出產手當金ノ支給ト傷病手當金ノ支給期間トノ關係　傷病手當金ノ支給ヲ受ケタルガ爲傷病手當金ノ支給ヲ受クル申途ニ於テ出產手當金ノ支給ヲ受クルコトヲ得ザリシ場合ト雖傷病手當金ノ支給ハ其ノ支給ヲ開始シタル日ヨリ百八十日目ヲ以テ打切ルモノトス（法五四條）

第四十八條

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一　他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二　前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

2前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

一、法第四十八條ノ繼續療養中ノ被保險者ニ對スル立會診療等　法第四十八條ノ規定ニ依ル繼續療養中ノ被保險者ニ對スル立會診療ノ承認申請ハ爲シ得ル（若シ併發症アル場合ニ於テハ被保險者證ノ提出ナキ場合ニ於テモ療養證明書ヲ發行シ差支ナシ）モ保險醫變更ノ承認申請ハ不可然モノトス（法四七條、法四九條）

二、本人又ハ第三者ガ擔保ヲ提供シテ申請シタル場合ニ於ケル該費用ノ利子　法第四十八條第一項第二號ニ依リ本人又ハ第三者ガ擔保ヲ提供シテ申請シタル場合ニ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲シタルトキ該給付ノ開始ヨリ償還迄ノ期間ニ於ケル該費用ノ利子ハ之ヲ其ノ償還額中ニ包含セシメザルモノトス（參照條文）施行規則第五十八條

第四十九條

被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬費トシテ被保險者ノ報酬日額ノ三十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ三十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス

2被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍內ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

一、死體ノ一部又ハ遺物ノ埋火葬費　死體ノ一部又ハ之ヲ支給スルモノトス（法五六條）

二、「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」ノ意義

イ、法第四十九條第一項ノ「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」トハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ指スモノニシテ死亡者ノ收入ニ依リ生計ヲ維持セルノ事實アルヲ以テ足リ必ズシモ民法上ノ親族又ハ遺族タルコトヲ要セズ且被保險者ノ世帶主タルト被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ガ被保險者ト同一世帶內ニ在リタルト否トハ之ニ關セザルモノト解スルヲ至當トス（法五六條）

ロ、法第四十九條ノ「被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」トハ被保險者ニ依リ生計ノ全部若ハ大部分ヲ維持シタル者ノミニ限ラズ生計ノ一部分ヲ維持シタル者ヲモ含ムモノトス（法第五十六條ノ「被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者」ノ意義ニ付テモ亦同樣ノ義トス）（法五六條）

三、「埋葬ヲ行フモノ」ノ意義　法第四十九條第一項ノ「埋葬ヲ行フモノ」トハ埋葬ノ事實如何ニ關セズ埋葬ヲ行フベキ者ヲ謂フ義トス（法五六條）

四、自殺ト死亡ニ關スル保險給付　被保險者又ハ被保險者タリシ者自殺ヲ爲シタルトキハ此ノ者ノ死亡ニ關スル保險給付ハ之ヲ爲スベキモノトス（法五六條）

五、埋葬費ノ範圍　法第四十九條第二項ノ「埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額」トハ埋葬ニ直接要シタル實費額トス但シ被保險者ノ標準報酬日額ノ三十日分ニ相當スル金額（此ノ金額三十圓未滿ノトキハ三十圓トス）ノ範圍內ニ止ムベキモノトス法第五十六條第二項ノ場合亦同ジ尙埋葬ニ直接要シタル實費額トハ靈柩代又ハ之ガ借料、靈柩運搬人夫賃、葬式ノ際ニ於ケル死者靈前供物代及僧侶ノ謝禮等ノ如キモノヲ指スモノトス（法五六條）

六、死體移送費ト埋葬費　被保險者ガ病院ニ收容セラレ療養ヲ受ケツツアル間ニ死亡シタル場合ト雖其ノ死體ヲ自宅迄ニ移送ノ爲要シタル費用ハ埋葬費中ニ包含請求スベキモノニ非ザルモノトス（法五六條、施行規則六〇條）

（參照條文）

施行規則第五十九條

第五十條

被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出產手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

一、保險事故タル分娩

イ、健康保險ニ於テ分娩ノ給付ヲ爲スハ姙娠四箇月以上（一箇月ハ二十八日ヲ以テ計算ス）ノ分娩ニシテ此ノ分娩トハ生產ノミナラズ死產及流產ヲモ含ムモノニシテ此ノ死產及流產モ姙娠四箇月以上ノモノタルコトヲ要スルモノトス

ロ、母體ノ保健上人工ニ依リテ爲ス分娩ニ付テモ分娩費ヲ支給スベキモノトス（出產手當金モ支給スベキモノトス）

ハ、健康保險ニ於テ分娩ニ關スル給付ヲ爲スノ目的ハ主トシテ母體ヲ保護スルニ在ルヲ以テ父ノ不明ナル私生子ノ分娩ノ場合ト雖給付ヲ爲サザルベカラザルモノトス

二、產婆ノ手ヲ藉ラザル分娩　產婆ノ手ヲ藉ラズシテ爲シタル分娩ト雖保險給付ハ之ヲ爲スベキモノトス

三、雙兒分娩ノ場合ト分娩費　雙兒分娩ノ場合ト雖保險事故タル分娩ハ一ナルヲ以テ分娩費ハ二十圓（產院ニ收容シ又ハ助產ノ手當ヲ爲シタルモノハ十圓）ヲ支給スベキモノトス但シ胎兒每ニ胎盤ヲ有シ一產兒ヲ排出シ次デ其ノ後產ヲ排出シ更ニ他ノ一產兒ヲ排出シ次デ其ノ後產ヲ排出スルガ如キハ產兒每ニ分娩ヲ異ニスルモノナルヲ以テ斯カル場合ニ於テハ產兒每ニ分娩費ヲ支給スベキモノトス

四、市町村營助產取扱所ニ於ケル助產ノ手當ト分娩費ノ額　市町村營助產取扱所ニ於テ無料ニテ其ノ市町村居住ノ姙婦ノ助產ノ手當ヲ爲ス場合其ノ市町村ニ居住スル被保險者ガ該助產取扱所ニ於テ助產ノ手當ヲ受ケタル場合ト雖モ該助產ノ手當ハ健康保險法第五十一條ノ助產ノ手當ニ非ザルヲ以テ分娩費ハ二十圓ヲ支給スベキモノトス（法五一條）

五、雙兒分娩ノ場合ト出產手當金　雙兒分娩ノ場合ニ於テ一兒ハ九月二十四日分娩シ他ノ一兒ハ同月二十七日分娩シタル場合ニ於テハ出產手當金ハ九月二十四日前二十八日、九月二十七日以後四十二日以內ニ於テ勞務ニ

服セザリシ期間ニ對シテ支給スベク尚九月二十四日乃至同月二十六日ノ期間ヲモ支給スベキモノトス（施行令八〇條）

六、分娩前死亡シタル場合ト出產手當金　妊娠ノ爲休養中分娩前ニ死亡シタル場合ト雖分娩豫定日前法定期間內ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間ニ對スル出產手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス

七、工場ノ公休日ニ於ケル出產手當金　工場ノ公休日ト雖分娩豫定日前二十八日間又ハ三十五日間、分娩ノ日以後四十二日間ニ勞務ニ服セザル狀態ニ在ラバ出產手當金ハ之ヲ支給スベキモノトス（施行令八〇條）

（參照條文）

施行令第八十二條

法第五十八條、第五十九條、施行規則第六十一條、第六十二條

第五十一條

保險者ハ被保險者ヲ產院ニ收容シ又ハ助產ノ手當ヲ爲スコトヲ得

2產院ニ收容シ又ハ助產ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出產手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

一、產院ノ意義　法第五十一條ノ「產院」トハ妊娠ヲ收容シ出產セシムルニ足ル相當ノ設備ヲ有スルモノヲ謂フ

二、第一項ノ趣旨　保險者ハ助產ノ手當ヲ受クル被保險者ヲ更ニ產院ニ收容シ得ルモノトス卽チ法第五十一條第一項ノ規定中「產院ニ收容シ又ハ助產ノ手當ヲ爲スコトヲ得」トアルハ產院收容ト助產ノ手當ノ兩者ノ中其ノ一ニ限ル趣旨ニ非ザルモノトス

三、胎兒死亡ニ付之ガ處置ノ爲ノ入院及手術　保險給付トシテ爲ス場合ノ費用及分娩費ノ額　胎兒死亡ニ付之ガ處置ノ爲入院シ手術ヲ受クルコトヲ要スルニ付右ノ入院及手術ヲ保險給付トシテ爲ス場合ハ之ガ費用ハ助產ノ手當ノ費用トシテ支出スベキモノニシテ療養費トシテ支出スベキモノニ非ズ尚此ノ場合ノ分娩費ハ半額ヲ支給スルモノトス（施行令八一條、施行規則樣式七號）

四、分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置　分娩ノ場合ニ於ケル人工的處置トハ左ノ如キモノヲ謂フモノトス

イ、軟部產道擴張處置　卽チ子宮及子宮口ノ擴張處置、膣及外陰部ノ擴張處置等ナリ

ロ、骨部產道又ハ骨盤ノ擴大處置　卽チ恥骨ノ縫合又ハ切開處置等ナリ

ハ、人工破水處置

五、助產ノ手當ノ範圍　胎盤ノ早期剝離ノ場合ニ於ケル止血或ハ强心ヲ目的トスル處置、帝王切開術ヲ以テスル胎盤摳出ノ處置及陣痛微弱ノ爲之ヲ催進スル目的ヲ以テスル處置等ハ孰モ助產ノ手當ノ範圍ニ屬スルモノトス

第五十二條

分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サルコトヲ定ムルコトヲ得

（參照條文）

施行令第八十二條

第五十三條

分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

一、分娩前後保險者變更　分娩前後ニ保險者ノ變更アリタル場合ニ於テ分娩ニ關スル給付ヲ爲ス保險者ハ分娩ノ日前二十八日又ハ三十五日ノ間、分娩ノ日以後四十二日ノ間ニ於ケル保險者トス尙此ノ場合ニ於テハ給付ヲ爲シタル保險者ニ於テ關係保險者ニ對シ分擔金ヲ求償スベキモノトス（施行令八〇條、八三條）

第五十四條

出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

一、病院ニ收容セラレタル場合ニ於ケル出產手當金ノ額　傷病ト分娩トノ事故競合シ法第五十四條ノ適用ヲ受クル期間中ニ病院ニ收容セラレタル場合ニ於テハ出產手當金ハ施行令第七十九條及第八十一條第二項ノ趣旨ニ依リ減額シテ支給スベキモノトス（施行令七九條、八一條）

第五十五條

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

一、「被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際」ノ意義

イ、法第五十五條ノ「資格ヲ喪失シタル際」トハ法第十八條ノ「業務ニ使用セラレザルニ至リタル日、又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日」ヲ謂フ義トス（法一八條）

ロ、法第五十五條ノ「被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際」トハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル時ト解スベキモノトス（例ヘバ十一日ニ解雇セラレタル者ハ十二日午前零時ニ被保險者ノ資格ヲ喪失スルガ如シ）

二、法第五十五條ノ規定ニ依リテ爲ス療養ノ給付ノ程度　法第五十五條ノ規定ニ依リテ爲ス療養ト雖保險者ニ於テ必要ト認ムル處置若ハ手術ヲ爲シ又ハ病院ニ收容スベキモノニシテ是等ノ給付ハ被保險者ノ資格ノ有無ト何等關係ナキモノトス（法四三條、施行令七四條）

三、繼續シテ受ケ得ル給付

イ、被保險者ノ資格喪失後法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ受クルコトヲ得ベキ給付ハ被保險者ノ資格喪失ノ際受クル給付ノミニ限ルモノトス例ヘバ資格喪失ノ際疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ノミヲ受クルモノニ在リテハ資格喪失後被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間內ニ其ノ疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合ト雖傷病手當金ノ支給ハ之ヲ受クルコトヲ得ザルガ如シ

ロ、被保險者ノ資格喪失ノ際繼續シテ給付ヲ受ケ得ル疾病又ハ負傷ハ資格喪失當時ニ給付ヲ受クル疾病又ハ負傷ニ限ルモノニシテ其ノ疾病又ハ負傷ノ治癒後發生スル疾病又ハ負傷ヲ含マザルモノトス

ハ、業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ第三日目ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ資格喪失ノ際傷病手當金ノ支給ヲ受ケザルヲ以テ資格喪失後ト雖傷病手當金ノ支給ヲ受ケ得ザルモノトス卽チ此ノ場合ニ於テハ法第五十五條ノ適用ナキモノトス

ニ、被保險者ガ拔齒ノ給付ヲ受ケ其ノ結果咀嚼能力五〇%ニ低下シ引續キ義齒ノ給付ヲ受クル目的ヲ以テ齒齦ノ恢復ヲ待チツツアル間ニ資格ヲ喪失シタル場合ノ如キ右拔齒ガ義齒ノ裝着ヲ目的トシタルモノナルトキハ資格喪失後ト雖モ齒科補綴ノ給付ヲ爲スベキモノトス

ホ、歯科治療中抜歯ノ爲受ケタル患部治癒セザル爲補綴スベキ床型ヲ採ルコト能ハザル中ニ被保險者ノ資格喪失シ其ノ資格喪失シタル日ニ歯科補綴ノ承認方請求アリタル場合（其ノ補綴時期ハ資格喪失後一箇月餘後）ハ健康保險法第五十五條ニ該當スルモノトス

ヘ、被保險者資格喪失ノ際自費ヲ以テ疾病ノ療養ヲ爲シ之ガ爲勞務ニ服スルコト能ハザルヲ以テ傷病手當金ノ支給ヲ受クル者ハ資格喪失後繼續シテ傷病手當金ノ支給ヲ受ケ得ルモ療養ノ給付ヲ受ケ得ザルモノトス

四、被保險者資格喪失後繼續療養中ノ齲蝕症　被保險者資格喪失ノ際ヨリ齲蝕症ニ付繼續シテ療養ノ給付ヲ受ケツツアル者ガ其ノ療養ノ給付中ニ於テ更ニ他齒ノ齲蝕症（被保險者資格喪失前ヨリ起レルモノ）ノ治療ヲ必要トスルモ此ノ後者ノ齲蝕症ハ前者ノ齲蝕症ト同一經内ニ在リト雖患部ヲ異ニシ兩者別個ノモノナルヲ以テ後者ノ齲蝕症ニ付テハ法第五十五條ノ規定ノ適用アルモノトス

五、法第五十五條該當者ガ更ニ健康保險ノ被保險者ト爲リタル場合ニ於テハ法第五十五條ノ規定ニ依ル給付ハ消滅スルモノニシテ此ノ場合ニ右ノ給付ノ原因タル保險事業ガ仍繼續シ而モ未ダ法定ノ支給期間滿了セザルモノナルトキハ其ノ者ノ屬スル保險者ニ於テ有ノ事故ニ對シ法第五十五條ノ規定ト關係ナク保險給付ヲ爲スベキモノトス

六、法第二十條ト之ノ關係

イ、法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ給付ヲ受クルコトハ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タリ得ル資格ニ何等關係ナキモノトス尚法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失スル際ニ保險給付ヲ受ケツツアラバ之ニ對シテモ法第五十五條ノ規定ノ適用アルモノトス（法二〇條）

ロ、健康保險法第五十五條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クベキ者ガ任意繼續被保險者ト爲リタル場合ニ於テモ同條ノ規定ニ依リ受ケ得ベキ保險給付ハ從來ノ保險者ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス（法二〇條）

七、法第五十五條該當者ガ巡査等ニ就職シタル場合ニ於ケル給付　被保險者ノ資格喪失後法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ保險給付ヲ受クル者ガ巡査ニ就職シタル場合ニ在リテモ被保險者トシテ、保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間ハ繼續シテ其ノ給付ヲ爲スコトヲ要スルモノトス尚工場法ノ適用ナキ工場ニ使用セラル官吏又ハ公吏ニ就職シタル場合亦同ジ

八、資格喪失ノ際傷病手當金ノ支給ヲ受クル者ガ其ノ後之ヲ受ケ得ザルニ至リ更ニ其ノ後療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル場合　被保險者資格喪失ノ際療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ受ケツツアリシガ其ノ後療養ノ給付ノミ受クルニ至リ更ニ其ノ後療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至ルモ此ノ場合ニハ傷病手當金ヲ支給セザルモノトス

九、法第五十五條ト法第五十八條トノ關係　職員タル被保險者傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ期間事業主ヨリ報酬ノ全部ヲ受ケタル爲傷病手當金ノ支給ヲ受ケザル場合ノ如キハ法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受ケザリシモノナルヲ以テ資格喪失ノ際尚其ノ傷病ガ未治癒ナルトキハ療養ノ給付ヲ爲スノ外傷病療養ノ爲勞務不能トナリシ日（業務外ノ傷病ノ場合ハ勞務不能ノ第四日目）ヨリ起算シ百八十日間傷病手當金ヲ支給スベキモノトス尚該傷病ガ業務外ナル場合ハ資格喪失ノ日前四日間以上當該傷病ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシコトヲ要スルモノトス（法四五條、四七條、五八條、施行令八五條）

一〇、法第五十五條該當者ガ勞働爭議ニ加ハリタル場合ト傷病手當金　法第五十五條該當者ガ（勞務ニ服スルコト能ハザル程度ハ被保險者ガ工場ニ於テ從事セル勞務ニ服スルコト能ハザル程度ノモノタルヲ要ス）爭議團ニ加ハリタル場合ノ如キ狀態ヨリ見テ工場ニ於テ從事セル程度ノ勞務不能ニ非ズト認定セラルル場合ニ於テハ傷病手當金ヲ支給スベカラザルモノトス但シ本件ノ認定ニ就テハ醫師ノ意見ヲ徵スルノ要アリト認ム（法四五條）

一一、事業ニ使用セラレザル被保險者タリシ者ニ對スル傷病手當金　被保險者ノ資格喪失ノ際傷病手當金ノ支給

ヲ受クル者ニシテ現ニ事業ニ使用セラレザルモノト雖疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ニアラバ傷病手當金ヲ支給スベキモノトス而シテ此ノ場合ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ハ被保險者タリシ當時ノ工場又ハ事業場ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル狀態ト同樣ノ程度ノモノヲ謂フ義トス（法四五條）

一二、出產手當金ヲ受ケ得ル者　法第五十五條ノ規定ニ依リ出產手當金ヲ受ケ得ル者ハ分娩ノ日前二十八日又ハ三十五日ヨリ分娩ノ日以後四十二日ノ間ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シ其ノ際出產手當金ノ支給ヲ受ケ得ル狀態ニ在ル者ニ限ルモノトス（法五〇條、施行令八〇條）

一三、改定標準報酬決定後之ガ實施前ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者　法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ傷病手當金ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ傷病手當金ノ額ハ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際ニ於ケル標準報酬（卽チ改定前ノ標準報酬）ニ依リ計算スベキモノトス（施行令四條）

一四、法第五十五條ノ趣旨　法第五十五條ハ被保險者ノ資格喪失ノ際現ニ給付ヲ受クル事故ニ付認メラレタル一ノ特典ナルガ故ニ資格喪失後ニ罹リタル疾病又ハ受ケタル負傷ニ付テハ給付ヲ爲スノ必要ナキモノトス

一五、法第四十五條但書ノ待期ノ爲被保險者資格喪失ノ際傷病手當金ノ支給ヲ受ケザル場合ト法第五十五條トノ關係　業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ第三日目ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ資格喪失後ト雖傷病手當金ハ支給ヲ受ケザルモノトス（法四五條）

一六、被保險者ノ資格喪失者　ニシテ喪失前ヨリ疾病ノ爲療養ノ給付ノミ受ケツツアリシ者ガ資格喪失當日ニ於テ初メテ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ至ルモ資格喪失後ハ傷病手當金ヲ支給セザルモノトス

一七、被保險者ノ資格喪失後繼續シテ療養ノ給付ヲ受クル者ト病院收容　法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ療養ノ給付ヲ受クル者ニ對シテモ疾病ノ狀況ニ依リ現ニ被保險者タル者ト同樣ニ病院ニ收容スルコトヲ得ルモノトス（法四三條）

第五十六條

前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以內ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以內ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

2前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條

被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間內ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

一、給付ニ要シタル費用ノ分壇金　被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ對シ法第五十七條ノ規定ニ依リ分娩ニ關スル給付ヲ爲シタル最後ノ保險者ハ施行令第八十三條ノ期間內ニ於ケル前ノ保險者アリタルトキハ其ノ保險者ニ對シ之ガ給付ニ要シタル費用ノ分壇金ヲ請求シ得ルモノトス（法五三條、施行令八三條）

第五十八條

疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

一、繼續シテ報酬ヲ受クル場合　法第五十八條ノ「繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト」トアルハ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニシテ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタルノ日ニ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クル場合ヲ含マサルモノトス

二、休業手當金ト傷病手當金　職工ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ賃金ヲ受クルコト能ハサルトキハ休業手當金ヲ支給スル旨ヲ事業主ニ於テ工場ノ就業規則ニ規定シタルトキハ該手當金ハ勞務ノ對償ト認メラレ卽チ健康保險ニ所謂報酬ナルヲ以テ法第五十八條ノ規定ニ該當シ施行令第八十五條ノ規定ノ適用アルモノトス（施行令八五條）

三、疾病ノ爲缺勤ノ場合ニ於ケル職員ノ俸給支給　事業主ニ於テ職員ノ給料支給ニ關スル規定中ニ「職員病氣ノ爲引續キ缺勤スルトキハ缺勤日數九十日迄ハ俸給ノ全額ヲ日割ヲ以テ支給スルヲ原則トシ若其ノ職員ガ健康保險ノ被保險者タルトキハ之ヲ適用セサルコトトシ此ノ者ニ對シテハ健康保險ニ於テ受クル傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ガ前記原則ノ支給額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給スルモノトス」ノ旨ヲ定メタル場合ニ於テハ法第五十八條ノ規定ニ該當シ隨テ施行令第八十五條ノ規定ノ適用アルモノトス（施行令八五條）

四、傷病手當金ノ額ヲ控除シタル額ノ報酬ヲ受クル場合　事業主ハ工場ノ就業規則ニ被保險者傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間ハ事業主ニ於テ支給スル報酬ハ常時ニ於ケル報酬ノ額ヨリ右ノ手當金ヲ控除シタル額トスル旨ヲ規定スル場合ニ於テハ法第五十八條ノ規定ニ該當シ施行令第八十五條ノ規定ノ適用アルモノトス（施行令八五條）

五、疾病、負傷、分娩ノ場合ニ於テ賃金等ニ準ズベキ給與其ノ他ノ利益ヲ繼續シテ受クル場合　寄宿舍ニ居住セシムルノ利益ニシテ報酬ノ額ノ決定ニ影響アルモノ及食事ノ給與ハ事業主ニ於テ勞務ノ對償トシテ之ヲ與フルモノトセハ健康保險ニ所謂報酬ノ範圍ニ屬スルモノナルガ故ニ被保險者ガ疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ勞務ニ服セサル期間ト雖繼續シテ是等ノ利益又ハ給與ヲ受クルトキハ法第五十八條ノ規定ニ該當スルヲ以テ施行令第八十五條ノ適用アルモノトス（法二條、施行令一條、八五條）

六、傷病ノ爲休業中　事業主ヨリ報酬ノ範圍ニ屬スル食事ノ給與（卽チ報酬日額ノ算定ニ當リ賃金、給料又ハ俸給ニ準ズルモノトシテ加算シタルモノ）ヲ受クル被保險者ニ對シ支給スル傷病手當金ハ之ヲ減額スルモノトス（給與スル食事ノ價額ガ傷病手當金ノ額ト同額以上ナル場合ハ傷病手當金ヲ支給セサルコト勿論トス）（法二條、施行令一條）

七、被保險者ノ內職等ニ依ル收入　ニ付テハ法第五十八條ノ適用ナキモノトス（法二條）

八、業務終了時限前ニ業務上ノ事由ニ因リ負傷シタル場合　ニ於テハ其ノ日ノ報酬ヲ受クルコトアルモ斯クノ如キハ法第五十八條ノ規定ニ該當セサルモノトス

九、休業扶助料ト傷病手當金

イ、職工ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ報酬ヲ受クルコト能ハサルトキハ工場法ニ基キ休業扶助料ノ支給ヲ受クルモ該扶助料ハ健康保險ニ所謂報酬ニ非サルヲ以テ法第五十八條ノ規定ニ該當セサルモノトス（法二條）

ロ、法第五十八條ニ所謂「報酬」トハ法第二條ニ所謂「報酬」ト同義ナルコト勿論ニ有之故ニ被保險者ガ疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ事業主ガ當該被保險者ニ對シ月給ノ何割又ハ一日ニ付何程

ノ如キ計算ノ下ニ金錢ヲ與フルモ該金錢ハ勞務ノ對償タラザルモノ（例ヘバ病氣見舞金ノ如シ）トセバ法第五十八條ノ規定ヲ適用スベカラザルモノトス殊ニ事業主ニ於テ其ノ所定スル扶助規則中ニ賃金ノ百分ノ六十ヲ超ユル休業扶助料ヲ支給スベキ旨ヲ規定セル向ニ在リテハ被保險者ガ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル爲傷病手當金ヲ受クベキ場合ニ於テハ右ノ休業扶助料ガ傷病手當金ヨリモ多キトキハ其ノ期間休業扶助料ト傷病手當金トノ差額ヲ受クルモ元來休業扶助料ハ健康保險ニ所謂報酬ニ非ラザルヲ以テ斯クノ如キモノニ付テハ法第五十八條ヲ適用スベカラザルモノトス

一〇、事業主ヨリ無料又ハ廉價ニテ食事ヲ受クル場合ト傷病手當金　職工就業規則等ニ於テ被保險者タル職工傷病又ハ分娩ノ爲休業スル場合健康保險ノ傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキハ事業主ガ當該被保險者ヨリ食費ノ全部又ハ一部ヲ徵スル旨ヲ規定セル場合ニ於テモ事實上休業中繼續シテ事業主ヨリ無料又ハ廉價ニテ食事ノ供給ヲ受クルモノトセバ傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ニ付テハ法第五十八條ノ規定ニ依ルベキモノトス

一一、公休手當ト法第五十八條　被保險者ガ事業主ヨリ毎月一回乃至二回受クル公休手當ハ報酬ノ範圍ニ屬スルモノヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ法第五十八條ニ所謂繼續シテ報酬ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニ該當セザルモノトス（法二條、施行令一條）

一二、標準報酬決定後ニ於ケル食費ト法第五十八條ノ關係　標準報酬決定後ニ於テ事業主ヨリ食費ノ全部若ハ一部ヲ給與セラルルコトト爲リタル被保險者ガ勞務不能期間中繼續シテ該給與ヲ受クル場合ハ假令標準報酬中ニ之ガ算入ナシト雖法第五十八條ノ規定ニ該當スベキモノナルヲ以テ一應算定基礎變更屆ヲ提出セシメ標準報酬等級ノ變更ヲ來スベキモノナリヤ否ヤヲ確メタル後令第八十五條ヲ適用スベキモノトス（法二條、施行令一條）

一三、報酬ノ範圍　被保險者ガ嫩養ノ爲工場ニ於テ本來ノ勞働ニ服スルコト能ハザルモ醫師ノ意見ニ依レバ自宅ニ於テ本來ノ作業ト同一作業ヲ爲スハ何等差支ナシトノコトナレバ自宅ニ於テ右ノ作業ニ從事シ工場ヨリ之ニ對スル賃金ヲ得タル場合ニ於テハ勞務ノ對償ト認メラルベキヲ以テ法第五十八條ノ報酬ノ範圍ニ屬スベキモノト認メラル（法二條、施行令八五條）

一四、法第四十五條但書ノ待期間ニ於ケル食事ノ給與　法第四十五條但書ノ待期間ニ事業主ガ報酬ノ範圍ニ屬スル食事ヲ給與スルコトアルモ此ノ待期間ノ傷病手當金ハ支給スベキモノニ非ザルヲ以テ右ノ食事ノ給與ハ健康保險ト關係ナキモノトス（法二條、施行令一條）

一五、任意繼續被保險者ト法第五十八條及第五十九條ノ關係　法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ工場法若ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場若ハ事業場又ハ第十四條ノ認可アリタル事業ニ使用セラルル場合ヲ除クノ外法第五十八條及第五十九條ノ規定ハ適用ナキモノトス（法二〇條、五九條）

第五十九條

前條ニ揭クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

2前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

（參照條文）

施行令第八十六條

第六十條

被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

一、「犯罪行爲」ノ範圍

イ、法第六十條ノ「犯罪行爲」トハ府縣令ノ規定ニ違反シ處罰セラレタル行爲ヲモ含ムモノトス

ロ、許可ヲ受ケズシテ所持スル拳銃ノ掃除ヲ爲サムトシ負傷ヲ受ケタル場合ニ在リテハ許可ヲ受ケズシテ拳銃ヲ所持セルコトハ犯罪行爲ナルヲ以テ法第六十條ヲ適用スベキモノトス

二、鐵道線路ヲ通行シ負傷シタル場合　被保險者鐵道線路ヲ通行シ列車ノ爲ニ負傷セル場合ハ鐵道營業法第三十七條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ法第六十條ヲ適用スベキモノトス（但シ故意ノ犯罪行爲タルコトヲ要スルモノトス）（鐵道營業法三七條）

三、自殺ト保險給付　自殺ヲ爲シタル場合ニ於テハ法第六十條ニ該當スルモノト認メラルルヲ以テ此ノ者ノ死亡ニ關スル保險給付ハ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス自殺未遂ノ場合ニ於ケル負傷及疾病ニ付亦同ジ

四、飢餓同盟ニ因ル疾病　被保險者事業主間ニ勞働爭議發生シ鬪爭手段トシテ飢餓同盟ヲ組織シ數日來同工場內ニ於テ絕食ヲ行ヒ之ガ爲ニ二十數名ノ病者ヲ出シタルガ如キハ健康保險法第六十條ニ所謂故意ニ事故ヲ生セシメタルモノニシテ保險給付ハ之ヲ爲スベカラザルモノトス但シ之ガ適用ニ當リテハ各被保險者ニ就キ被保險者ノ故意ニ依ル絕食ガ疾病ノ發生ニ直接ニシテ且主要ナル原因ナリヤ否ヤヲ充分ニ調査スルノ必要アルモノト認メラル

五、罷業中ノ鑛夫ガ所謂土龍戰術ニ因リ發シタル疾病　罷業中ノ鑛夫タル被保險者ガ其ノ主張貫徹ノ手段トシテ所謂土龍戰術ノ擧ニ出デ長時間坑內ニ蟄居シ其ノ結果高溫ナル地熱ト飽和ニ近キ濕氣ト坑內ニ發生スル瓦斯ノ爲神經衰弱ヲ來シ中毒ニ犯サレ遂ニ卒倒セル者アリ斯ノ如ク偶々本人自身入坑當時其ノ結果ノ發生ニ對シ的確ナル認識ヲ缺キタルモノナル以上ハ法第六十條ニ該當セザルモノトス

六、保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セル疾病ノ手術ニ依ル創痍ト法第六十條　保險事故タル疾病ノ範圍ニ屬セザル子宮後屈症ニ對シ被保險者ガ自費ヲ以テ手術ヲ施シタル爲ニ生ジタル創痍ニ付テハ法第六十條ノ規定ヲ適用スベカラザルモノトス

（參照條文）

鐵道營業法第三十七條　停車場其ノ他鐵道地內ニ妄ニ立入リタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第六十一條

被保險者鬪爭、泥醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

一、法第六十一條ノ適用　法第六十一條ヲ適用スルト否トハ事故發生ノ都度當該事故ニ付テノミ決定スベキモノトス

二、適用決定者　法第六十一條ノ規定ニ該當スル事故ニ付テハ傷病手當金ノ全部ヲ支給セザルカ又ハ一部ヲ支給セザルカノ區別及一部ヲ支給セザルコトトスルモ其ノ程度等ハ保險者ニ於テ適當ニ判斷決定スベキモノトス

三、業務上ノ事由ニ因ル負傷ト法第六十一條ノ適用　業務上ノ事由ニ因ル負傷ニ付テモ法第六十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲルモノニ非ザルモノトス（法四五條）

四、鬪爭又ハ泥醉　法第六十一條ノ規定ニ依リ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得ル事故タル鬪爭

又ハ泥酔ニ因リ生セシメタル事故トハ鬪爭又ハ泥酔ニ因リ其ノ際生ゼシメタル事故ヲ謂フモノトス

五、鑛石等ノ運搬車ニ人ノ便乘ヲ禁ゼシニ拘ラズ無斷ニテ該運搬車ニ便乘シ之ガ爲事故ヲ生ゼシメタル場合ト法第六十一條ノ適用　鑛山ニ於テ專ラ鑛石其ノ他ノ物品ノ運搬用トスル運搬車（軌道ヲ通ズルモノ）ニ人ノ便乘ハ危險ナルヲ以テ絕對ニ之ヲ禁止セルニモ拘ラズ無斷ニテ該運搬車ヲ引出シテ之ニ乘リ之ガ爲事故ヲ生ゼシメタル場合ハ法第六十一條ニ所謂「業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタル」ニ該當スルヲ以テ同條ニ依リ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルモ可ナルモノトス但シ之ガ決定ニ付テハ充分審議スベキコトハ勿論トス

六、職工就業規則中酒氣ヲ帶ビテ就業スベカラザル旨ノ規定ト飲酒ニ因リテ生ゼシメタル事故　職工就業規則ニ「酒氣ヲ帶ビテ就業スベカラズ」ト規定シアル場合ニ於テ飲酒シテ就業シ事故ヲ生ゼシメタルトキハ飲酒ノ結果泥醉ノ程度ニ至ラザリシモノト雖右ノ事故ヲ生ジタルコトガ飲酒ニ因リシモノトセバ法第六十一條ノ「故意ニ危害讓防ニ關スル監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキ」ニ該當スルモノトス

七、人車ニ依リ坑內ヲ昇降スベキコトヲ遵守セザル爲生ジタル事故ニ付傷病手當金不支給ノ旨讓メ揭示スルコトノ當否　人車ニ依リ坑內ヲ昇降スベキコトヲ遵守セズシテ生ジタル事故ニ付テハ傷病手當金ノ全部ヲ支給セラレザルコトアルベキ旨ヲ災害讓防ノ爲又ハ被保險者ノ心得ノ爲健康保險組合ニ於テ被保險者ニ對シ揭示シ讓メ注意ヲ爲シ置クハ別段違法ニ非ズ

第六十二條

保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二　本法施行區域外ニ在ルトキ

三　感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四　監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

2他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舍又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

3前項ニ揭クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

一、法第六十二條第一項第一號ノ該當期間

イ、法第六十二條第一項第一號ニ「該當」ノ期間トハ「徵集又ハ召集ニ應ジ陸海軍ノ軍隊ニ在ル期間」ノミヲ謂フ義ニシテ出發又ハ歸着ノ際ノ旅行日數ハ之ヲ含マザルモノトス

ロ、疾病ノ療養ノ爲勞務不能中ノ被保險者勤務演習ニ應召シタルモ疾病ノ爲卽日除隊ト爲リタル如キ場合ニ於テハ法第六十二條第一項第一號ニ該當セザルモノトス

二、法第六十二條第一項第一號ノ「召集」ノ意義

イ、法第六十二條第一項第一號ノ「召集」トアルハ其ノ時期ノ平時タルト戰時タルトヲ問ハズ又其ノ時期ノ一定タルト不定タルトヲ問ハザルモノトス

ロ、簡閱點呼ニ參會スルコトハ法第六十二條第一項第二號ニ該當ノ始期及終期　法第六十二條第一項第二號ニ該當ノ始期ハ右ノ領海（陸地ヨリ三海里迄ノ水面）ヲ出デタル時ニシテ之ガ終期ハ右ノ領海ニ入リタル時トス但シ傷病手當金及出產手當金ノ支給停止竝保險料ノ免除ニ付テハ該當ノ始期ハ右ノ領海ヲ出デタル日ノ翌日（右ノ領海ヲ出デタル時カ當日ノ午前零時ナルトキハ當日）ニシテ之ガ終期ハ右ノ領海ニ入リタル日ノ前日（右ノ領海ニ入リタル時ガ當日ノ午後十二時ナルトキハ其ノ日）トス（法第六十二條第一項第一號、第三號及第四號ノ場合ニ於テモ本件ト同樣ノ趣旨

ニ依リ解スベキモノトス

註「法第六十二條第一項第一號、第三號及第四號ニ付テモ同樣ニ解スベキモノトス」ハ其ノ日ニ於テ多少ニ拘ラズ勞務ニ服シタル場合ハ同樣ニ解シ該當ノ整日ヨリ起算スベク當日全然勞務ニ服セザリシトキハ午前零時ニ領海ヲ出デタル場合ト同ジク當日ヨリ起算スベキ義トス

四、法第六十二條第一項第二號ノ解釋

イ、傷病ニ關スル給付

(1) 傷病ガ本法施行區域內ニ於テ發シタルモノナリト雖モ被保險者ガ本法施行區域外ニ在ル期間中ニ於ケル部分ニ對スル療養ノ給付又ハ療養費及傷病手當金ノ支給ハ之ヲ爲サザルコト

(2) 被保險者ガ本法施行區域外ニ在ルトキト雖モ本法施行區域內ニ在リタル期間中ニ於ケル傷病ニ對スル給付ハ之ヲ爲スコト（例ヘバ本法施行區域內ニ在ル期間中ニ於ケル傷病手當金ノ支給ヲ被保險者ガ本法施行區域外ヨリ請求シタル場合ノ如シ）

(3) 傷病ガ被保險者本法施行區域外ニ在リタル期間中ニ於テ發シタルトキト雖モ被保險者ガ本法施行區域內ニ在ル期間中ニ於ケル部分ニ對スル療養ノ給付又ハ療養費及傷病手當金ノ支給ハ之ヲ爲スコト

ロ、分娩ニ關スル給付

(1) 被保險者ガ本法施行區域外ニ於テ分娩シタルトキハ分娩費ハ之ヲ支給スルコト假令分娩後本法施行區域內ニ在リテ請求シタルトキト雖モ支給セザルコト

(2) 被保險者ガ本法施行區域外ニ於テ分娩シタル場合ニ於テハ其ノ期間中ニ於ケル出產手當金ヲ支給セザルコト但シ分娩ノ日以後四十二日以內ニ本法施行區域內ニ入リタルトキヲ以後ノ出產手當金ハ之ヲ支給スルコト

(3) 被保險者ガ本法施行區域內ニ於テ分娩シタル後本法施行區域外ニ去リタルトキハ分娩費及被保險者ガ本法施行區域內ニ在リシ期間ノ出產手當金ハ之ヲ支給スルコト（例ヘバ本法施行區域內ニ在リタル期間中ニ於ケル分娩費及出產手當金ヲ被保險者ガ本法施行區域外ヨリ請求シタル場合ノ如シ）

(4) 助產ノ手當ニ關シテハ療養ノ給付ニ準ズルコト

ハ、死亡ニ關スル給付

(1) 被保險者ガ本法施行區域外ニ於テ死亡シタルトキハ埋葬料又ハ埋葬費ノ支給ヲ受クベキ者ガ本法施行區域內ニ在ルトキハ埋葬料又ハ埋葬費ハ之ヲ支給スルコト

(2) 被保險者ガ本法施行區域內ニ於テ死亡シタルトキニ於テ埋葬料又ハ埋葬費ノ支給ヲ受クベキ者ガ本法施行區域外ニ在ルトキハ埋葬料又ハ埋葬費ハ之ヲ支給スルコト（例ヘバ埋葬料又ハ埋葬費ヲ支給スルコト（例ヘバ本法施行區域外ヨリ請求シタル場合ノ如シ）

(3) 被保險者ガ本法施行區域內ニ於テ死亡シタルトキニ於テ埋葬料又ハ埋葬費ノ支給ヲ受クベキ者ガ其ノ被保險者ノ死亡以前ヨリ本法施行區域外ニ在ルトキハ埋葬料又ハ埋葬費ハ之ヲ支給セザルコト但シ被保險者ノ死亡當時本法施行區域外ニ在リシ者ト雖モ其ノ後本法施行區域內ニ在ルトキハ埋葬費ハ之ヲ支給スルコト

（法第六十二條第一項第一號、第三號及第四號ノ解釋ニ付テモ同樣ノ趣旨ニ解スベキ義トス）

五、施行地外ニ相當長期間出張シタル場合　被保險者ガ使用セラルル工場又ハ事業場ノ用務ノ爲健康保險法施行地外ニ出張シタル場合ニ於テハ其ノ期間相當長キモノト雖健康保險法第六十二條第一項第二號ニ該當スルモノトス

六、感化院　ハ少年敎護院ト改メラレタリ（少年敎護法參照）矯正院ハ之ニ準ズベキモノナリ

七、檢束處分ヲ受ケタル場合　法第六十二條第一項第四號ニハ行政執行法ニ依ル檢束處分ヲ受ケ警察官署ニ留メ置カレタル場合ヲ含マザルモノトス

八、傳染病院等ニ收容セラレタル被保險者ノ附添人ノ費用　傳染病院等ニ收容セラレタル被保險者ノ收容セラレタル間ノ附添人ノ費用ハ當該被保險者ノ負擔トス

九、續山附屬病院ニ入リタル場合ニ於ケル費用ノ負擔者　傳染病患者一時ニ發生シ町ノ隔離舍滿員ナルヲ以テ町當局ニ於テ被保險者タル傳染病患者ヲ町ノ隔離病舍ニ收容セズ續山附屬病院ニ入ラシメタルトキハ之ガ費用ハ町ノ負擔ニ屬スルモノトス

山附屬病院ニ入ラシメタルコトガ傳染病豫防法ニ基キタルモノトセバ保險者ノ負擔ニ屬スルモノトス

然ラザルモノトセバ保險者ノ負擔ニ屬スルモノトス

一〇、死亡シタル場合ニ於ケル給付　法第六十二條第一項ニ該當中ノ者ト雖死亡シタル場合ニ於テハ埋葬料又ハ埋葬費ハ之ヲ支給スルモノトス（法四九條）

一一、傳染病院ニ收容セラレタル被保險者ノ移送費用　傳染病院ニ收容ノ場合ノ看護料ハ保險給付トシテ支給セザルモノ村ニ於テ負擔スベキモノナルヲ以テ保險者ヨリ本人ニ支給スベキモノニ非ズ

一二、傳染病院等ニ收容ノ場合ノ看護ノ費用　傳染病院ニ收容セラレタル場合ニ於テハ之ガ看護ニ要スル費用ハ當然市町村ノ負擔ニ屬スルモノトス、傳染病患者ガ市町村立ノ傳染病院、隔離病舍等ニ收容セラレタル場合ニ於テハ之ガ看護ニ要スル費用ハ當然市町村ノ負擔ニ屬スルモノトス

一三、傳染病自宅治療　傳染病ニ罹リタル場合ト雖傳染病院等ニ收容セラレズ自宅ニ於テ治療ヲ爲ス場合ニ於テハ健康保險ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スモノトス（法四三條）

一四、傳染病院、精神病院、結核療養所等ニ收容前又ハ退院、退所後ニ於ケル療養ノ給付　傳染病、精神病又ハ結核病ノ患者タル被保險者ニ付テハ其ノ者ガ傳染病豫防法、精神病院法又ハ結核豫防法ニ依リ傳染病院、隔離病舍若ハ隔離所、精神病院又ハ結核療養所ニ收容セラルル間ハ法第六十二條第二項ノ規定ニ該當スルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲サザルモノナルモ未ダ收容セラレザル前又ハ收容後退院、退舍又ハ退所シタル後ニ於テハ右ノ規定ニ該當セザルヲ以テ療養ノ給付ヲ爲スノ要アルモノトス（法四三條）

一五、精神病者監護法ニ依リ市區町村長ヨリ監護ヲ受クル被保險者　精神病患者タル被保險者ガ精神病者監護法第六條又ハ第八條ノ規定ニ依リ市區町村長ヨリ監護ヲ受ケ自己ニ於テ療養ヲ爲スモ法第六十二條第二項ノ規定ニ該當セザルモノトス尙保險者ハ精神病患者タル被保險者ニ對シ療養ノ給付ヲ爲ス義務アルモ監護義務ナキモノトス（法四三條、精神病者監護法六條、八條）

一六、被保險者タル結核患者ノ結核療養所ノ入所　被保險者タル結核患者ハ健康保險法ノ規定ニ依ル療養ノ給付ヲ受ケ得ル限リハ大體ニ於テ療養ノ途アルモノト認メラルルニ付結核療養所ニ入所セラレザルモノトス但シ健康保險ニ於ケル結核ニ對スル醫療設備ノ有無、適否等ニ依リ場合ニ於テハ療養ノ途ナシト認メラルルコトモアルベシ

（參照條文）

精神病者監護法第三條　精神病者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クベシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間內ニ行政廳ニ屆出ヅベシ

2前項監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ

3行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年內ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ屆出ヅベシ

精神病者監護法第六條　精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スベシ

精神病者監護法第八條　精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳第一條第二項ノ順位ニ拘ラズ監護義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命ズルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

2 市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

3 本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スベシ

4 本法ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ

第六十三條

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

一、療養ニ關スル指揮ノ意義

イ、法第六十三條ノ「療養ニ關スル指揮」トハ保險醫ニ於テ被保險者ニ對シテ爲ス指揮及保險者ニ於テ直接被保險者ニ對シテ爲ス指揮ヲ謂フモノニシテ尚療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スル場合ニ於テハ保險醫ニ非ザル醫師又ハ齒科醫師ニ於テ爲ス指揮ヲモ含ムモノトス（施行令七七條）

ロ、保險醫ニ於テ勞務ニ服スベカラザル旨ヲ指示シタルニ拘ラズ被保險者ガ勞務ニ服シタル場合ニ於テハ其ノ勞務ノ輕重ヲ問ハズ又勞務ニ依リテ收入ヲ得タルト否トヲ問ハズ法第六十三條ヲ適用シ妨ゲナキモノトス

ハ、保險者ノ承認ヲ受ケズシテ保險醫ヲ變更スル者ノ如キハ法第六十三條ニ所謂「療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者」ニ該當セザルモノトス

ニ、法第六十三條ノ「療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者」トハ疾病又ハ負傷ノ場合ニ於テ保險醫又ハ保險者ヨリ與ヘラレタル療養ニ關スル指示又ハ禁止ヲ遵守セザルモノノ義ナルヲ以テ單ニ養生ヲ怠リタルノ故ヲ以テ傷病手當金ノ一部不支給ノ決定ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス

ホ、被保險者ガ健康保險ノ療養ノ給付ヲ受クルノ外ニ自己ノ負擔ヲ以テ醫師若ハ齒科醫師又ハ是等以外ノ者ニ依リテ療養ヲ爲スコトハ被保險者ノ任意ナルガ故ニ此ノ場合ニ於ケル傷病手當金ニ付テハ法第六十三條ヲ適用スベキモノニ非ザルモノトス（法四五條）

第六十四條

保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

一、第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル保險事故ニ付被保險者ガ第三者ヨリ治療費ヲ受クル場合　第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保險事故ニ付被保險者ガ第三者ヨリ治療費ヲ受クルト雖保險給付ヲ受ケ得ル權利ヲ有スルヲ以テ之ガ權利ヲ行使スルハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ非ズ從テ法第六十四條ニ該當セザルモノトス（法六七條）

二、詐欺其ノ他ノ不正行爲

イ、健康保險ノ被保險者ト爲ラバ罹テ罹レル疾病ニ付無料ニテ入院治療ヲ受クルノ途アリト聞キ工場法適用工場ニ使用セラレ被保險者ノ資格ヲ取得シ以テ入院ノ承認申請及傷病手當金支給ノ請求ヲ爲セリト雖有ノ資格取得ガ眞ニ使用關係ノ成立ニ基キタルモノナリトセバ此ノ入院及傷病手當金ヲ受ケントスルコトハ法第六十四條ニ所謂「詐欺其ノ他不正ノ行爲」ニ該當セザルモノトス

ロ、賭博行爲ハ法第六十四條ノ規定ニ依ル「不正ノ行爲」ト看做スベキノ限ニ在ラズ

（參照條文）

施行令第八十八條

第六十五條

保険者ハ必要アリト認ムルトキハ保険給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

2保険者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保険給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

一、「必要診斷」ノ範圍

イ、被保険者疾病ノ爲甲保険醫ノ治療ヲ受ケツツアルモ經過良好ナラズ仍テ保険者ガ乙保険醫ノ診斷ヲ受ケシムル場合ハ法第六十五條第一項ニ該當スルモノトス

ロ、保険給付ヲ受クル者ノ傷病ヲ保険者ガ社會通念上業務ニ服スルコトヲ得ト認メタルモ甲保険醫ガ業務ニ服スルコト能ハズト認メタル場合之ヲ乙保険醫ヲシテ診斷セシムル場合ハ法第六十五條第一項ニ該當スルモノトス

ハ、法第六十五條ハ主トシテ傷病ノ治癒ヲ遷延セントスル場合及虚病ノ防止ノ爲ノ規定ナルモ其ノ他ノ場合ニ於テモ保険者ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ診斷ヲ行フコトヲ得ルモノトス

施行令第八十九條

第六十六條

保険給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照條文）

第六十七條

保険者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保険給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保険者ノ第三者ニ對スル損害賠償請求權ヲ取得ス

2保険者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得シタリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

一、「給付ノ價額ノ限度」ノ意義　法第六十七條ノ「給付ノ價額ノ限度」トハ保険給付ニ實際要シタル費用額ヲ謂フ義トス

二、保険者ノ第三者ニ對スル求償權ト被保険者ノ意思　第三者ノ不法行爲ガ民法ノ規定ニ照シ成立スルモノナルトキハ保険者ノ第三者ニ對スル損害賠償請求權ハ被保険者ノ意思如何ニ拘ラズ存スルモノトス

三、第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保険事故ニ付被保険者ガ第三者ヨリ賠償ヲ受ケタル場合等ト保険給付　第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保険事故ニ付被保険者ガ保険給付ヲ受クル前ニ第三者ヨリ賠償ヲ受ケ又ハ第三者ニ對シ損害賠償免除ヲ爲シタル場合ニ於テモ保険者ハ當該被保険者ニ對シ保険給付ヲ爲スコトヲ要スルモノトス（法一條）

四、第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保険事故ニ付被保険者ガ第三者ヨリ賠償ヲ受ケタル場合等ト保険者ノ第三者ニ對スル損害賠償求權　第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保険事故ニ付被保険者ガ保険給付ヲ受クル前ニ第三者ヨリ賠償ヲ受ケ又ハ第三者ニ對シ損害賠償免除ヲ爲シタル場合ニ於テハ保険者ハ第三者ニ對シ損害賠償請求權ヲ有セザルモノトス

五、被保険者ガ給付ヲ受ケツツアル間ニ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル事故ニ付保険給付ヲ受ケツツアル間ニ第三者ヨリ損害賠償ヲ受ケタル場合ニ於テハ賠償ヲ受ケタル時以前ノ保険給付ニ付テノミ保険者ハ第三者ニ對シ損害賠償請求權ヲ取得ス

ルモノトス

六、損害賠償請求權ト損害賠償請求權者ノ意思　第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保險事故ニ付爲シタル保險給付費用ノ求償權ハ損害賠償請求權者ニ於テ債務免除ノ意思表示（訴訟ヲ提起セザルノ意思表示タルヲ要セズ）ヲ爲サザル限リハ依然トシテ存スルモノニシテ單ニ内心免除ノ意思ヲ有スルノミニテハ債務免除ノ效力ヲ生ゼザルモノトス

七、見舞金又ハ見舞品等ヲ受ケタル場合ト損害賠償請求權　見舞金又ハ見舞品ハ債務ノ辨濟タルコトアリ或ハ債務ノ一部辨濟タルコトアリ或ハ又債務ノ辨濟トハ何等ノ關係ヲ有セザルコトアルヲ以テ結局個々ノ場合ニ就キ辨濟トナルモノナリヤ否ヤヲ決定スルノ外ナシ尚又損害賠償請求權者ニ於テ見舞品ヲ受領スルニ當リ債務ノ一部又ハ全部ヲ免除スベキ明示又ハ默示ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ其ノ限度ニ於テ全部又ハ一部ノ損害賠償債務ハ消滅スルモノトス

八、損害賠償金ト法第十一條ノ徵收金　第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル保險事故ニ付爲シタル給付費用損害賠償金ハ法第十一條ニ所謂「徵收金」ニ該當セザルヲ以テ其ノ取立ヲ市町村ニ對シ囑託スベカラザルモノトス（法一一條）

第六十八條

保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

（參照條文）

民法第三百四十三條　質權ハ讓渡スルコトヲ得ザル物ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得ズ

第六十九條

保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章　費用ノ負擔

第七十條

國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

2前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

3前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照條文）

施行令第九十條、第九十一條、内務省令健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ニ關スル件

健康保險特別會計法第三條

施行令第九十三條

施行令第九十二條

第七十一條

保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

2保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一、政府又ハ公共團體ノ事業ニ使用セラルル被保險者ニ關スル保險料ニシテ會計ノ主體ヲ異ニスル場合（府又ハ道府縣市町村其ノ他大正五年勅令第二百九號第一條ノ公共團體ノ事業ニ使用セラルル被保險者ニ付テ一事業主ノ納付スル保險料ニシテ會計ノ主體ヲ異ニスル場合（卽チ或事業ニ於テ一般會計ノ支辨ニ屬スル被保險者ト特別會計ノ支辨ニ屬スル被保險者ト兩者アル場合ノ如シ）ニ於テハ國庫出納金端數計算法ノ適用ハ各會計別ニ之ヲ爲スベキモノトス（國庫出納金端數計算法）

二、政府又ハ公共團體ノ事業ニ使用セラルル被保險者ニ關スル保險料　政府又ハ道府縣市町村其ノ他大正五年勅令第二百九號第一條ノ公共團體ノ事業ニ使用セラルル者タル健康保險ノ被保險者ニ關スル保險料中被保險者ノ負擔スル部分ヲ事業主ガ被保險者ニ對シ支拂フ報酬ヨリ控除スル場合ニ於テハ各被保險者ニ付テ國庫出納金端數計算法ヲ適用スルコトハ勿論ナルモ事業主ガ保險料ヲ保險者ニ納付スル場合ニ於テハ右ニ依リ各被保險者ニ付國庫出納金端數計算法ヲ適用シタル額ト事業主ノ負擔部分トノ合計額ヲ納付スルモノニ非ズシテ事業主ノ負擔部分ト被保險者ノ負擔部分トヲ合算シタル額ヲ納付スベキモノトス（國庫出納金端數計算法）

三、任意繼續被保險者ノ保險料

イ、政府ノ管掌スル任意繼續被保險者ニシテ何等ノ事業ニ使用セラレザル場合及健康保險ト關係ナキ事業ニ使用セラルル場合ハ大正十五年十月二十一日內務省告示第百五十九號政府ノ管掌スル健康保險ノ保險料率第二號ニ依リ又石炭ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ノ事業場又ハ工場ニ使用セラルル場合ハ右告示第一號ニ依リ其ノ他健康保險ト關係アル事業ニ使用セラルル者ニ付テハ右告示第二號ニ定ムル保險料率ニ依リ保險料ヲ徵收スベキモノトス（法二〇條、七二條、施行令九五條、政府ノ管掌スル健康保險ノ保險料率）

ロ、政府又ハ他ノ健康保險組合ノ管掌ニ屬シタル被保險者ガ其ノ健康保險組合ノ管掌スル任意繼續被保險者ト爲リタルトキハ其ノ健康保險組合ノ定ムル保險料率ニ依リ保險料ヲ徵收スベキモノトス

（參照條文）

國庫出納金端數計算法

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツルトキハ之ヲ一錢トス

第二條　國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

2　命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條　分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條　分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　〔賣藥印紙稅〕及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セズ

2　法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セザルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ハ北海道府縣〔郡〕市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

第七十二條

被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

一、被保險者資格存續中ト保險料　被保險者ノ資格ノ存スル間ノ保險料ハ法第七十六條各號ノ一ニ該當スル場合

ノ外ハ之ヲ徵收セザルベカラザルモノトス（法七六條）

二、勞務供給請負人ガ其ノ供給セラルル者ノ從事スル作業ニ自ラ從事スル場合ト保險料ノ負擔義務　勞務供給請負人ガ其ノ供給セラルル者ノ從事スル作業ニ自ラ從事スル場合ニ於テハ一面被保險者タルモノナルガ故ニ被保險者トシテ保險料ヲ負擔スベキ義務アルモノトス（本件ハ勞務供給請負人ガ三十日ヲ超エテ引續キ從事スル場合トシテノ回答ナリ）（施行令九條）

三、工場ノ公休日ト保險料ノ負擔　保險料ハ被保險者タル間ハ工場ノ公休日ト雖之ヲ負擔スル義務アルモノトス

卽チ大ノ月ナレバ三十一日分、小ノ月ナレバ三十日分、二月ハ二十八日分又ハ二十九日分ヲ負擔スル義務アルモノトス但シ傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間等ハ負擔スルノ義務ナキモノトス（法七六條）

四、使用關係發生後數日ヲ經テ現實ニ業務ニ服シタルガ爲其ノ間賃金ヲ受ケザル場合ト保險料ノ負擔義務　法律上使用關係ノ發生シタル者卽チ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ハ其ノ日ヨリ數日後ニ至リ現實ニ業務ニ服シタル爲其ノ間賃金ヲ受ケザルモ保險料ヲ負擔スベキモノトス（法七六條、一三條）

五、被保險者ガ收入ノ途ナキ場合ト保險料ノ負擔業務　被保險者ガ疾病又ハ負傷ニ付法第四十七條ノ規定ニ依ル期間傷病手當金ノ支給ヲ受ケタルモ其ノ疾病又ハ負傷ガ治癒セズ之ガ療養ノ爲仍勞務ニ服セザルニ依リ收入ノ途ナキ狀態ニアリト雖被保險者タル間ハ保險料ヲ負擔スベキ義務アルモノトス（法四七條）

六、被保險者死亡當日ノ保險料　被保險者死亡シタル場合ニ於テハ死亡時刻ノ如何ニ拘ラズ當日ハ仍被保險者ノ資格ヲ有スルモノナルヲ以テ其ノ日ノ保險料ハ之ヲ徵收スベキモノトス（法七一條、七七條）

七、借受ニ係ル繼區ニ依リテ爲ス事業ニ使用セラルル被保險者ノ保險料ノ負擔及納付ノ義務者　他人ノ繼區ヲ借受ケテ事業ヲ爲ス者卽チ所謂斤先人ハ健康保險ニ於ケル事業主ニ非ザルヲ以テ斯クノ如キ事業ニ使用セラルル被保險者ノ保險料ノ負擔及納付ハ繼業權者ニ於テ爲スベキモノトス（法七七條）

八、同一ノ疾病ニ付保險給付法定期間滿了セル場合ニ於テモ工場ニ使用セラルル者ナル以上ハ被保險者ナルヲ以テ保險料ヲ徵收スベキモノトス（法四七條）

九、勞務供給請負人ト保險料ノ負擔義務　勞務供給請負人ト雖之ヲ負擔スル義務アルモノトス

勿論被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲモ負擔スベキ義務ナキモノトス（施行令九條）

一〇、被保險者資格喪失後ト保險料ノ負擔義務　被保險者ノ資格喪失後ハ法第五十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ給付ヲ受クルト否トニ拘ラス被保險者タリシ者及其ノ者ノ事業主タリシ者ハ保險料ヲ負擔スルノ義務ナキモノトス（法五五條）

一一、事業主ノ負擔スル保險料ト所得稅トノ關係　事業主ノ負擔スル保險料ハ事業主法人タル場合ニ在リテハ所得稅法第四條第一項ニ依リ各事業年度ノ總益金ヨリ控除スベキ總損金ニ該當シ又事業主個人タル場合ニ在リテハ同法第十四條第一項第六號ニ依リ前年中ノ總收入金額ヨリ控除スベキ必要ノ經費卽チ同法施行規則第七條ニ規定スル收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ該當スルモノトス（所得稅法四條、十四條、所得稅法施行規則七條）

一二、事業主ノ負擔スル保險料ト營業收益稅トノ關係　事業主法人タル場合ニ在リテハ營業收益稅法第四條第一項ニ依リ各事業年度ノ總益金ヨリ控除スベキ總損金ニ該當シ又事業主個人タル場合ニ在リテハ同法第六條第一項ニ依リ前年中ノ總收入金額ヨリ控除スベキ必要ノ經費卽チ同法施行規則第七條ニ規定スル收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ該當スルモノトス（營業收益稅法四條、六條、同施行規則七條）

（參照條文）

所得稅法第四條　法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益又ハ剩餘金ニ依ル

2本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ普通所得ハ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

3 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

所得稅法第十四條　第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　營業ニ非ザル貸金ノ利子竝第二種ノ所得ニ屬セザル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五　俸給、給料、歲費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非ザルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算額

六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非ザル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算額

2 株式ノ消却ニ因リ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

3 第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

所得稅法施行規則第七條　所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ種苗竝種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價品ノ代價、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

營業收益稅法第四條　法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

2 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

營業收益稅法第六條　個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

2 資本利子稅ヲ課セラルベキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セズ

營業收益稅法施行規則第七條　營業收益稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第七十三條

業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ增加スルコトヲ得

（參照條文）
施行令第九十六條及第九十七條

第七十四條

被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ

規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

2前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

一、第二項ノ趣旨　法第七十四條第二項ノ趣旨ハ同條第一項ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル事業ノ事業主ノ負擔タルベキ趣旨トス卽チ施行令第九十五條第二項但書ノ規定ニ依リ業務ノ種類ニ從ヒ異ル保險料率ヲ定メタル場合ニ於テ被保險者ノ負擔スベキ保險料額ニシテ法第七十四條第一項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユルモノアルトキハ當該事業ノ事業主ニ於テ超過部分ヲ負擔シ又保險料率ヲ一般的ニ高メタル爲之ガ保險料額ガ右規定ニ依ル制限ヲ超ユルトキハ全部ノ事業主ニ於テ超過部分ヲ負擔スベキ趣旨トス（施行令九五條）

第七十五條

健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十六條

被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セス

一　傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二　第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

一、事業主ヨリ徵收スル保險料　法第七十六條ノ場合ニ於テハ事業主ヨリモ保險料ヲ徵收セザルモノトス

二、待期間ト保險料　法第四十五條但書ノ待期ノ間ハ傷病手當金ヲ支給セザルヲ以テ其ノ期間ノ保險料ハ之ヲ徵收スルモノトス（法四五條、七一條、七二條）

三、工場法ニ基ク休業扶助料ヲ受クル場合　工場法ニ基ク休業扶助料ノ如キハ之ヲ健康保險ノ傷病手當金又ハ出產手當金ニ代ハルベキモノト認メ得ザルヲ以テ被保險者ハ傷病手當金ヲ受ケズシテ此ノ休業扶助料ヲ受クルモ之ガ爲保險料ノ負擔義務ヲ免ルルコトヲ得ザルモノトス

四、法第五十八條トノ關係　法第五十八條ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ヲ受ケザルモノト雖法第七十六條第一號ニ該當スルモノトス故ニ其ノ期間ノ保險料ハ之ヲ徵收セザルモノトス（法五八條）

五、傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部ヲ受ケザル場合　法第五十八條ノ場合ニ於テ繼續シテ受クル報酬ハ傷病手當金又ハ出產手當金ニ代ハルベキモノト認メラルルヲ以テ同規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部ヲ受ケザル場合ト雖法第七十六條第一號ニ該當スルモノトス故ニ其ノ期間ノ保險料ハ之ヲ徵收セザルモノトス（法五八條）

六、傷病手當金ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ停止シタル場合ノ保險料　被保險者鬪爭、泥醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ保險事故ヲ生ジタル場合ニ於テ傷病手當金ノ全部ヲ支給セザリシ場合ニ於テハ保險料ヲ徵收シ又傷病手當金ノ一部ヲ支給セザル場合ニハ保險料ヲ徵收セザルモノトス（法六一條、七一條）

七、事業主ノ負擔義務　被保險者ガ傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間ハ事業主ニ於テモ其ノ被保險者ニ關スル保險料ヲ負擔スル義務ナキモノトス（法七二條）

八、權利拋棄ノ場合ト保險料ノ負擔義務　被保險者ガ傷病手當金ノ支給ヲ受クルノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ於テ

ハ其ノ拋棄シタル傷病手當金ノ期間ハ法第七十六條第一號ニ該當セザルヲ以テ事業主及被保險者ハ該期間ノ保險料ノ負擔義務アルモノトス（法四五條）

九、期間超過後ニ於テ徵收スベキ保險料　傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間超過シタル被保險者ノ保險料ハ右ノ期間最終日ノ翌日ヨリノ分ヲ徵收スルモノトス（法四七條）

第七十七條

事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一、事業主ノ納付スベキ保險料

イ、事業主ハ被保險者ニ支拂フ報酬ヨリ控除シタル被保險者ノ負擔スル保險料ノ額ノ如何ニ拘ラズ保險料全額ノ納付義務アルモノトス（法七八條）

ロ、事業主ハ被保險者ノ負擔スル保險料ヲ被保險者ニ支拂フ報酬ヨリ控除シ得ザルコトアルモ之ガ爲保險料納付ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ズ（法七八條）

ハ、事業主ハ被保險者ニ對シ支拂フベキ報酬ナキ爲保險料ヲ控除シ得ザル場合又ハ報酬ヲ支拂フモ保險料ヲ控除シ能ハザル場合ト雖被保險者ノ負擔スル保險料ハ之ヲ保險者ニ納付スベキ義務アルモノトス（法七八條）

二、被保險者資格喪失者ニ關スル保險料　被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ關スル保險料ニシテ事業主ニ於テ當該被保險者タリシ者ニ支拂フ報酬ヨリ控除シ得ザル場合ト雖事業主ハ之ヲ健康保險組合ニ納付スベキ義務アルモノトス（法一八條、七八條、施行令九八條）

三、被保險者資格取得屆ノ遲延　被保險者資格取得屆ノ遲延ニ係ル被保險者ト雖此ノ者ニ關スル保險料ハ實際ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル日ヨリノ分ヲ事業主ヨリ徵收スベキモノトス（施行規則一〇條）

第七十八條

事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

一、保險料ノ控除ト他ノ控除金ノ控除トノ順位　事業主ガ被保險者ニ對シ支拂フ報酬ヨリ保險料ヲ控除スル場合ニ於テ該保險料ノ控除ヲ他ノ控除金ニ先チテ爲スヤ否ヤハ一ニ事業主ノ任意トス（施行令九八條）

二、被保險者ノ受クル傷病手當金ト保險料ノ控除　傷病手當金ハ事業主ガ支給スベキモノナリ而シテ保險者ノ支給スル傷病手當金ノ現金ヲ事業主ガ被保險者ニ對シ取次ギテ交付スルコトアリトスルモ事業主ハ健康保險法上當然ニハ該傷病手當金ヨリ被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ控除スルコトヲ得ザルモノトス（法四五條）

（參照條文）

施行令第九十九條

第七十九條

保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照條文）

施行令第百條乃至第百一條ノ二

第六章　審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條

保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

一、審査請求者

イ、健康保險組合又ハ地方長官ハ法第八十條ノ審査ヲ請求スルコトヲ得ザルモノトス

ロ　法第八十條ノ審査請求ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス

二、健康保險審査會審査決定ノ效力　健康保險審査會ニ於テ爲シタル審査ノ決定ガ確定シタルトキハ當該事件ノ當事者卽チ審査ヲ請求シタル者及保險給付ノ決定ヲ爲シタル（健康保險署長）又ハ健康保險組合ヲ羈束スルノ效力ヲ有スルモノトス（法八一條、八二條）

三、健康保險審査會ノ決定ニ不服アル爲通常裁判所ニ出訴スル場合ニ於ケル被告　第二次健康保險審査會ノ爲シタル保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ガ通常裁判所ニ訴ヲ提起スル場合ニ於ケル被告タルベキ者ハ保險者ガ政府ナルトキハ國ニシテ健康保險組合ナルトキハ其ノ組合タルモノトス而シテ被告ノ代表ハ國ナルトキハ其ノ主務官廳タル內務大臣又ハ其ノ指定官吏、組合ナルトキハ其ノ理事長タルモノト思考セラル

（參照條文）

法第八十三條、第八十六條

第八十一條

保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

一、訴願ト行政訴訟　兩者ハ何レカ一ヲ選擇シテ爲スモノニシテ、且終審ナリ（行政裁判法第十七條第三項）

（參照條文）

法第八十二條、第八十六條、行政裁判所法第二十二條

訴願法第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ズ

2行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ズ

3行政廳ニ於テ宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

行政裁判法第十七條第三項　各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ

行政裁判法第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以內ニ提起スベシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ズ但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

2訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第八十二條

前條ノ規定ニ依ル訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第三次健康保険審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

一、審査ノ效力　法第八十二條ノ規定ニ依ル健康保険審査會ノ審査ハ單ニ諮問的ノモノニシテ保險官署ニ於テ爲ス訴願ノ裁決ヲ拘束スル效力ナキモノトス從テ審査手續ニ關スル命令ノ規定中當然適用ナキモノアリ

（參照條文）
施行令第百二十五條　訴願ノ手續ハ訴願法ニ依ル

第八十三條

健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照條文）
施行令第百二條以下

第八十四條

第十一條ノ二ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

一、第十一條ノ二ノ處分　保險者ノ囑託ニヨリ市町村ノ爲シタル滯納處分及保險官署自ラ爲シタル滯納處分ナリ

二、訴願ト行政訴訟　何レカ一ヲ選擇シテ爲スモノナリ。手續ハ訴願法、行政裁判法ニ依ル（法八六條）

第八十五條

健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

2證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

3證據調ニ關スル規定及民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條

審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第百五十八條第二項及第百五十九條ノ規定ヲ準用ス

一、三十日以內ノ日數ト郵便遞送日數

イ、法第八十六條ニ於テ準用スル訴願法第八條ノ期限內ニ到達スヘキ場合ト雖モ當該審査ノ請求ガ通常ノ場合ニ於テハ適法ノ期限內ニ到達スヘカリシニ拘ラズ審査請求人ノ責ニ歸スヘカラザル事由ニ因リ遲延シタル場合又ハ審査請求人ガ島嶼其ノ他通信不便ノ地ニ住所ヲ有スル爲郵便遞送ニ相當多クノ日數ヲ要スル關係上適法ノ期限ヲ遵守スルコト

能ハザリシ場合等ニ於テ適法ノ期限ヲ經過セシコトニ付宥恕スベキ事由アリト認メタルルモノニ付テハ之ヲ受理シ請求ノ內容ニ付審査相成度

二、適法ノ期限ヲ經過シテ爲シタル審査ノ請求　適法ノ期限ヲ經過シテ爲シタル審査ノ請求ト雖之ヲ以テ直チニ無效ト認ムルハ妥當ナラザルモノニシテ審査請求期限經過後ノモノト雖宥恕スベキ事由アリト認メ之ヲ受理スベキヤ又ハ適法ノ手續ニ違反シタルモノトシテ却下スベキヤハ一應健康保險審査會ニ於テ決定スベキモノトス（施行令一一七條、訴願法八條）

（參照條文）

訴願法第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

2郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限內ニ之ヲ算入セス

第七章　罰　則

第八十七條

正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條

第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條

健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ヲ遲延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

（參照條文）法第三十一條

第九十條

健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

2本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條

前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第九十二條

事業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中事業主ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ

規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九十三條

事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則（大正十五年三月二十九日法律第三十四號ヲ以テ改正）

本法ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年三月二十八日法律第二十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第八十六條ノ改正規定中民事訴訟法ノ規定ノ準用ニ關スル部分ハ大正十五年法律第六十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和四年法律第二十號ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス（昭和四年五月二十八日勅令第百四十二號）

附　則（昭和九年三月二十六日法律第十三號）

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

健康保険法施行令

健康保險法施行令

（大正十五年六月三十日勅令第二百四十三號）

改正
（昭和二年三月十二日勅令第三十號
昭和二年七月一日勅令第二百二十號
昭和四年五月二十九日勅令第百四十三號
昭和四年七月三十一日勅令第二百五十號
昭和九年十二月二十八日勅令第四百號）

第一章　總則

第一條

健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ揭クルモノヲ除ク

一　三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當

二　通勤手當

三　住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

四　其ノ他內務大臣ノ指定スルモノ

一、「常時又ハ定期ニ受クル給與」ノ意義　施行令第一條ノ「常時又ハ定期ニ受クル給與」トアルハ事業ニ使用セ

ラルル者ガ普通ノ場合ニ於テ常時又ハ定期ニ受クル給與トス故ニ入坑ヲ普通トセザル者ガ臨時入坑シ入抗手當金ヲ受クルモ此ノ手當金ハ健康保險法ニ謂フ報酬ノ範圍ニ屬セザルモノトス

二、賃金等ニ準ズベキモノ

イ、無料貸與又ハ給與セラルル被服等　被保險者ニ無料貸與又ハ給與セラルル被服等ヲ賃金又ハ俸給ニ準ズベキモノニシテ標準價格ヲ定メ之ヲ報酬日額ニ加算スベキヤ否ヤハ一ニ有無料貸與又ハ給與ガ勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ受クルモノナリヤ否ヤニ依リ決定スベキモノニシテ其ノ貸與又ハ支給ノ方法、條件種類程度等ヨリ見テ勞務ノ對償トシテ受クルモノト認メラルル場合ハ報酬日額ニ加算スベキモノトス尙被服ノ現物給與ニ代フルニ現金ヲ以テスル場合モ同樣トス（法二條、三條、施行令二條）

ロ、食料ノ廉價購買ノ利益　被保險者ガ事業主ヨリ食料ヲ廉價ニテ購買スル利益ニシテ勞務ノ對償ト認ムベキモノハ賃金等ニ準ズベキモノノ範圍ニ屬スルモノトス否トニ拘ラズ賃金等ノ額ノ決定ニ影響アルト

（法二條）

ハ、勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ供給ヲ受クル食事　事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ供給ヲ受クル食事ハ健康保險ニ所謂報酬ノ範圍ニ屬スルモノトス（法二條）

ニ、職工ノ賄　工場ニ於テ寄宿セル職工ノ賄ヲ工場主ガ是等ノ職工全體ニ月額十六圓（職工一人ニ付）ヲ以テ請負ハシメ而シテ此ノ十六圓ノ中六圓ヲ職工ニ負擔セシメ殘十圓ヲ工場主ニ於テ負擔スルモノノ如キハ此ノ工場主ニ於テ負擔スル部分ハ施行令第一條ノ「其ノ他ノ利益」ニ該當スルモノトス故ニ報酬日額ハ之ヲ加算シテ算定スベキモノトス（施行令五條）

ホ、家族手當金　毎月支給スル家族手當金ハ健康保險ニ於ケル報酬ノ範圍ニ屬スルモノトス

ヘ、續夫合宿所ニ於ケル世話料、坑外運搬責任者ニ給與スル捨硬函數ニ對スル手當及坑內運搬人夫責任者ニ給與スル坑內繰込手當　獨身續夫合宿所ニ於ケル世話料、坑外運搬人ノ責任者ニ給與スル捨硬函數ニ對スル手當、坑內運搬人夫ノ責任者ニ給與スル坑內繰込手當ノ如キハ施行令第一條ニ所謂「常時ニ受クル給與」ニ該當スルモノトス故ニ報酬日額ト

ト、當宿直料　工場又ハ事業場ニ於ケル當宿直料ハ當宿直者ガ執行時間外工場又ハ事業場ノ取締ニ任ズルガ爲事業主ヨリ受クルモノニシテ法第二條ニ所謂「勞務ノ對償」ニ該當スルモノト認メラル而シテ之ヲ常時的ニ支給ヲ受クル場合ニ於テハ健康保險ノ報酬ニ包含セラルベキモノトス（法二條）

三、賞與ト報酬

イ、健康保險ニ所謂報酬ニハ年末賞與ヲ含マザルモノトス

ロ、毎月受クル皆勤賞ハ健康保險ノ報酬ノ範圍ニ屬スルモノトス

ハ、會社ガ使用スル者ニ對シ給料ヲ支給セズシテ其ノ代リ賞與ヲ支給スルコトトシ其ノ賞與ハ會社ノ拂込濟資本額ニ對シ年一割迄ノ利益アルトキハ年額六百六十四圓ヲ、年二割迄ノ利益アルトキハ年額七百八十圓ヲ、年三割以上ノ利益アルトキハ年額千圓ヲ、毎年一月、四月、七月及十月ニ分チテ支給スルガ如キ制度ハ卽チ三月ヲ超エザル期間毎ニ支給スル賞與ナルヲ以テ健康保險ニ所謂報酬ノ範圍ニ屬スルモノト爲ス殊ニ年額六百六十圓ノ賞與ハ會社ガ拂込濟資本額ニ對シ利益ナキ場合ニ於テモ支給スルモノトセバ名義及支給期間ノ如何ニ拘ラズ之ヲ給料ト看做スベキモノトス

第二條

賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保險官署ノ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス

2前項ノ標準價格ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム

3健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一、標準價格ノ決定　政府ノ管掌スル保險ニ於テハ保險官署タル地方長官ガ毎年一回之ヲ決定シ告示ス

二、別段ノ定ヲ爲シ得ベキ事項　施行令第二條第三項ノ規定ニ依リ規約ヲ以テ定メ得ベキ別段ノ規定トハ賃金、給料又ハ俸給ニ準ズベキモノノ給與其ノ他ノ利益ノ標準價格ニ關スル事項ニ限ルモノトス

第三條

健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

標準報酬ノ等級	標準報酬日額	報酬日額
第一級	三十錢	三十五錢未滿
第二級	四十錢	三十五錢以上四十五錢未滿
第三級	五十錢	四十五錢以上五十五錢未滿
第四級	六十錢	五十五錢以上六十五錢未滿
第五級	七十錢	六十五錢以上七十五錢未滿
第六級	八十錢	七十五錢以上八十五錢未滿
第七級	一圓	八十五錢以上一圓十五錢未滿
第八級	一圓三十錢	一圓十五錢以上一圓四十五錢未滿
第九級	一圓六十錢	一圓四十五錢以上一圓七十五錢未滿
第十級	一圓九十錢	一圓七十五錢以上二圓五錢未滿
第十一級	二圓二十錢	二圓五錢以上二圓三十五錢未滿
第十二級	二圓五十錢	二圓三十五錢以上二圓六十五錢未滿
第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上二圓九十五錢未滿
第十四級	三圓十錢	二圓九十五錢以上三圓二十五錢未滿
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上三圓七十五錢未滿
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

一、報酬ヲ受ケザル被保險者ノ標準報酬　工場法適用工場ニ使用セラルル者ニシテ報酬ヲ受ケザル被保險者ノ標準報酬日額ハ三十錢トス故ニ之ガ等級ハ第一級トス

二、數人ノ被保險者ノ報酬ヲ一人ノ被保險者ノ報酬ト看做シテ支給スル場合　職工ガ其ノ妻又ハ子女ヲ常時工場ニ伴ヒ自己ノ手傳トシテ業務ニ從事セシムルトキハ其ノ妻又ハ子女ハ工場ニ使用セラルル者ト謂フベク隨テ被保險者ノ資格ヲ有スル者ナルガ故ニ工場ニ於テ右ノ職工ノ稼高ト看做シテ該職工ニ支給スルト雖報酬日額ハ是等ノ者各別ニ定ムベキモノトス（法一三條、施行令五條）

第四條

標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ七月一日ヨリ翌年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ

其ノ日ヨリ六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

2被保險者ノ報酬ニ著シキ增減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ

3健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ從前ノ標準報酬ニ依ル

4健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一、六月一日ニ資格ヲ取得　施行令第四條第一項ノ場合ニ於テ六月一日ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ日ヨリ其ノ年六月三十日迄有效ノ標準報酬ヲ決定スルノ外其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄有效ノ標準報酬ヲ決定スベキモノトス

二、標準報酬有效期間　施行令第四條第一項ノ場合ニ於テ六月二日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ノ標準報酬ハ翌年六月三十日迄其ノ效力ヲ有スルモノトス

三、報酬日額算定ノ基礎ニ誤算アリタル場合ト令第四條　健康保險法施行規則第三條ニ依リ届出アリタル被保險者ノ報酬日額ノ算定ノ基礎ニ誤算アリシ旨ヲ事業主ヨリ届出アリタル場合ハ前決定ヲ取消シ更メテ標準報酬ヲ決定スベキモノトス（施行令一條、施行規則三條）

四、標準報酬ノ決定現在日後有效期間開始日前ニ被保險者ノ資格ヲ喪失　新標準報酬決定現在日タル六月一日ヲ經過セシ場合ト雖新標準報酬ノ有效期間開始日タル七月一日前ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニ付テハ新標準報酬ノ決定ハ當然消滅スベキモノナリ故ニ七月一日以降ノ傷病手當金ト雖被保險者タリシ當時ノ標準報酬（卽チ從來ノ標準報酬）ニ依リ計算スベキモノトス出産手當金ニ付テモ亦同シ（法四五條、五五條、五〇條）

五、標準報酬ノ變更ヲ爲スベキ場合

イ、施行令第四條第二項ノ規定ニ依リ標準報酬ノ變更ヲ爲スベキ場合

減給等ノ如シ）ナル場合ニ限ルモノトス

ロ、線高拂ニシテ報酬ノ高低常ナキ狀態ト雖モ漸次報酬ノ增加又ハ減少ヲ來シ標準報酬ノ算定ノ基礎ト爲リタル報酬ト著シキ差異アル狀態ト爲リタル場合ニ於テハ標準報酬ヲ改定セザルベカラザルハ勿論トス

六、改定標準報酬決定後之ガ實施前ニ任意繼續被保險者ト爲リタル者ノ標準報酬　改定標準報酬決定後之ガ實施前ニ法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル者ノ標準報酬ハ從來ノ標準報酬ニ依ルモノニシテ改定ノ標準報酬ニ依ルモノニ非ズ（法二〇條）

七、標準報酬決定ト之ガ不服ノ救濟　標準報酬ノ決定ニ付被保險者ガ不服アルモ之ガ救濟ヲ求ムルコトヲ權利トシテ要求スルコトヲ得ザルモノトス尤モ其ノ決定額ニ著シク不當ナリト思料スル被保險者ハ其ノ旨ヲ（保險署長）又ハ組合ニ對シ任意申出グルハ違法ニアラザルモノトス（參照條文）施行規則第三條、第四條、第五條、第十條、第十一條

第五條

第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一　年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一

二　月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一

三　前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

四　日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チサルトキハ其ノ地方ニ於テ同樣ノ作業ニ從事シ同樣ノ報酬ヲ受クル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額

五　前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

六　前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

七　同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受クル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

2　被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ

3　保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

一、施行令第五條ノ算定手續　施行令第五條第一項各號ニ依ル算定手續ハ省略スベカラザルモノトス

二、勞務供給契約ニ基キ使用　勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者タル被保險者ノ報酬日額ハ被保險者カ勞務供給者ヨリ現ニ受クル報酬ノ額ニ依リ算定スルモノトス（施行令九條）

三、「三月間ニ受ケタル額」ノ意義　施行令第五條第一項第四號ニ所謂「標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額」トハ其ノ期間ニ實際受ケタル報酬額ヲ謂フ義トス

四、「三月間」及「一年間」ノ意義　施行令第五條第一項第四號ノ「三月間」及同項第五號ノ「一年間」トアルハ曆ニ依リテ計算シタル期間ヲ謂フモノトス（例ヘバ第四號ノ場合ニ於テ標準報酬決定ノ日ヲ十一月一日トセバ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル期間ヲ、六月一日トセバ其ノ年三月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル期間ヲ謂ヒ又第五號ノ場合ニ於テ標準報酬決定ノ日ヲ十一月一日トセバ前年十一月一日ヨリ其ノ年十月三十一日ニ至ル期間ヲ謂フガ如シ）

五、「報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チザルトキ」ニ該當スル場合　施行令第五條第一項第四號但書中「報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チザルトキ」トハ例ヘバ六月一日現在ニ依リ報酬日額ヲ算定スル場合ニ於テ其ノ年ノ五月一日ヨリ其ノ事業ニ使用セラレタル場合ノ如キヲ謂フモノトス

六、「其ノ地方」ノ意義　施行令第五條第一項第四號但書ノ「其ノ地方」ノ範圍ハ個々ノ場合ニ於テ社會通念ニ依リ決スルノ外ナキモノトス常識上同一地方ト考ヘラルル範圍ヲ謂フモノトス

七、「同樣ノ作業」ノ意義　施行令第五條第一項第四號但書ノ「同樣ノ作業」トハ被保險者カ工場又ハ事業場ニ於テ使用セラルル業務ノ種類ノ同ジキモノヲ謂フモノトス、例ヘバ旋盤工ト採炭夫ノ如シ

八、「同樣ノ報酬」ノ意義　施行令第五條第一項第四號但書ノ「同樣ノ報酬」トアルハ日又ハ時間ヲ以テ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ一日又ハ一時間ノ報酬額カ一致スルモノ、稼高又ハ請負ヲ以テ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ一定分量當リノ報酬額カ一致スルモノヲ謂フモノトス

九、「著シク不當ナルトキ」ノ基準

イ、令第五條第二項ノ「著シク不當ナルトキ」トハ施行令第五條第一項各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ト其

ノ地方ニ於テ同種ノ作業ニ從事シ同様ノ能力ヲ有スル被保險者ノ報酬日額トヲ對照シ標準報酬等級ニ於テ一級以上ノ差違ヲ生ズベキ場合ヲ謂フモノトス

ロ、施行令第五條第二項ノ「算定シタル報酬日額ガ著シク不當ナルトキ」ノ算定方法ヲ操業短縮、事業ノ休業、一般的ニ報酬ノ低下スル場合ヲ除クノ外組合理事會ニ於テ一率ニ百分ノ六十ト決定スルハ適當ナラザルモノト認メラル

一〇、療養ノ爲休業シ傷病手當金繼續受給中ノ被保險者ノ標準報酬ニ付テハ其ノ者ノ從前ノ標準報酬ニ從ヒテ之ヲ定メ當該保險給付終了後ノ標準報酬ニ關シテハ就業狀況其ノ他諸種ノ事情ヲ斟酌シ常時收入トナルベキ額ヲ標準トシテ決定スベキモノトス

第五條ノ二

健康保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保險料其ノ他同法ノ規定ニ依ル徵收金納付ノ督促ヲ爲スルトキハ保險者ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

2督促狀ヲ發シタルトキハ督促手數料トシテ十錢ヲ徵收ス

（參照條文）施行規則第六條ノ二、法第十一條ノ四ハ本條ニモ適用アリ

第五條ノ三

前條ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ徵收金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ徵收金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　納入ノ告知書一通ノ徵收金額五圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三　納付義務者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザル爲又ハ其ノ住所及居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納入ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

2督促狀ニ指定シタル期限迄ニ徵收金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ヲ徵收セス

第六條

健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ內務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ內務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第七條

政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者カ共濟組合ノ組合員ナル場合ニ於テ其ノ組合ノ給付ノ種類及程度ヲ內務大臣ニ於テ適當ナリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ其ノ被保險者ニ對シテハ健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ヲ爲サス

第八條

前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル者ニ付テハ保險料ハ之ヲ徵收セス

第二章　被保險者

第九條

臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ揭クル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラサル者トス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　六十日以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三　日日雇入レラルル者

四　前各號ニ揭クルモノノ外內務大臣ノ定ムル者

一、「所定ノ期間」ノ意義　施行令第九條ノ「所定ノ期間」トアルハ契約シテ定メタル期間ヲ謂フモノトス

二、臨時休業ト臨時使用人　每年十二月下旬ニ全職工ノ雇傭契約ヲ解除スル製絲工場ニ於テ九月以降休業シ被保險者全部ノ資格ヲ喪失セシメ十一月上旬頃再ビ事業ヲ開始シ十二月下旬迄操業シ十二月下旬例年ノ通リ休業セムトスル場合ハ臨時ニ使用セラルル者ト認メラレザルヲ以テ施行令第九條第一項第一號ノ適用ナキモノトス

三、「勞務供給契約」ノ範圍　施行令第九條第二號ノ「勞務供給契約」ニハ事業本來ノ作業ノ請負契約ヲモ含ムモノトス

四、施行令第九條第二號前段及第三號該當者ノ被保險者ト爲ル場合　施行令第九條第二號前段及第三號該當者ハ連續シテ三十日間勞務ニ服シ仍引續キ勞務ニ服スルトキハ被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス尙此場合ニ於テハ工場又ハ事業場ニ於ケル公休日ハ勞務ニ服シタルモノト看做シ右ノ日數ノ計算ニ加フルモノトス

五、施行令第九條第二號該當者ノ被保險者ト爲ル場合

イ、施行令第九條第二號後段該當者ハ使用セラルルニ至リタル日ヨリ三十日ノ期間ヲ超エ引續キ勞務ニ服シタルトキハ被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス

ロ、施行令第九條第二號後段該當者卽チ試ニ使用セラルル者ニ付テハ雇傭關係ノ繼續スル限リ連續シテ三十日間勞務ニ服セズト雖三十一日目ヨリ被保險者ノ資格ヲ取得ベキモノトス

ハ、六十日ノ期間ヲ定メテ雇入レラレタル者偶雇入後五十八日目ニ負傷シ引續キ勞務ニ服セズト雖所定ノ期間ヲ超エ尙引續キ使用關係ノ存在スル限リ六十一日目ヨリ被保險者ノ資格ヲ取得スルモノトス但シ傷病ノ程度重ク將來職工トシテ勞務ニ服スルコト能ハズト認メラルベキモノニシテ單ニ健康保險ノ保險給付ヲ受ケシメンガ爲ニ使用關係ヲ繼續スル場合ニ於テハ被保險者資格ヲ取得セザルモノトス

六、工場法適用前ヨリ使用セラルル者ニシテ使用期間ノ定メナキ者又ハ試ニ使用セラルル者ノ被保險者ト爲ル條件タル期間ノ起算日　工場法適用前ヨリ工場ニ使用セラルル者ニシテ使用期間ノ定ナキ者又ハ試ニ使用セラルル者ト雖其ノ使用セラルルニ至リタルトキハ被保險者ト爲ルモノトス卽チ右ノ三十日ノ期間ハ工場法適用ノ日ヨリ起算スベキモノニ非ザルモノトス（法一三條）

七、人夫供給者ノ手ヲ經テ雇入レラルル者ト被保險者ノ資格　人夫供給者ノ手ヲ經テ日日雇入レラルル者ノ中同一人ガ三十日ヲ超エテ引續キ雇入レラレタル場合ニ於テハ其ノ者ハ右ノ三十日ヲ超エタル日ヨリ被保險者タルモノトス

（參照條文）　內務省令健康保險ノ被保險者タラザル臨時使用人ニ關スル件（季節勞働者）

第十條

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日（繼續シテ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日）ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

（參照條文）法第二十條、施行規則第十五條

第三章　健康保險組合

第一節　組合ノ設立

第十一條

事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者（健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者）全部ニ送付スヘシ

一　組合員タルヘキ者ノ範圍
二　組合ノ組織ノ概要
三　保險料ノ概要
四　保險給付ノ概要
五　其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條

規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合ノ名稱
二　事務所ノ所在地
三　組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
四　公示ノ方法
五　其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項

（參照條文）法第三十六條、施行令第二十四條及第四十三條

第十三條

組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ

2健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

一、組合ノ設立アル事業ノ事業主ノ名稱變更ト組合ノ名稱變更トノ關係　健康保險組合ノ設立アル事業ノ事業主ノ名稱變更セラルルト雖健康保險組合ノ名稱ハ當然變更セラルルモノニ非ズ卽チ健康保險組合ノ名稱ノ變更ハ規約變更ノ手續ヲ要スベキモノトス（法三六條、規約例二條）

第十四條

組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ事業主之ヲ定メ內務大臣ノ認可

ヲ受クヘシ

一、組合保險料率ノ認可　組合ノ保險料率ハ當初認可ヲ受ケタルモノヲ變更セザル限リハ毎年度更メテ認可ヲ受クルコトヲ要セザルモノトス（施行令四九條）

二、保險料率ト規約　保險料率ハ規約ニ規定スルノ必要ナキモノトス（施行令一二條、四九條）

第十五條

組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ內務大臣ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ

一　組合ノ名稱

二　事務所ノ所在地

三　組合ノ設立ヲ爲ス事業ノ名稱及所在地

四　認可ノ年月日

2　前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ內務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條

組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滯ナク規約ヲ公示スヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ

一、組合ノ規約變更ノ公示者　施行令第十六條後段ノ規定ニ依ル組合ノ規約變更ノ公示ハ理事ニ於テ之ヲ爲スモノトス

二、規約變更公示ノ時期　健康保險組合ノ規約變更ノ公示ハ變更ノ認可アリタル後ニ於テ之ヲ爲スモノトス

三、行政區劃變更等ニ伴フ規約ノ記載更訂ト公示　市町村ノ廢置分合、境界變更、大字名改稱、地番變更其ノ他行政區劃ノ變更アリタルニ伴ヒ規約ニ規定スル健康保險組合事務所ノ所在地又ハ事業ノ所在地若ハ健康保險法第三十三條ノ規定ニ依リ一事業ト看做シタル作業ノ所在地ニ變更アリタル場合ニ於テ規約中右ノ事項ヲ更訂シタルトキハ卽チ規約ノ變更アリタルモノナルヲ以テ理事ハ施行令第十六條後段ノ規定ニ依リ遲滯ナク公示スベキモノトス（法三三條、規約例三條、四條）

第十七條

組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滯ナク組合會ヲ招集シ組合設立ノ經過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條

組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

一、理事職務執行者ノ代理人　組合ニ於テ理事就職ニ至ル迄ノ理事職務執行者タル事業主ニ付テハ代理人ヲ置キ得ベキコトヲ認メタル規定ナキヲ以テ事業主自ラ理事ノ職務ノ執行ニ當ルベキモノトス

第二節　組合ノ會議

第十九條

組合ニ組合會ヲ置ク

2組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

一、議員　ハ刑法ニ所謂公務員タルモノト解ス

第二十條

議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事業主（若ハ其ノ代理人）及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

一、事業主タルノ組合會議員　組合ニ於テ事業主ガ其ノ事業主自身ヲ組合會議員ニ選定スル場合ニ於テ事業主法人ナルトキハ該法人其ノモノヲ選定スルモノナルヲ以テ此ノ場合ノ議員ハ法人ノ名稱ト同一ノ名稱ノモノトス

二、事業ニ使用セラレザルニ至リタル場合ノ議員ノ資格　組合ニ於テ組合ノ設立アル事業ニ使用セラレザルコトトナリタルトキハ當然議員ノ資格ヲ失フモノトス（法二七條）

三、組合ノ設立アル事業ノ事業主ニ變更アリタル場合ト雖舊事業主ニ於テ選定シタル議員ノ資格　組合ノ設立アル事業ノ事業主ニ變更アリタル場合ト雖舊事業主ニ於テ選定シタル議員ノ資格ハ其ノ儘存續スルモノトス但シ議員ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ妨ゲザルモノトス

四、被保險者タラザルニ至リタル議員ノ資格　組合ニ於テ被保險者タル組合員ヨリ互選セラレタル議員ガ被保險者タラザルニ至リタルトキハ當然議員ノ資格ヲ失フモノトス（法二七條）

五、工場轉勤ノ場合ト組合會議員ノ資格　組合會議員タル被保險者ガ同一事業主ノ甲ノ工場又ハ事業場ヨリ乙ノ工場又ハ事業場ニ轉勤シタル場合ニ於テハ被保險者ノ資格ハ甲ノ工場又ハ事業場ニ於テ一旦喪失シ乙ノ工場又ハ事業場ニ於テ更ニ取得スルモノナルガ故ニ組合會議員ノ資格モ甲ノ工場又ハ事業場ニ於テ被保險者ノ資格喪失ト同時ニ失フモノトス（法一三條、一五條、一七條、一八條）

六、組合會議員ノ選舉ト刑法施行法　組合ノ組合會議員ノ選舉ニ付テハ刑法施行法第二十五條ノ規定ニ依ル舊刑法第二編第四章第九節（公選ノ投票ヲ僞造スル罪）ノ規定ハ適用アルモノト思考セラル（刑法施行法二五條）

第二十一條

議員就職シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同シ

一、選舉ニ依ル議員ノ就職ノ日ト選舉執行ノ日　選舉ニ依ル議員ノ就職日ト選舉執行ノ日トハ必ズシモ一致スヘキモノニ非ズ卽チ當選者ノ當選辭退申立期間ヲ規約ニ規定スル組合ニ在リテハ當選承諾ノ旨ヲ申出デタル場合ニ在リテハ其ノ日ヲ以テ議員ニ就職シタルモノト見ルベク當選承諾ノ旨ヲ申出デザル場合ニ在リテハ右ノ當選辭退申立期間滿了ノ日ノ翌日ヲ以テ議員ニ就職シタルモノト看做スベキモノトス但シ任期ハ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル組合ニ在リテハ互選議員ノ任期ヲ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル組合ニ在リテハ互選議員ノ任期ヲ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル組合ニ在リテハ右ノ當選辭退申立期間滿了ノ日ノ翌日ヲ以テ議員ニ就職シタルモノト看做スベキモノトス但シ任期ハ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル組合ニ在リテハ互選議員ノ任期ヲ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル組合（規約例九條、一七條）

第二十二條

議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

2投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條

選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

2前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以內ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ公示スヘシ

3前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以內ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

4議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

一、選舉人　トハ當該選舉ニ付選舉資格アリタル被保險者ヲ謂フ

二、監督官廳　トハ社會局長官ヲ指スモノトス（施行令七三條）

三、訴願手續　ハ訴願法ニ依リ健康保險組合ヲ經由シテ訴願ノ提起後裁決書ヲ交付セラルル

第二十四條

本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

一、互選議員ガ選出セラレタル選舉區以外ノ選舉區ニ轉ジタル場合　組合ノ互選議員ガ選出セラレタル選舉區以外ノ選舉區ニ轉ズルト雖斯カル場合ニ議員タル資格ヲ喪失スヘキ旨ヲ規約ニ規定ナキトキハ其ノ者ハ依然トシテ議員タルモノトス（規約例第八條）

二、組合會議員ノ總選舉執行ノ日　互選議員ノ任期ヲ總選舉ノ日ヨリ起算スル旨ヲ規約ニ規定スル健康保險組合ニ在リテハ互選議員任期滿了ノ翌日以後ニ非ザレバ之ヲ執行シ得ザルモノトス（規約例第九條）

三、組合會議員ノ任期ト理事ノ任期トガ同ジキ場合　組合ノ組合會議員ノ任期ト理事ノ任期ト同シキモノニシテ議員ノ總選舉ヲ爲シタルモノニ在リテハ理事ノ任期ノ最終日ト議員ノ任期滿了ノ日ト一致セザルコトナルモ此ノ場合ニ於テハ理事ノ任期ハ議員ノ任期滿了ノ日ヲ以テ滿了スルモノト解スヘキモノトス（規約例第九條、三四條）

四、規約ヲ變更シ議員又ハ理事ノ任期ヲ延長シタル場合　規約ヲ變更シ議員又ハ理事ノ任期ヲ從來ヨリ長期間ニ變更シタルトキハ現在ノ議員又ハ理事ノ任期ハ當然延長セラレタルモノトス（但シ現在ノ議員又ハ理事ノ任期ハ從來ノ規定ニ依ル旨ヲ規約ニ規定シタル場合ハ任期延長セサルコト勿論タリ）（規約例第九條）

五、組合ノ設立アル事業主ノ職制變更ト組合會議員選舉區ノ名稱變更トノ關係　事業主ノ職制變更セラルルト雖健康保險組合ノ組合會議員選舉區ノ名稱ハ當然變更セラルルモノニ非ズ卽チ組合會議員選舉區ノ名稱變更ノ手續ヲ要スヘキモノトス（法三六條）

第二十五條

組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一　收入支出ノ豫算

二　事業報告及決算

三　收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄

四　準備金ノ管理方法

五　準備金其ノ他重要ナル財產ノ處分

六　組合債

七　規約ノ變更
八　保險料率
九　訴願訴訟ノ提起及和解
十　其ノ他重要ナル事項

一、議決ノ意義　施行令第二十五條ノ「議決」トアルハ同條第二號ノ事項タル事業報告及決算ニ付テハ認定ノ意義トス

第二十六條

組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閱シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

2組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

一、組合會ニ付議スル發案權　施行令第二十六條ノ規定ニ依リ組合ノ事務ニ關スル書類ノ檢閱、理事ニ對シ報告ノ請求若ハ組合ノ事務管理、議決ノ執行及出納ノ檢査ヲ爲スコト又ハ議員中委員ヲ選擧シテ右ノ事項ヲ行ハシムルコトヲ組合會ノ會議ニ付スル發案權ハ理事之ヲ有スルモノニ非ズシテ組合會自身ガ之ヲ有スルモノトス

二、委員ノ資格消滅時期

イ、包括的ニ檢閱ノ權限ヲ委任スル目的ヲ以テ委員ヲ選擧シタル場合ニ於テハ組合會議員タル限リ（但シ委員ニ任期ヲ附シタルトキハ其ノ任期間ニ於テ組合會議員タル限リ）委員タルモノトス

ロ、特定事項ノ檢閱ヲ目的トシテ委員ヲ選擧シタル場合ニ於テハ其ノ委任セラレタル事務ノ終了ト共ニ委員タル資格消滅スルモノトス尙事務終了前組合會議員タラザルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ時ヨリ委員タル資格消滅スルハ勿論トス

ハ、委員選擧ニ當リ特別ノ意思表示ナキ限リ組合會ノ閉會中ト雖前二項ニ依リ委員タルモノトス

第二十七條

組合會ハ理事之ヲ招集ス

2議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以內ニ之ヲ招集スヘシ

3組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

4前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

5組合會開會中急施ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

6組合會ハ理事之ヲ開閉ス

一、組合會招集ノ請求ヲ爲シ得ル場合　施行令第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合會招集ノ請求ヲ爲シ得ル場合ハ組合會ガ發案權ヲ有スル事項ヲ會議ノ目的トスル場合ノミニ限ルモノトス（施行令二八條）

第二十八條

組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

2理事長事故アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

3決算ノ認定ニ關スル會議ハ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

4議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條

組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十條ノ除斥ノ爲數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一、但書ノ意義　施行令第二十九條ノ但書ハ定足數ヲ得テ會議ヲ開キタル後ニ於テ施行令第三十二條ノ除斥ノ爲其ノ定足數ヲ缺クルコトアルモ之ガ爲會議ノ續行ヲ妨ゲザルコトヲ規定シタルモノトス（施行令三二條）

二、議員ノ職務執行ト民法　組合會議員ノ職務執行上ノ行爲等ニ付テハ法令ニ何等ノ明文ナキヲ以テ民法ノ能力ニ關スル規定ハ適用ナキモノトス（施行令三二條、三三條）

第三十條

組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

一、議長トシテノ議決權　組合ノ組合會ノ議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之ガ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハザルモノトス（施行令二八條）

第三十一條

規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條

議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

一、「一身上ニ關スル事項」ノ範圍　組合會議員ノ當選ノ效力、異議申立決定ノ會議ニ於テ該事件ノ當選者タル議員ハ其ノ事件ニ付施行令第三十二條ノ「一身上ニ關スル事項」ニ該當スルモノトス

第三十三條

議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ病氣其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

一、表決委任方法　組合會ノ會議ニ出席スルコト能ハザル議員ガ出席議員ニ表決ヲ委任スル場合ニ於テ會議ノ目的タル事項ニ對スル贊否ヲ受任者ノ任意ト爲スコトニ委任スルモ違法ニアラザルモノトス

二、委任表決議員ト組合會ノ會議　出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲ス議員ト組合會ノ會議ニシテ其ノ會議ハ委

任表決ヲ爲ス議員ヲ定足數ニ加ヘタルガ爲開會シ得タルモノナルトキハ開會中急施ヲ要スル事項アリト雖之ヲ該會議ニ付議スルコトヲ得ザルモノトス（施行令二七條、二九條）

三、組合會議員ノ職務執行ト民法ノ能力ニ關スル規定　組合會議員ノ職務執行上ノ行爲等ニ付テハ法令ニ何等ノ明文ナキヲ以テ民法ノ能力ニ關スル規定ハ適用ナキモノトス（施行令三二條）

第三十四條

組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除クノ外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條

議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

2被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

3第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節　組合ノ役員

第三十六條

組合ニ理事ヲ置ク

2理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ互選ス

3理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ選擧ス

一、組合ノ理事ト法人　理事（理事長ヲ含ム）ハ組合ノ執行機關ナルヲ以テ法人ヲ以テ之ニ充ツルコトハ妥當ナラズ（施行令三七條、三八條、三九條、四〇條）

二、理事又ハ理事長ノ選擧　理事又ハ理事長選擧ヲ組合會タル機關ニ於テ執行スルハ違法トス

三、理事又ハ理事長ノ選擧ト刑法施行法第二十五條トノ關係　組合ノ理事又ハ理事長ノ選擧ニ付テハ刑法施行法第二十五條ノ規定ニ依ル舊刑法第二編第四章第九節ノ規定ハ適用アルモノト思考セラル（刑法施行法二五條）

四、議員タラザルニ至リタル理事ノ資格　組合ノ理事ガ議員タラザルニ至リタルトキハ當然理事ノ資格ヲ失フモノトス

五、理事長ガ選定議員タラザルニ至リタルトキノ理事長ノ資格　組合ノ理事長ガ選定議員タラザルニ至リタルトキハ當然理事長ノ資格ヲ失フモノトス（參照條文）施行令第四十三條

第三十七條

理事長ハ組合ヲ代表ス

2理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス（參照條文）施行令第四十四條

第三十八條

組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

一、常務ヲ決スル理事　組合規約ヲ以テ常務ヲ決スル理事ヲ定ムルコトヲ得ザルモノトス但シ豫メ理事ノ決議ヲ以テ事務ノ一部ヲ特定ノ理事ニ包括シテ委任スルハ妨ゲナキモノトス

二、理事長ノ理事トシテノ議決權　組合ノ理事長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之ガ爲メ理事トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハザルモノトス（施行令三七條）

第三十九條

組合會成立セス又ハ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

（參照條文）施行令第四十一條

第四十條

組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條

前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十二條

理事ハ規約、財產目錄、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議錄ヲ事務所ニ備フヘシ

2組合員前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一、事務所ニ備フヘキ財產目錄、事業報告書及會議錄　施行令第四十二條ノ規定ニ依リ組合ノ事務所ニ備フヘキ書類及帳簿ノ中財產目錄、事業報告書及組合會會議錄ハ其ノ調製濟ニ係ルモノノ中最後ノ分ノミニテモ妨ゲナキモノトス

二、從タル事務所ニ備フヘキ會議錄　從タル事務所ニ備フヘキ組合會會議錄ハ謄本ヲ以テ充ツルモ妨ゲナキモノトス

（參照條文）施行規則第三十六條、第三十七條、第三十八條、第四十二條及健康保險組合ニ備フヘキ被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿ノ樣式（告示

第四十三條

第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四節　組合ノ財務

第四十四條

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

一、當初ノ會計年度　組合ニ於ケル當初ノ會計年度ハ組合ノ設立アリタル日ヨリ始マルモノトス

二、會計年度ノ始終期　健康保險組合ノ會計年度ノ始期及終期ハ組合ニ於テ任意ニ定ムルコトヲ得ザルモノトス

第四十五條

組合ハ每會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

キ亦同シ

2 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

3 豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

一、「毎會計年度」ノ意義　施行令第四十五條第一項ノ「毎會計年度」トアルハ次年度以降ノ毎會計年度ヲ謂フモノトス但シ同項後段ノ場合ニ於テハ然ラズ

二、繰越金及繰入金ト收入支出豫算　繰越金又ハ繰入金ハ收入支出豫算ニ必ズシモ計上セザルベカラザルモノニ非ズ又準備金繰入ヲ豫算ニ計上スルハ既ニ積立テタル準備金ヲ支出ニ充テムトスルモノニ限ルモノトス（施行規則三四條）

三、缺損金ノ翌年度繰越　組合ノ缺損金ヲ翌年度ニ繰越スガ如キコトハナキモノトス

四、豫算ノ種目ノ豫算額ノ流用　同一項内ノ各種目ノ豫算額ヲ彼此流用スルハ理事限リ之ヲ爲シ得ベキモノトス

五、豫算ノ費目流用及豫備費充當　翌年度四月十五日迄トス（施行令四七條）　豫算ノ費目流用及豫備費充當ヲ爲シ得ルハ支出閉鎖期限迄即チ翌年度四月十五日迄トス（施行令四七條）

六、豫算ノ各項金額流用ニ關スル事項ハ豫メ組合會ノ包括議決ヲ經ルモ敢テ違法ニアラザルモノトス　組合ノ豫算ノ各項金額流用

七、健康保險組合ノ財務處理方法ニ付一般的ニ定メラレタルモノ左ノ如シ（社會局保險部通牒）

（一）組合ノ收入支出ハ一切豫算ニ編入スルコト

（二）收入ノ所屬年度ハ收入スベキ權利ノ生ジタル日ノ屬スル年度ニ依ルコト

（三）支出ノ所屬年度ハ義務ノ生ジタル日ノ屬スル年度ニ依ルコト但シ契約ニ依リ別ニ支拂期日ノ定マレルモノニ付テハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度ニ依ルコト

（四）歲計剩餘金中ヨリ準備金ニ積立ツルコト尚準備金ガ健康保險法施行令第五十條第一項ニ規定スル額ニ達スル迄ハ毎年度ノ歲計剩餘金中ヨリ必ズ右額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金ガ右額ノ百分ノ五未滿ナルトキハ全額）ヲ準備金トシテ積立テザルベカラザルモノナリ

（五）歲計剩餘金ノ中準備金ニ積立テザル金額ハ翌年度ノ收入ニ編入スルコト

準備金以外ノ積立金ヲ設ケ歲計剩餘金ヲ以テ其ノ財源トスルモノニ在リテモ一旦翌年度ノ收入ニ編入シ右ノ積立金ニ支出スルコト

（六）組合債ノ元利支拂、組合事務所外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、旅費、訴訟費用、前金支拂ニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノ等ニ付テハ假拂ヲ爲シ得ルコト

（七）收入ニシテ誤收入又ハ過收入ト爲リタル金額ノ拂込ハ各之ヲ收入シタル科目ヨリ支拂フコト

（八）支出ニシテ誤拂又ハ過渡ト爲リタル金額及假拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ科目ニ戻入スルコト

（九）出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ收入支出ト爲スコト第七項ノ拂戻金又ハ前項ノ戻入金ニシテ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

（一〇）年度初ニ於テ其ノ年度ニ屬スル支拂上ノ現金ニ不足アル場合ニ於テハ前年度ノ收支殘金（出納閉鎖期限前ニ限ル）ヲ以テ當年度ノ支拂ニ一時充當スルコトハ妨ゲナキモ有ハ準備金ニ屬スル現金ノ繰替使用ニ依リ當年度ノ支拂ヲ爲シタル場合ハ先ヅ之ニ依ルコトシ之ヲ得ザルモノトシテ前記ノ方法ニ依ラレ度尚前記ノ方法ハ前年度ニ決算剩餘金ヲ生ズル見込アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトトシ然ラザル場合ニ於テハ之ヲ避クルコト

（一一）一時借入金ハ收入閉鎖期限（翌年度五月三十一日）迄ニ返還シ差支キコト

（一二）豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲シ得ザルコト

(一三) 支出豫算ニ於ケル豫備費ハ少クトモ保險給付費（病院費等ヲ含ム）ノ五分ヲ計上スルコト

(一四) 組合債ヲ起ス場合ニ於テハ利率ハナルベク年七分五厘以下タルベキコト

(一五) 出納ニ關スル帳簿其ノ他證憑書類ニ記載スル文字ヲ訂正スル場合ニ於テハ其ノ原字ニ朱線二條ヲ畫シ證印スルコト

第四十六條

組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

一、繼續費ノ更正、追加等　組合ノ繼續費ノ更正、追加又ハ廢止ニ付テモ組合會ノ議決ヲ經ベキモノトス

二、繼續豫算ノ議決　組合ノ豫算中既定繼續費ヲ計上シアルトキハ其ノ繼續費ノ部分ニ付テハ組合會ハ修正又ハ削除ノ議決ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス（施行令二五條）

第四十七條

組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

2 豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

一、過年度支出中豫備費ヲ以テ充當シ得ル費途　保健給付費及保險施設費ノ豫算超過額ヲ豫備費ヲ以テ充當シ得ル旨規約ニ規定アル健康保險組合ニ在リテハ保險給付費用又ハ保健施設費用ヲ過年度支出ノ科目ヨリ支出スル場合ニ於テ右ノ過年度支出ノ豫算額ニ不足アルトキハ豫備費ヲ以テ充當シ差支ナキモノトス（規約例四一條）

第四十八條

組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

一、出納閉鎖期限　組合ノ出納閉鎖期限ハ組合ニ於テ任意ニ定ムルコトヲ得ザルモノトス

二、過年度未拂金ノ所屬年度　過年度未拂金ト雖支出閉鎖期限經過前ハ其ノ年度ヨリ支出シ右期限經過後ハ次ノ年度ヨリ支出スベキモノトス

三、國庫負擔金精算拂ノ收入所屬年度　國庫負擔金ノ精算拂ヲ受ケタル場合ニ於テ該精算金ヲ受ケタル時ガ年度經過後收入閉鎖前ナレバ前年度ノ收入ト爲シ收入閉鎖後ナレバ後年度ノ收入ト爲スベキモノトス

第四十九條

組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

（參照條文）

施行規則第三十五條

第五十條

組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ金額）ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

2前項ノ限度內ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一、準備金積立額ノ標準タル保險給付ニ要シタル費用額ノ意義　準備金積立額ノ標準タル保險給付ニ要シタル費用額トハ保險給付費ノ決算額ヲ謂フ義ニシテ繰算ノ款ニ保險給付費以外ニ別ニ病院費、醫局費等ノ款ヲ設ケタルモノニ在リテハ此ノ病院費、醫局費ノ決算額ヲモ含ムモノトス（施行規則樣式第七號）

二、組合設立後三箇年度迄ニ於ケル準備金積立額　組合設立後第一年度ノ剩餘金中ヨリ積立ツヘキ額ハ少クトモ設立アリタル年度ノ保險給付ニ要シタル費用額ノ百分ノ五ニ相當スル額タルヘキモノトス（但シ剩餘金ノ額ガ右ノ百分ノ五以上ニ相當スル額ニ達セザルトキハ其ノ全額ヲ積立ツヘキモノトス以下同ジ）又組合設立第二年度ノ剩餘金中ヨリ準備金トシテ積立ツヘキ額ハ少クトモ設立アリタル年度ノ保險給付ニ要シタル費用ヲ一箇年度分ノ額ニ換算シタル額ト其ノ次年度ノ保險給付ニ要シタル費用額トノ合計額ノ三分ノ一ノ百分ノ五以上ニ相當スル額タルヘキモノトス次ニ組合設立第三年度ノ剩餘金中ヨリ準備金トシテ積立ツヘキ額ハ一箇年度分ノ保險給付ニ要シタル費用額ヲ一箇年度分ノ額ニ換算シタル額ト其ノ次年度ノ保險給付ニ要シタル費用額トノ合計額ノ二分ノ一ノ額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額タルヘキモノトス次ニ組合設立第三年度ノ剩餘金中ヨリ準備金トシテ積立ツヘキ額ハ一箇年度分ノ額ニ換算シタル額ト其ノ次年度ノ保險給付ニ要シタル費用額トノ合計額ノ三分ノ二ノ額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額タルヘキモノトス

三、組合ノ決算剩餘金ノ處分　組合ノ決算剩餘金ヲ準備金ニ積立ツルコトヲ要セサル場合又ハ積立ツル場合ト雖剩餘金全部ヲ準備金ニ積立テサル場合ニ於テハ其ノ積立テサル剩餘金ハ翌年度ノ組合經費ニ繰越シ必要ナル費用ニ充ツヘキモノトス尙組合ニ於テハ剩餘金ハ之ヲ翌年度ノ組合經費ニ繰越サズシテ直チニ該積立金ニ繰入ルルモ違法ニアラザルモノトス

四、「前項ノ限度內」ノ「限度」ノ意義　施行令第五十條第二項ノ「前項ノ限度內」ノ「限度」トハ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均額ニ相當スル額ヲ謂フ義トス

五、準備金ノ使用ト處分トノ異同　準備金ノ使用（支拂上ノ現金ニ不足ヲ生ジタル爲繰替使用スル場合ヲ含マズ）ハ卽チ準備金ノ處分ニ外ナラザルガ故ニ施行令第二十五條第五號ニ該當スルヲ以テ組合會ノ議決ヲ經ベキモノトス（施行令二五條）

六、準備金ノ使用ト繰算トノ關係　準備金ヲ保險給付ニ要スル費用ニ使用スル場合（支拂上ノ現金ニ不足ヲ生ジタル爲繰替使用スル場合ヲ含マズ）ニ於テハ之ヲ收入豫算ニ計上スルコトヲ要スルモノトス故ニ年度ノ中途ニ於テ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生ジタルトキハ準備金ノ繰入額及之ニ依ル保險給付ノ支出額ハ夫々追加豫算トシテ計上スベキモノトス（施行令四五條）

第五十一條

組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條

準備金以外ノ財產ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條

組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

2前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

3前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度內ニ之ヲ返還スヘシ

4第二項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ毎年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

一、準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用シ得ヘキ程度　準備金ニ屬スル現金ノ繰替使用ハ施行令第五十條第一項ノ限度外部分ノ現金ニ限ラズ同項ノ限度内部分ノ現金ヲモ繰替使用シ差支ナキモノトス（施行令五〇條）

二、準備金繰替使用ト收入支出豫算　準備金ニ屬スル現金ノ繰替使用及之ガ返還ニ付テハ收入支出豫算ニ計上スルノ必要ナキモノトス

三、一時借入金限度ノ意義　施行令第五十三條第四項ノ「一時借入金ヲ爲シ得ベキ限度」トアルハ現ニ借入レムトスル金額ヲ謂フニ非ズシテ一年度内ニ於テ借入ルルコトヲ得ベキ最高限度ノ金額ヲ謂フモノトス

第五十四條

組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

一、組合債ノ起債金額ノ減少又ハ利率ノ低減ト監督官廳ノ認可　健康保險組合ノ組合債ノ起債金額減少又ハ利率ノ低減ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セザルモノトス

第五十五條

組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節　組合ノ分合解散

第五十六條

組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

2前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

一、合併分割等　ハ大臣ノ認可ニ依リ完成スルモノトス（參照條文）施行規則第二十六條及第二十七條

第五十七條

組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

2一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條

分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存續スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條

合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保険料率及初年度ノ牧入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條

分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保険料率及初年度ノ牧入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條

合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

2分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

3前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一、合併ニ因リテ消滅シタル健康保険組合ノ決算ヲ爲スベキ者　合併ニ因リテ消滅シタル健康保険組合ノ當該年度ノ牧入支出決算ハ其ノ組合ノ理事タリシ者ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス

二、組合ノ吸收合併ト施行令第六十三條　健康保険組合ノ吸收合併ニ在リテハ施行令第六十三條ハ適用ナキモノトス（施行令一六條乃至一八條、六三條）

第六十二條

組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存續スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

一　組合ノ名稱

二　事務所ノ所在地

三　組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四　認可ノ年月日

第六十三條

第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス

2合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之ヲ行フ

第六十四條

組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一、解散ハ認可ヲ受ケタルトキニ效力ヲ發生ス

（參照條文）

施行規則第二十八條及第三十二條、施行令第六十六條及法第四十條

第六十五條

組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ナル場合ニ於テハ解散スルコトナシ

（參照條文）

施行規則第二十九條

第六十六條

組合解散シタルトキハ內務大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條

組合ノ設立アル事業ヲ增減セムトスルトキハ編入又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

2編入又ハ削除セラルヘキ事業二以上アル場合ニ於テハ前項ノ被保險者ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

3前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

一、組合所屬外ノ事業場ニ使用セラルル被保險者ヲ既設ノ組合ノ組合員タラシメムトスル場合ノ手續　一事業主ガ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場數箇所ヲ有シ其ノ中健康保險組合ノ設立アル事業ニ屬スル事業場ト屬セザル事業場トアリ而シテ此ノ屬セザル事業場ニ使用セラルル被保險者ヲ既設ノ健康保險組合ノ組合員タラシメムトスルニハ所謂事業編入ノ手續ヲ爲スコトヲ要スルモノトス（施行令七〇條）

（參照條文）

施行規則第三十條及第三十二條

第六十八條

第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條

事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十條

組合カ第六十七條ノ同意ヲ求メムトスルトキハ事業ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送付スヘシ

第六節　組合ノ監督

第七十一條

內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

2組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以內ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲スヘシ

第七十二條

健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

一、解職セラレタル組合ノ役員ノ再任　法第三十九條ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ組合ハ勿論他ノ組合ノ役員タルコトヲモ得ザルモノトス（法三九條）

第七十三條

第二十三條第三項、第三十九條、第四十五條第一項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第四項第五十四條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ社會局長官トス

第四章　保險給付

第七十四條

健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　診察

二　藥劑又ハ治療材料ノ支給

三　處置、手術其ノ他ノ治療

四　看護

五　被保險者ノ移送

2前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他保險者必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

3第一項第四號及第五號ノ給付ハ保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

一、身體異常ノ診察ト療養ノ給付　被保險者ガ身體ニ異常アリトシ保險醫ノ診察ヲ求メタルニ醫師ニ於テ診察ノ結果姙娠ニ基因スルモノナルコト判明シタル場合ノ如キ卽チ被保險者ガ單ニ姙娠ニ關シ診察ヲ求メタルニ非

ザル場合ノ如キハ右ノ診察ハ療養ノ給付ノ診察ノ範圍ニ屬スルモノトス

二、療養ノ給付ノ範圍（法四三條）

イ、左記ノ場合ニ於ケル診察ハ令第七十四條第一項ニ依ル療養給付ノ範圍ニ屬スルモノトス

(1)　被保險者ガ單ニ違和ヲ訴ヘ診察ヲ求メ診斷ノ結果近視ト判明セル場合ノ診察（猶此ノ場合ニ於ケル視力檢査）

(2)　視力異狀ヲ訴ヘ眼科醫ノ診察ヲ求メ診斷ノ結果妊娠ト判明セル場合ノ診察（勿論治療行爲ヲ含マザル單ナル診察）

ロ、右下顎珐郎質腫ニ對スル外科的手術後病院ニ收容シ創傷殆ンド治癒後下顎缺損部ニ永久的義顎ヲ作製支給スルハ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノトス

ハ、火傷ニ因リ筋肉ノ癒着又ハ屈伸ノ不能甚シキモノニ對シ整形手術又ハ植皮術ヲ爲スハ健康保險ノ療養ノ範圍ニ屬スルモノトス

ニ、被保險者ガ正規分娩ノ際會陰裂創ヲ惹起シタル場合ニ於ケル其ノ括約筋縫合ノ處置ハ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノトス

ホ、單ニ近視眼患者ノ視力檢査ヲ爲スガ如キハ健康保險ノ療養ノ範圍ニ屬セザルモノトス尤モ保險醫ニ於テ診療上必要アルガ爲ニ視力檢査ヲ爲スハ格別トス

ヘ、被保險者居住地ヨリ遠隔ノ地ニ在ル醫師ノ療養ヲ受クル爲當該醫師ノ開業所ノ附近ニ滯在セシ費用ハ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セザルモノトス

ト、死亡診斷書料ハ保險給付ノ範圍ニ屬セザルモノトス

三、藥劑又ハ治療材料ノ支給ノ範圍（法四三條）

イ、藥劑ノ容器卽チ藥瓶ノ如キハ藥劑又ハ治療材料ノ支給ノ範圍ニ屬スルモノトス

ロ、療養ノ給付ニ當リ療養上必要ト認ムル場合ハ松葉杖モ支給スルモノトス

ハ、施行令第七十四條第二項ノ費用中ニハ處置、手術其ノ他ノ治療ニ要スル同條第一項第二號ノ藥劑又ハ治療材料ヲ合算スベキモノト解スベキモノトス

ニ、木枕、氷嚢、氷、圖座、吸入器、吸入器用**アルコール**、胸部濕布帶、體溫計ノ類ハ施行令第七十四條第一項第二號ニ謂フ治療材料支給ノ範圍ニ屬セザルモノトス但シ病院ニ收容シタル場合ニ於テハ氷、吸入器用**アルコール**、胸部濕布帶ノ如キモノハ處置ニ要スル消耗品トシテ取扱フベク又水枕、氷嚢、圖座、體溫計ノ如キモノハ貸付シ差支ナキモノトス

ホ、步行機械ノ如キハ治療材料トシテ支給スベキモノノ範圍ニ屬セザルモノトス但シ治療上必要アル場合ニ於テハ之ヲ貸與スルコトハ差支ナキモノトス

ヘ、義眼ハ治療材料トシテ支給スベキ治療材料ニハコルセツトヲ含マザルモノトス但シ永久的ナラザルコルセツトハ之ヲ貸與スルコト妨ゲナキモノトス

ト、療養ノ給付トシテ支給スベキ治療材料ニハ療養ノ給付　酸素吸入ハ施行令第七十四條第一項第三號ノ「處置」ニ該當スルモノニシテ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノトス

四、酸素吸入ト療養ノ給付　酸素吸入ハ施行令第七十四條第一項第三號ノ「處置」ニ該當スルモノニシテ療養ノ給付ノ範圍ニ屬スルモノトス

五、被保險者死亡後ノ處置ト療養ノ給付　被保險者業務上ノ事由ニ因リ卽死シタル場合ニ於テ醫師ガ繃帶ヲ施シ其ノ他加ヘタル處置ハ被保險者死亡後ノ處置ナルヲ以テ療養ノ給付ノ範圍ニ屬セザルモノトス（法四三條）

六、處置及手術以外ノ治療ノ範圍　施行令第七十四條第一項第三號ノ「其ノ他ノ治療」トアルハ湯治ヲ含ムモノトス

七、看護ノ給付（法四三條）

イ、被保險者ニ對シ看護ノ給付ヲ爲ス場合ニ於テハ保險者ノ獨自ノ機能ニ依リ之ガ給付ヲ爲スコトヲ得ルモ

ノトス

ロ、看護ノ承認ヲ爲スベキ場合ハ被保險者ノ症狀重篤ニシテ常時監視ヲ要シ又ハ隨時適當ナル處置ヲ講ズル必要アル場合等ニ限ルモノトス

ハ、昭和八年五月二十九日附保規第二四一號ノ「場合等」ニ準ズル場合トシテハ全身的ニハ必ズシモ重篤ナラズトモ食藥飼ノ攝取、兩便等全ク自用ヲ辨ジ難キ症狀ニシテ且四圍ノ生活事情ガ全ク孤獨ナル患者ニシテ療養上直接必要ナル附添ヲ爲ス場合ノ如キヲ考慮シ得ルモノトス

八、被保險者ノ移送ノ範圍（法四三條）

イ、足部ヲ負傷シタル場合ニ於テ醫師ニ於テ病院ニ收容セザルベカラザル程度ノモノニ非ズト認メタルモノト雖此ノ負傷ノ爲歩行困難ニシテ毎月治療所ニ往復スルモノトセバ乘物ニ依ル必要アリ而モ醫師ニ於テ外科治療ノ爲據付アル機械器具ノ關係等ノ爲往診ヲ爲スコト亦不都合トスル場合ノ如キハ右ノ被保險者ニ對シ移送ノ給付ヲ爲シ可然モノトス

ロ、被保險者ガ疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ保險醫ノ診療所迄歩行スルコト能ハズ又ハ歩行スルコト著シク困難ナルトキハ保險者ニ於テ移送ノ給付ヲ爲スベキモノトス病院ニ收容セシムル場合ニ於テ疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ病院迄歩行スルコト能ハズ又ハ歩行スルコト著シク困難ナル場合亦同ジ又移送ノ費用ハ療養費トシテ支給スベキモノニ非ズシテ療養ノ給付ノ費用トシテ支出スベキモノトス

ハ、病院ニ收容ノ爲移送スル場合ハ被保險者ガ重態ナルトキノミニ限ラズ疾病又ハ負傷ノ狀態ニ依リ病院迄歩行スルコト能ハズ又ハ歩行スルコト著シク困難ナルトキハ移送ノ給付ヲ爲スベキモノトス病院ニ收容不可能ノ場合、病院ニ收容セザルベカラザル程度ノモノニ非ズト認メタル場合又ハ醫師ニ於テ外科治療ノ爲據付アル機械器具ノ關係等ノ爲往診ヲ爲シ能ハザル場合ニ於テ而モ治療ノ必要上通院ヲ要スル場合ニ於テ被保險者ガ傷病ノ狀態ニ依リ診療所迄歩行スルコト能ハズ又ハ歩行スルコト著シク困難ナル場合亦同ジ

ニ、左ニ該當スルモノ歩行スルコト能ハズ又ハ歩行著シク困難ナル場合ニ於テハ被保險者ノ移送ノ範圍ニ屬スルモノトス（但シ濫ニ失セザルコトヲ要ス）

(1) 負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ診療ヲ受ケタル場合

(2) 負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ應急手當ヲ受ケタル後自宅又ハ他ノ場所ニ到リ醫師ノ診療ヲ受ケタル場合

(3) 前二號ノ場合其ノ他ノ場所ニ於テ醫師ノ診療ヲ受ケタル後更ニ自宅ニ到ル場合

(4) 負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場所ニ於テ醫師ノ診療ヲ受ケタル後靜養ノ爲自宅又ハ其ノ他ノ場所ニ到ル場合

(5) 前號ノ場合ニ於テ其ノ他ノ場所ヨリ更ニ靜養ノ爲自宅ニ到ル場合

(6) 管轄區域外ニ於テ保險醫ノ診療ヲ受ケタル被保險者傷病ノ療養上管轄區域內ノ自宅ニ到リ保險醫ノ診療ヲ受クル最モ適當トシテ管轄區域外療養地ヨリ自宅ニ到ル場合

九、移送費用ノ範圍

イ、被保險者ノ移送ノ場合ニ於テハ移送ニ要シタル者ノ賃金、手當等（即チ吊臺ノ運搬夫、人力車ノ車夫等ノ賃金、手當等）ハ移送ニ要シタル費用ノ範圍ニ屬スルモノトス

ロ、被保險者移送ノ場合ニ於テ附添人チ附シタル場合ハ原則トシテ附添人ニ要シタル旅費ノミチ支給スベキモ特別ノ事情ニ依リ（疾病ノ性質上絕エズ監視チ必要トスル場合等）附添人チ傭入レタル場合ニ於テハ之ニ要スル費用チモ移送ノ給付トシテ支給スベキモノトス

ハ、被保險者ノ移送ノ爲傭入レタル人夫ガ移送ノ爲宿泊チ要スベキ場合ハ其ノ宿泊料ハ移送ノ費用トシテ支

拂フベキモノトス

ニ、被保險者ガ療養ノ給付ヲ受クルニ當リ保險者ヨリ移送ノ給付ヲ受ケズシテ任意ニ人力車、自動車、電車等ニ乘ジ診療所ニ至リ又ハ自宅ニ歸リタルガ如キ場合ニ於テハ右ノ人力車賃、自動車賃、電車賃等ハ當該被保險者ノ負擔ニ屬スルモノトス

一〇、醫師又ハ齒科醫師ノ往診車馬賃ヲ含マザルモノトス　健康保險ノ療養ノ給付ノ範圍ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ往診車馬賃ヲ含マザルモノトス

一一、死體輸送費　轉地シテ療養ヲ爲セル者療養地ニ於テ死亡シタルトキハ之ガ死體輸送費ハ保險者ニ於テ負擔スベキモノニ非ザルモノトス

一二、移送用ノ支拂先

イ、被保險者ノ移送ニ要シタル費用ハ當該被保險者ニ支拂フベキモノニ非ズシテ保險者ニ於テ移送ノ爲備入レタル車夫、自動車運轉手等ニ對シ直接支拂フベキモノトス

ロ、移送ハ移送費トシテ被保險者ニ對シ支給スベキモノニ非ズシテ移送ナル事柄ヲ支給スベキモノトス故ニ被保險者ハ移送ニ關スル費用ヲ移送ノ爲備入レタル車夫、自動車運轉手等ニ對シ支拂フベキモノトス但シ之ガ費用ヲ被保險者其ノ他ノ者ニ於テ立替ヘタル場合ニ於テハ該立替者ニ對シ支拂フモ支障ナキモノトス

一三、第二項ノ趣旨　施行令第七十四條第二項ノ規定ハ同條第一項第三號ノ給付即チ處置、手術其ノ他ノ治療ノ給付ハ原則トシテ一回二十圓以下ノ費用ヲ以テ爲シ得ル程度ノモノニ止ムル趣旨ノ規定タルモノトス即チ疾病又ハ負傷ニ付手術等ヲ要スル場合ニ於テハ之ガ費用ハ一回二十圓以下ノ額ヲ以テ爲シ得ル手術ヲ施スモノトス但シ緊急ノ場合其ノ他保險者ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ一回二十圓ヲ超ユル費用ヲ要スル手術等ヲ施スベキハ勿論トス

一四、施行令第七十四條第二項ノ「一回」ノ意義

イ、施行令第七十四條第二項ニ所謂「一回」トハ一度ヲ謂フモノトス故ニ一回ノ處置トハ處置ヲ爲シタル日ノ如何ニ拘ラズ實際ニ之ヲ爲シタル一度ノ處置ヲ謂フモノトス即チ一日ニ於テ處置ヲ二度無シタルモノトセバ二回ニシテ每日一度宛十日ニ渉リテ處置ヲ爲シタルモノトセバ十回ナルガ如シ

ロ、**カルモチン**中毒患者ガ數日間ニ「**リンゲル**」氏液注射ト酸素吸入トヲ併セテ受クル場合ト雖「**リンゲル**」氏液注射ト酸素吸入トハ異ル處置ナルヲ以テ施行令第七十四條第二項ノ適用ニ付テハ各別ニ取扱フモノトス故ニ孰モ一回ノ費用二十圓未滿トセバ之ガ處置ヲ爲スコトニ付保險者ノ承認ヲ受クルコトヲ要セズ

（參照條文）

施行規則第四十五條乃至第五十一條、健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル勅令施行ノ件

第七十五條

前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2.被保險者前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ、保險者ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

3保險者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

一、同一病院ト保險醫變更　被保險者ガ甲乙兩保險醫共同經營ニ係ル病院ニ於テ甲保險醫ノ診療ヲ受ケツツアリ

シニ甲保険醫事故ノ爲不在ナル場合乙保険醫ノ診療ヲ受ケントスル如キ場合ニ於テハ便宜保険醫變更ノ手續ヲ省略スルモ支障ナキモノトス

二、保険醫變更ノ承認ヲ爲スベキ場合

イ、保険醫變更ノ承認ハ大體左記ニ該當スル場合ニ於テ療養ノ給付ヲ受クル者ガ從來ノ保険醫ニ就キ引續キ診療ヲ受クルコトヲ甚ダ不都合トスル場合ニ限リ承認ヲ與フルモノトス

(1) 從來ノ保険醫ガ其ノ診療所ヲ移轉シタル場合
(2) 從來ノ保険醫ガ相當期間旅行スル場合
(3) 從來ノ保険醫死亡シタル場合又ハ相當期間疾病ニ罹リ若ハ負傷シタル場合
(4) 療養ノ給付ヲ受クル者ガ其ノ住所ヲ變更シタル場合又ハ相當期間旅行スル場合
(5) 療養ノ給付ヲ受クル者ノ勤務先變更シタル場合
(6) 其ノ他特別ノ事由アル場合

ロ、「其ノ他特別ノ事由アル場合」ノ事例

(1) 症狀ニ依リ專門醫ノ診療ガ必要又ハ不必要トナリタル場合
(2) 從來ノ保険醫辭任シ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタル場合
(3) 受診者ニシテ入院又ハ手術ガ必要トナリ從來ノ保険醫ニ其ノ設備ナキ場合
(4) 受診者ニシテ勤務時間變更ノ關係ヨリ又ハ積雪其ノ他交通上ノ事故ニヨリ或ハ病勢亢進シ特ニ從來ノ保険醫ニ通院スルコト困難トナリタル場合
(5) 從來ノ保険醫ガ醫師變更ヲ薦メタル場合
(6) 受診者歸鄉シ又ハ轉地療養ヲ爲ス場合
(7) 從來ノ保険醫ニ依ル治療經過良好ナラザル場合

第七十六條

前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ被保険者ハ保険者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

(參照條文)
政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ガ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ベキ醫師及齒科醫師竝藥劑師ニ關スル省令

第七十七條

左ノ場合ニ於テハ健康保険法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一　保険者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
二　被保険者カ保険者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保険者ノ申請アリタルトキ
三　被保険者カ緊急ノ場合ニ於テ保険者ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保険者ノ申請アリタルトキ

2　健康保険組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

一、被保險者歸鄉ノ場合　組合ノ管掌スル保險ノ被保險者歸鄉セシ場合其ノ鄉里ガ保險醫ノ診療ヲ受クルコト困難ナル地ナルトキハ施行令第七十七條第一項第一號ニ該當スルモノトス（法四四條）

二、資格取得届ノ提出ヲ怠リタル場合　事業主ガ被保險者資格取得届ノ提出ヲ怠リタル爲被保險者ガ傷病ノ事故發生スルモ療養ノ給付ヲ受ケ得ザル場合ニ於テ施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受クベキモノナルコトヲ正規ノ手續ヲ履ミテ届出タルトセバ療養費ヲ支給スベキモノトス（法一條、施行規則一〇條）

三、轉地療養ノ場合ノ療養日數　轉地療養ノ場合ニ於ケル療養日數ハ轉地療養先ヘ出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄トス（法四四條、四五條）

四、轉地ノ場合ニ於ケル療養費

イ、轉地療養ノ場合ニ於テハ入浴料及滯在宿料（食費ヲ含マズ）ハ療養費トシテ支給スベキモノノ範圍ニ屬スルモ食費ハ之ガ範圍ニ屬セザルモノトス（法四四條）

ロ、轉地療養ハ施行令第七十四條第一項第三號ノ「其ノ他ノ治療」ニ該當シ病院ニ收容シタル場合ト異ルモノニシテ右ノ治療ニハ食事ノ給與ハ之ヲ包含セザルモノナルヲ以テ隨テ轉地療養ノ場合ニ於ケル療養費ノ支給ニ付テモ食費ヲ含マザルモノトス（法四三條、四四條、施行令七四條）

ハ、轉地療養ノ場合ニ於ケル宿料ニシテ療養費トシテ支給スベキモノハ療養地ニ滯在ノ場合ニ於ケル宿料ニ限ルモノニシテ且食費ヲ除キタルモノヲ指スモノトス（施行令七四條、七八條）

ニ、轉地療養ノ場合ニ於テハ宿料、入浴料ノ如キハ療養費トシテ支給スベキモノトス又往復ノ旅費ハ之ヲ移送ノ給付トシテ保險者ニ於テ負擔スベキモノトス而シテ右ハ轉地療養ノ結果當該傷病ガ全治セシト否トニ拘ラズ又距離ノ遠近ヲ問ハザルモノトス（法四四條、施行令七四條）

五、接骨師ノ宅ニ滯在シテ手當ヲ受ケタル場合ニ於ケル療養費ノ範圍

イ、被保險者緊急ノ場合ニ於テ醫師又ハ齒科醫師以外ノ者卽チ接骨師又ハ鍼術若ハ灸術ノ營業者等ノ宅ニ滯在シ是等ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ要シタル食費ハ保險者ニ於テ支給スル療養費ノ中ニ含マザルモノトス（施行令七八條）

ロ、被保險者ガ接骨師ノ宅ニ滯在シテ接骨師ノ手當ヲ受ケタル場合ニ要シタル食費、寢具料及室代等ハ保險者ニ於テ支給スル療養費トシテ支給スベキモノトス（施行令七八條）

ハ、保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキハ接骨營業者ニ依リテ爲ス療養ニ付テモ療養費ヲ支給スベキモノトス又緊急ノ場合ニ於テ接骨營業者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テモ其ノ被保險者ノ申請アリ且保險者之ヲ認メタルトキハ療養費ヲ支給スベキモノトス（法四四條）

六、任意ニ療養ヲ爲シタル場合　被保險者ガ健康保險ノ療養ノ給付ヲ受クルノ外ニ醫師又ハ齒科醫師以外ノ者ニ依リテ任意爲シタル療養ニ付テハ組合ニ於テ療養費ヲ支給スベキモノニ非ザルモノトス但シ施行令第七十七條第一項第一號ニ依リ組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタル場合ハ療養費ヲ支給スベキモノトス（法四四條）

七、自費ヲ以テ入院セル場合ノ療養費　自費ヲ以テ入院セル被保險者ニ對シテハ施行令第七十七條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外療養費ヲ支給セザルモノトス（法四三條）

八、被保險者資格取得届出懈怠中ニ被保險者ガ保險醫ニ就キ診察ヲ受ケタル場合　被保險者ガ保險醫ニ就キ診療ヲ受ケタル當時事業主ハ其ノ者ノ被保險者資格取得ノ届出ヲ懈怠セルニ因リ當該被保險者ハ保險醫ヲ對シ被保險者タルノ身分ヲ證明シ得ザル狀態ニ在リシコトハ施行令第七十七條第一項第一號ニ該當スルモノトス（法四四條、施行規則一〇條）

九、傳染病院、隔離病舍等ニ收容セラレタル者ノ療養費ノ支給

イ、隔離病舍等ニ收容セラレタル者ノ療養ニ要スル費用ハ收容セラレタル者ノ負擔タルコトニ市町村ニ於テ規定ヲ以テ定メアル場合ニ於テハ該隔離病舍等ニ收容セラレタル被保險者ノ療養ニ要シタル費用ハ保險